

# 御経塚遺跡Ⅳ

兼 補遺編

2009

石川県野々市町教育委員会

# 御 経 塚 遺 跡 IV

兼 補遺編

2009

石川県野々市町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、御経塚遺跡（第18・23次）埋蔵文化財発掘調査報告書および補遺編である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県石川郡野々市町御経塚1・2・4・5丁目地内であるが、調査対象地は1丁目地内で、御経塚遺跡デト地区にあたる。
- 3 調査原因は、野々市町埋蔵文化財収蔵庫建設事業（第18次）、野々市町ふるさと歴史館建設事業（第23次）にともなうもので、現住所は御経塚1丁目182番地である。
- 4 調査は、野々市町教育委員会が実施し、調査にかかる費用は野々市町が負担した。
- 5 現地調査は、第18次調査が昭和57年4月～6月、第23次調査は平成3年4月～6月にかけて実施した。なお、本書において第18次調査は4区、第23次調査は3区として報告しており、報告書『御経塚Ⅲ』のデト地区における調査区名称と対応するものである。

調査面積・期間・担当者は下記のとおりである。

第18次調査	期 間	昭和57年4月30日～6月3日
	面 積	295㎡
	担当者	吉田 淳（野々市町教育委員会文化課）
第23次調査	期 間	平成3年4月15日～6月10日
	面 積	378㎡
	担当者	吉田 淳（野々市町教育委員会文化課）

- 6 出土品整理は昭和61・平成18・19年度に野々市町教育委員会が実施した。
- 7 本書の執筆・編集は、平成20～21年度にかけて、吉田 淳が担当した。
- 8 発掘調査及び本書の作成にあたっては下記の方々から御教示・指導を得た。記して深謝申し上げたい。  
荒川隆史、高田秀樹、高堀勝喜（故人）、谷口宗治、西野秀和、布尾和史、橋本澄夫、久田正弘、本田秀生、三浦純夫、南 久和、谷内尾晋司、山本直人、湯尻修平、吉田めぐみ（故人）、米沢義光（敬称略）
- 9 本書の各図・写真図版の指示は以下のとおりである。
  - (1) 本書での遺構図・地図等の方位はすべて真北を表示する。
  - (2) 水平基準は海拔高であり、(m)で表示する。
  - (3) 各図の縮尺は図に示すとおりである。
  - (4) 遺構平面図内の数字は遺物の出土地点を示し、この数字と遺物実測図番号、遺物一覧表番号、写真図版の遺物番号は対応する。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
  - (5) 遺構名の略号は竪穴建物(SI)、掘立柱建物および建物(SB)、土坑(SK)、溝(SD)、ピット(SP)とした。
- 10 本遺跡の出土遺物、記録資料は野々市町教育委員会が一括保管している。

# 目 次

第1章 調査の経過	
第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 概往の調査について	1
第2章 調査の成果	
第1節 3区の調査	5
第1項 遺構	
第2項 遺物	
図面図版 遺構・遺物実測図	11
第2節 4区の調査	23
第1項 遺構	
第2項 遺物	
図面図版 遺構・遺物実測図	30
第3章 3・4区調査の総括	43
第4章 補遺編	
第1節 遺物	44
図面図版 遺物実測図	49
第2節 土製品・石器・石製品の出土点数	61
第3節 縄文時代主要遺構の変遷	62
写真図版	71
3区の調査 1～5	
4区の調査 6～10	
補遺編 遺物 11～14	

巻末折込図 (S = 1 / 300) 1 : ブナラシ・デト地区 2 : デト地区 3 : ツカダ地区

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査の経緯と経過

本書に収録する御経塚遺跡第18・23次調査は、昭和57年度の野々市町埋蔵文化財収蔵庫建設事業及び平成3年度の野々市町ふるさと歴史館建設事業に伴うものである。野々市町埋蔵文化財収蔵庫建設は、史跡御経塚遺跡環境整備事業に併せ隣接地に出土品の収蔵と一部展示を目的としたもので、昭和58年5月に開館した施設である。また、野々市町ふるさと歴史館建設は、野々市町内における各時代の主要な埋蔵文化財の展示の充実と、整理作業施設を兼ねた施設建設で、平成4年5月に開館した。

第18・23次調査の期間および面積は、例言にて記述した。

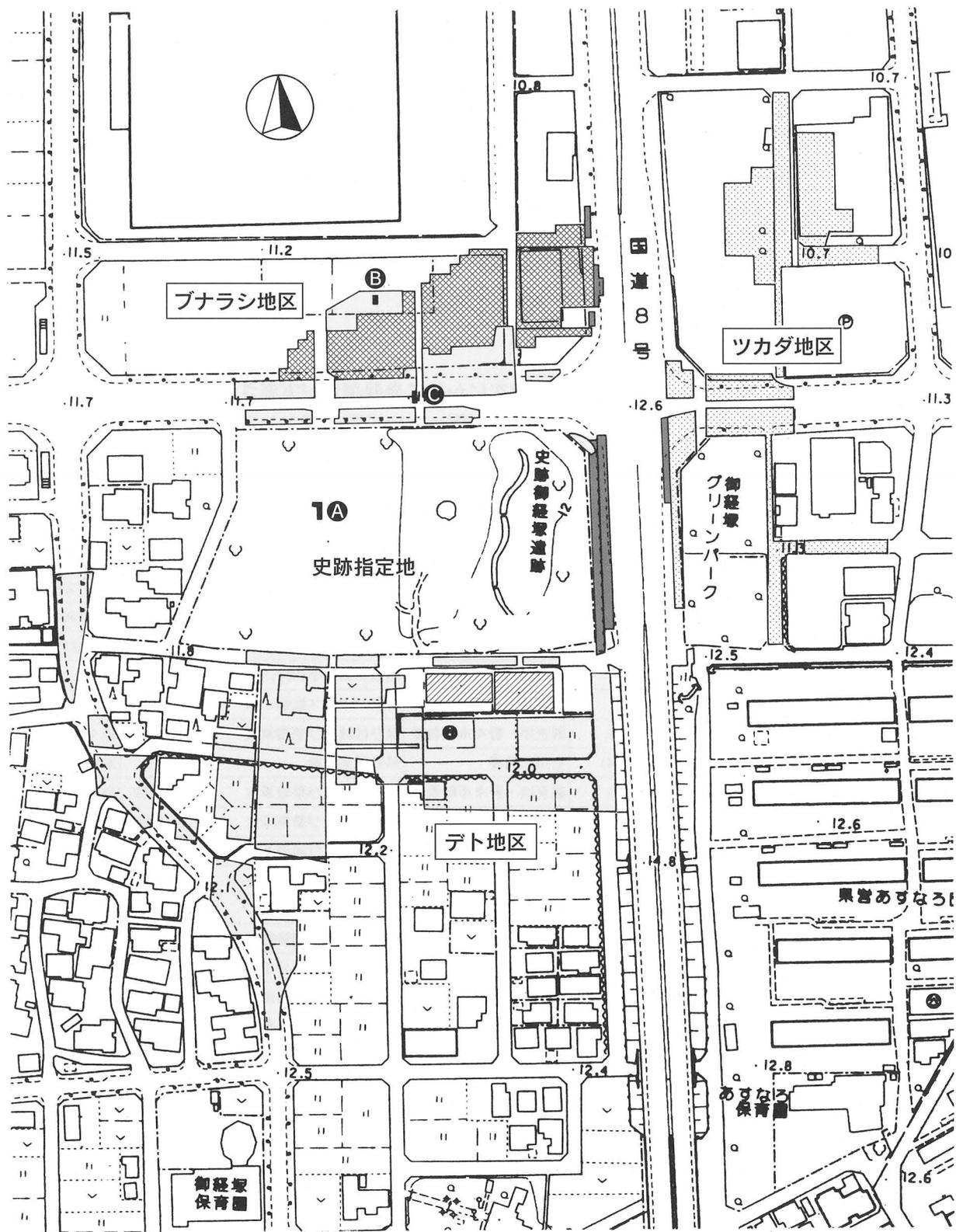
## 第2節 概往の調査について（第1図）

昭和31年の第1次調査から平成8年まで第28次にかけて発掘調査が実施されている。今後の開発に伴う緊急発掘調査が予定される地区は、国道8号東側において駐車場として現状保存されているツカダ地区が対象として残っている。概往の調査については調査原因により大きく6区分でき、概略を表1にまとめた。

一部面積の不明な調査があるが、御経塚遺跡における発掘調査面積の合計は22,084㎡である。

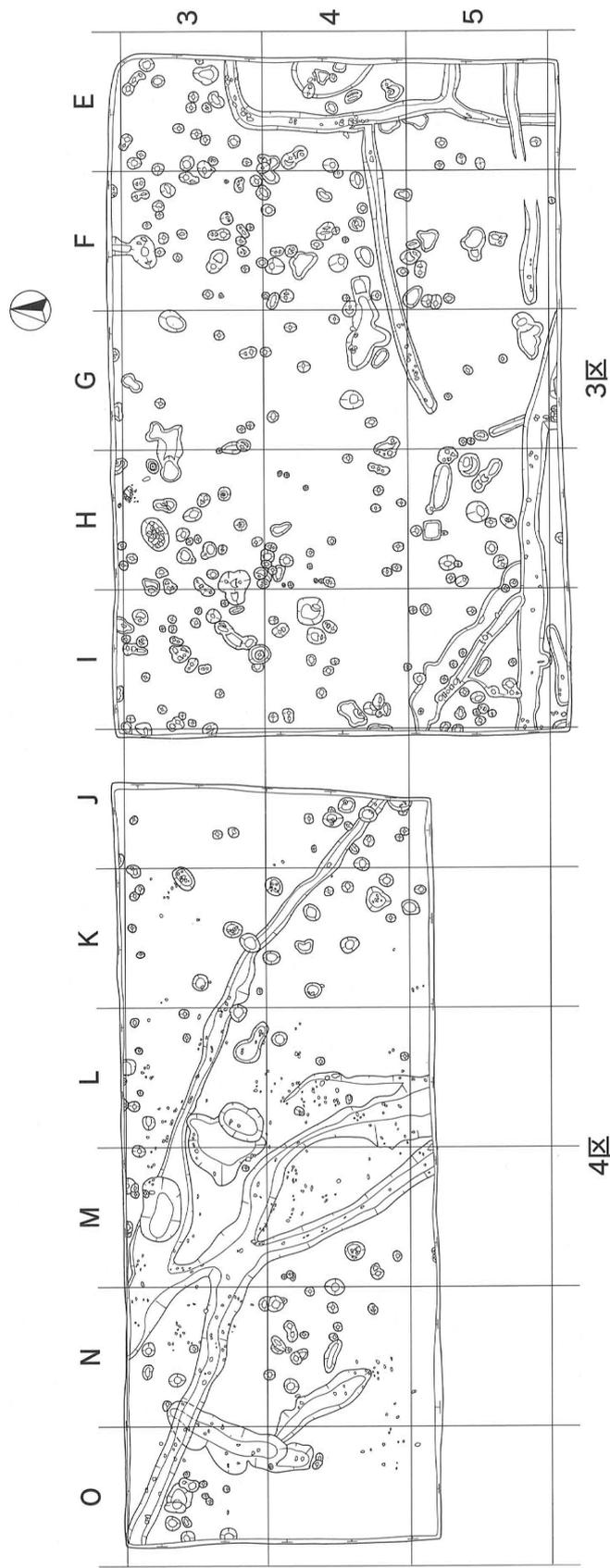
表1 調査一覧表（調査機関における調査団は石川考古学研究会を主体として組織されたもので、文献の野々市は野々市町教委を表す）

調査次	旧名称・地区等	調査年	調査機関	原因等	調査面積	文献
第1次	御経塚(1次)	昭和31年3月(1956)	押野村史編集委員会	村史編集	51	高堀1964
第2次	御経塚(2次)	昭和43年10月(1968)	調査団	金沢バイパス工事(現8号線)	70	高堀他1983
第3次	御経塚(3次)	昭和47年8月(1972)	調査団・石川県教委	農道拡幅工事(現石川広域農道)	400	〃
第4次	御経塚(4次)	昭和48年7～8月(1973)	調査団・石川県教委	金沢バイパス拡幅工事	650	橋本他1973
第5次	御経塚(5次)	昭和48年9～12月(1973)	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	1,873	野々市1983
第6次	御経塚B	昭和48～49年(1973～74)	石川県教委	県営住宅建設		湯尻1983
第7次	御経塚(6次)	昭和49年9～11月(1974)	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	1,035	高堀他1983
第8次	御経塚(7次)	昭和50年9～12月(1975)	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	1,164	〃
第9次	御経塚(8次)	昭和50年11～3月(1975～76)	調査団・石川県教委	広域農道取付国道8号線拡幅	350	〃
第10次	御経塚(9次)	昭和51年9～12月(1976)	調査団・野々市町教委	保存区域及び整備策定	580	〃
第11次	御経塚(10次)	昭和52年9～11月(1977)	調査団・野々市町教委	分布確認、住宅新築	150	〃
第12次	御経塚(11次)	昭和53年12月(1978)	野々市町教委	国道8号線東側遺構確認	208	〃
第13次	御経塚(12次)	昭和55年3月(1980)	野々市町教委	国道8号線東側分布確認	—	〃
第14次	ツカダ	昭和55年9～11月(1980)	野々市町教委	御経塚第1土地区画整理事業	840	野々市1984・1989
第15次	御経塚(13次)	昭和56年3月(1981)	野々市町教委	国道8号線東側分布確認	—	高堀他1983
第16次	ツカダ	昭和56年6～10月(1981)	野々市町教委	御経塚第1土地区画整理事業	2,100	野々市1982・1992
第17次	ツカダ	昭和56年10～12月(1981)	野々市町教委	御経塚第1土地区画整理事業	680	野々市1984・1989
第18次	御経塚	昭和57年4～6月(1982)	野々市町教委	埋蔵文化財収蔵庫建設	295	本書
第19次	ツカダ	昭和57年10～12月(1982)	野々市町教委	御経塚第1土地区画整理事業	700	野々市1984・1989
第20次	ツカダ	昭和58年5～7月(1983)	野々市町教委	御経塚第1土地区画整理事業	310	野々市1984・1989
第21次	デト	平成元年7～12月(1989)	野々市町教委	御経塚第2土地区画整理事業	3,470	野々市2003
第22次	デト	平成2年12月(1990)	野々市町教委	御経塚第2土地区画整理事業	190	〃
第23次	デト	平成3年4～5月(1991)	野々市町教委	ふるさと歴史館建設	378	本書
第24次	ブナラシ・デト	平成4年5～11月(1992)	野々市町教委	御経塚第2土地区画整理事業	1,120	野々市2003
第25次	ブナラシ・デト	平成5年4～12月(1993)	野々市町教委	御経塚第2土地区画整理事業	1,970	〃
第26次	ブナラシ・デト	平成6年6～12月(1994)	野々市町教委	御経塚第2土地区画整理事業	1,550	〃
第27次	デト	平成7年5～10月(1995)	野々市町教委	御経塚第2土地区画整理事業	1,620	〃
第28次	デト	平成8年5～6月(1996)	野々市町教委	御経塚第2土地区画整理事業	330	〃



- |                   |                          |
|-------------------|--------------------------|
| ■ 第1次調査 (A・B・C地点) | ▨ 第1期土地区画整理事業の調査         |
| ■ 国道8号線関連の調査      | □ 第2期土地区画整理事業の調査         |
| ▨ 国指定への調査         | ▨ 出土品展示収蔵施設建設の調査 (今回報告分) |

第1図 御経塚遺跡主要発掘調査区位置図 (S=1/2,500)



第2図 調査区全体図・グリッド図 (S=1/250)



第3図 3区遺構全体図 (S=1/120)

## 第2章 調査の成果

3区では、縄文時代の埋設土器1基、土坑6基、弥生時代末期の掘立柱建物2棟、土坑4基、区画すると考えられる溝等を検出している。4区では、縄文時代の土坑8基、古墳時代後期～古代の掘立柱建物1棟、溝等を検出している。

調査区の基本層序は、まず水田関係の耕土と床土があり、以下順に、小礫の混入する黄灰褐色砂質土層、暗褐色粘質土、灰褐色粘質土、地山となる。なお、4区においても基本的な相違は無い。

遺構及び遺物は、区別に報告することとし、遺物の記述については一覧表とした。またその記述は実測図からでは確認しづらい点を主に行ない、記述を割愛したものが多い。網代圧痕は「超えー潜りー送り」とし材料の本数を記した。土製品や石製品の祭儀具は出来るだけ多くを掲載したが、石器については典型的なもの抽出して図示した。なお、地区名や遺構の名称は、野々市町教委2003『御経塚遺跡Ⅲ』のデト地区の報告時点で検討したもので、遺構名の重複はない。

### 第1節 3区の調査

#### 第1項 遺構

##### 1 縄文時代

###### 1) 埋設土器

###### 6号埋設土器 (第4図・第6図1)

H3グリッドに位置し、底部を欠いた深鉢を横位とする土器棺で、口縁方向はN125° Eである。

###### 2) 土坑 SK04～07・09～11 (第4図)

土坑とした6基は、穴遺構のなかで大きめのものを土坑にしたもので、判断はあいまいである。縄文土器が出土した土坑を本時期に帰属させている。記述は一括しておこなうが、図示した出土遺物の図番号を( )内で示した。

SK04はG3・H3グリッドに位置する。不整な楕円状を呈し、規模は140(推定)×90cm、深さ21cmである。

SK05はF4・G4グリッドに位置する。土坑3基の複合か。楕円状を呈し、判断できたものの規模は150(推定)×100cm、深さ21cmと、140(推定)×80cm、深さ22cmである。

SK06はG5グリッドに位置する。不整な楕円状を呈し、規模は140(推定)×70cm、深さ27cmである。

SK07はH3グリッドに位置する。楕円状を呈し、覆土内には5～35cmの自然石が多数混入していた。規模は124×80cm、深さ20cmである。出土土器から長竹式期の土坑であろう(第6図2・3)。

SK09はH5グリッドに位置する。長楕円状を呈し、規模は170×60cm、深さ6cmである。

SK10はH5グリッドに位置する。略円形を呈し、規模は78×76cm、深さ34cmである。

SK11はI3グリッドに位置する。略円形を呈し、規模は100(推定)×50cm、深さ9cmである。

##### 2 弥生時代～古墳時代初頭

###### 1) 掘立柱建物

###### SB07 (第5図)

E・F3～4グリッドに位置する。2間×1間配置の6本柱建物で、規模は4.4×3.4m、面積は15.0㎡、桁行方位はN6° Wである。柱穴間は、桁行のP1～2間2.0m、P2～3間2.4m、P4～5間2.0m、P5～6間2.4mである。梁行P1～4・梁行P3～6間は、3.4mである。略円形の柱穴は径40～64cmで、深さ31～61cmである。月影期の土器小片が出土したことから本時期に判断した。

###### SB08 (第5図)

H・I5グリッドに位置する。未検出の柱穴があるが、2間×1間配置の6本柱建物と考えられる。

規模は4.4×3.7m、面積は16.3㎡、桁行方位はN64° Eである。柱穴間は、桁行のP1～2間2.2m、P2～3間2.2m、P3～P4間3.7m、である。略円形の柱穴は径35～44cmで、深さ30～36cmである。月影期の土器小片が出土したことから本時期に判断した。

## 2) 土坑 SK01～03・08 (第4・5図)

月影Ⅱ式～白江式期の土器小片が出土した土坑を本時期に帰属させている。

SK01はE4グリッドに位置するが、約1/2の検出にとどまる。形状は楕円状と考えられ推定規模は280×190cmで、深さは12cmである。

SK02はF3グリッドに位置する。楕円状を呈し、規模は104(推定)×80cm、深さ60cmである。

SK03はG3グリッドに位置する。不整な楕円状を呈し、規模は100×70cm、深さ24cmである。

SK08はH3グリッドに位置する。楕円状を呈し、規模は114×80cm、深さ33cmである。

## 3) 区画溝 SD01 (第5図)

SD01は方形に区画する溝と考えられ、南西部隅に溝SD01bが接続するが、約1/4程度の検出であろう。区画の大きさは溝の内側で南北方向4.8mを測る。SD01の幅は30～50cm、深さ13～17cmである。SD01bの幅は25～50cm、深さ8～12cmである。

## 3 古代

検出された溝SD04・05は、灰褐色砂質土を覆土とするもので、後述する4区の調査状況等から古代に所属しよう。東西方向のSD04は、幅50～90cm、深さは5～11cmで東側が低く東流していたものであろう。当該期の出土遺物はみられなかった。

## 第2項 遺物

### 1 縄文時代

#### 1) 土器 (第6～9図1～56・表2)

土器については、実測図を第6～9図に、器種、出土遺構、出土グリッド、層位、法量、備考、遺存部、形式については表2において表記した。

文様を有する土器等の型式については以下のとおりとしている。出土土器は後期中葉後半期からみられ、その中葉後半期は酒見式とし、後期後葉の前半は、井口1式(井口Ⅱ式前半)・井口2式(井口Ⅱ式後半)、後半は八日市新保1式・八日市新保2式とした。晩期は御経塚1～3(B～BC1)・中屋1(BC2)・中屋2(C1前半)・中屋3(C1後半)・下野(C2)・長竹(A)とし、並行する大洞編年を( )と考えた。しかし、小片や粗製土器については不明な部分が多くあり、また筆者の力量不足から型式細分が出来ていないものも多い。

後期から晩期の前半は、小島・西野・酒井1994、西野2008、酒井2008の編年に、後半は久田1998・2004、酒井2008を、また全般的に南2001を参考としている。野々市町教委2003と同様であり、第2節4区の調査および第4章補遺編の遺物についても同様と考えていただきたい。

#### 2) 石器・石製品 (第10～15図・表3)

石器・石製品については、実測図を第10～15図に、器種、出土遺構、出土グリッド、層位、法量、分類、備考、石質、遺存率を表3において表記した。石器の分類は野々市町教委2003と同様であり、第2節4区の調査および第4章補遺編についても同分類である。

石器の器種別出土点数は、打製石斧123点、磨石29点、敲石28点、石錘1点、磨製石斧10点、石皿9点、砥石10点、石鏃13点、石錐5点、削器1点で、出土合計点数は229点である。

石製品の器種別出土点数は、石棒9点、石刀5点、石冠3点、垂飾(垂玉)1点で、出土合計点数は18点である。

①打製石斧(第10・11図1～14) 打製石斧は、123点出土した。完形とほぼ完形はそのうち19点である。打製石斧の分類は形態を基に以下のとおりの組合せとした。

- I 短冊形 1 側縁がほぼ直線的なもの 2 側縁がやや内曲するもの 3 側縁がやや膨らむもの  
 A円刃のもの B直刃のもの C偏刃のもの
- II 撥形 1 側縁がほぼ直線的なもの 2 側縁がやや内曲するもの 3 側縁の内曲が強いもの  
 A円刃のもの B直刃のもの C偏刃のもの
- III 分銅形 A円刃のもの B直刃のもの C偏刃のもの

②磨石 (第11図・第12図15~25) いわゆる磨石・敲石・凹石であるが、磨ってあるものを磨石とし、磨っていないものは敲石とした。磨石は29点出土した。完形とほぼ完形はそのうち18点である。磨石の分類は痕跡を基に以下のとおりとした。

- I 磨痕だけみられるもの  
 II 磨痕と凹があるもの IIb 平面部にも敲痕がみられるもの  
 III 磨痕と側縁に敲痕があるもの IIIb 平面部にも敲痕がみられるもの  
 IV 磨痕と凹、敲痕があるもの

③敲石 (第12図・第13図26~32) 磨痕がみられず敲痕のあるものを敲石とした。敲石は28点出土した。完形とほぼ完形はそのうち20点である。敲石の分類は痕跡を基に以下のとおりとした。

- I 凹だけみられるもの  
 II 凹と側縁に敲痕があるもの IIb 平面部にも敲痕がみられるもの  
 III 側縁に敲痕だけみられるもの IIIb 平面部にも敲痕がみられるもの

④石錘 (第13図33) 石錘は1点の出土である。石錘の分類は紐掛け部の造作により以下のとおりとした。

- A 1 打欠いたもの (磔石錘)  
 B 1 切目をいれたもの (切目石錘) B 2 細い溝を縦に廻らすもの (有溝石錘)  
 C 1 敲打溝が全周するもの (敲打有溝石錘) C 2 側縁に敲打溝があるもの (敲打有溝石錘)  
 C 3 側縁の敲打溝が不鮮明なもの (敲打有溝石錘)

⑤磨製石斧 (第13図34~39) 磨製石斧は、10点出土した。ほぼ完形はそのうち4点である。磨製石斧の分類は野々市町教委1983を参考に以下の組合せとした。

- A 定角式形 B 乳棒状形  
 1 大形 (長9cm以上、幅5~7cm) 2 中形 (長6.5~9cm、幅3.5cm前後)  
 3 小形 (長5cm前後、幅2.5~4cm) 4 最小形 (長3.5~5cm、幅1.5~2cm)

⑥石皿 (第13図・第14図40~43) 石皿は、9点出土したが、いずれも遺存状態は悪く全体の20~40%程度である。石皿の分類は埴田1999と形態により以下のとおりの組合せとした。

- I 有縁形 II 無縁形 III 無縁板状形  
 A くぼみの深いもの B くぼみの浅いもの C 平坦なもの D 側縁方向へ緩く傾斜するもの (無縁のみ)

⑦砥石 (第14図44~48) 砥石は10点の出土であるが、遺存率が50%を超えるものはみられない。分類は宮下1983を参考に使用状況と形態、断面の形状 (下記のA~I) から以下のとおりの組合せとした。

- I 有溝のもの (緩い溝のものはIY) II 無溝のもの III 打製石斧の刃部に似た形状  
 IV 定形化したもの (野々市教委1983での砥石状石製品) IVb 定形化したものでかつ小形 (10cm以下)

- A 楕円形 B カマボコ形 C 扁平形 D 正方形 E 三角形 F 不定形 G 長方形 H 台形 I 方形

⑧石鏃 (第15図49~56) 石鏃は13点の出土で、多くが遺存80%以上のものである。石鏃の分類は鈴木1981を参考として以下の組合せとしている。

- A 無茎鏃 1 基部に抉入りがあり三角形のもの (凹基無茎三角形鏃)  
 2 基部が直線的で三角形のもの (平基無茎三角形鏃)  
 3 基部に抉入りがあり五角形のもの (凹基無茎五角形鏃)  
 4 基部が直線的で五角形のもの (平基無茎五角形鏃)

- B有茎鏃 1 基部に抉入りがあり三角形のもの（凹基有茎三角形鏃）  
 2 基部が直線的で三角形のもの（平基有茎三角形鏃）  
 3 基部が突出する三角形のもの（凸基有茎三角形鏃）  
 4 五角形状のもの（凸基有茎五角形鏃）

- C尖・円基鏃 1 基部が尖るもの  
 2 基部が丸いもの

⑨石錐（第15図57～61）石錐は5点の出土である。石錐の分類は矢島・前山1983に拠ったもので、基本分類は下記とおりであるが詳細は参照願いたい。

- A 全体の形状が棒状をなすもの  
 B 明瞭なつまみ状の頭部をもつもので錐部の長いもの。  
 C 明瞭なつまみ状の頭部をもつもので錐部の著しく短いもの。  
 D 錐部がしだいに太くひろがり、頭部との区分が不明瞭なもの。  
 E 棒状あるいは長三角形の剥片の先端に微弱な調製加工を加え、そのまま石錐として用いたもの。

⑩削器（第15図62）削器は1点の出土である。

⑪石棒・石刀（第15図63～66）石棒は9点の出土で、頭部が遺存する63・64を図示した。石刀は5点の出土で頭部が遺存する65・66を図示した。

⑫石冠（第15図67・68）石冠の出土は3点で、2点を図示した。68は石鋸形である。

⑬垂飾（第15図69）垂玉1点の出土である。

## 2 弥生時代～古墳時代初頭

### 1) 土器（第9図57～73・表2）

調査区東側のE～Fグリッドに出土分布傾向がみられるもので、時期的には月影Ⅱ式～白江式に属するものである。

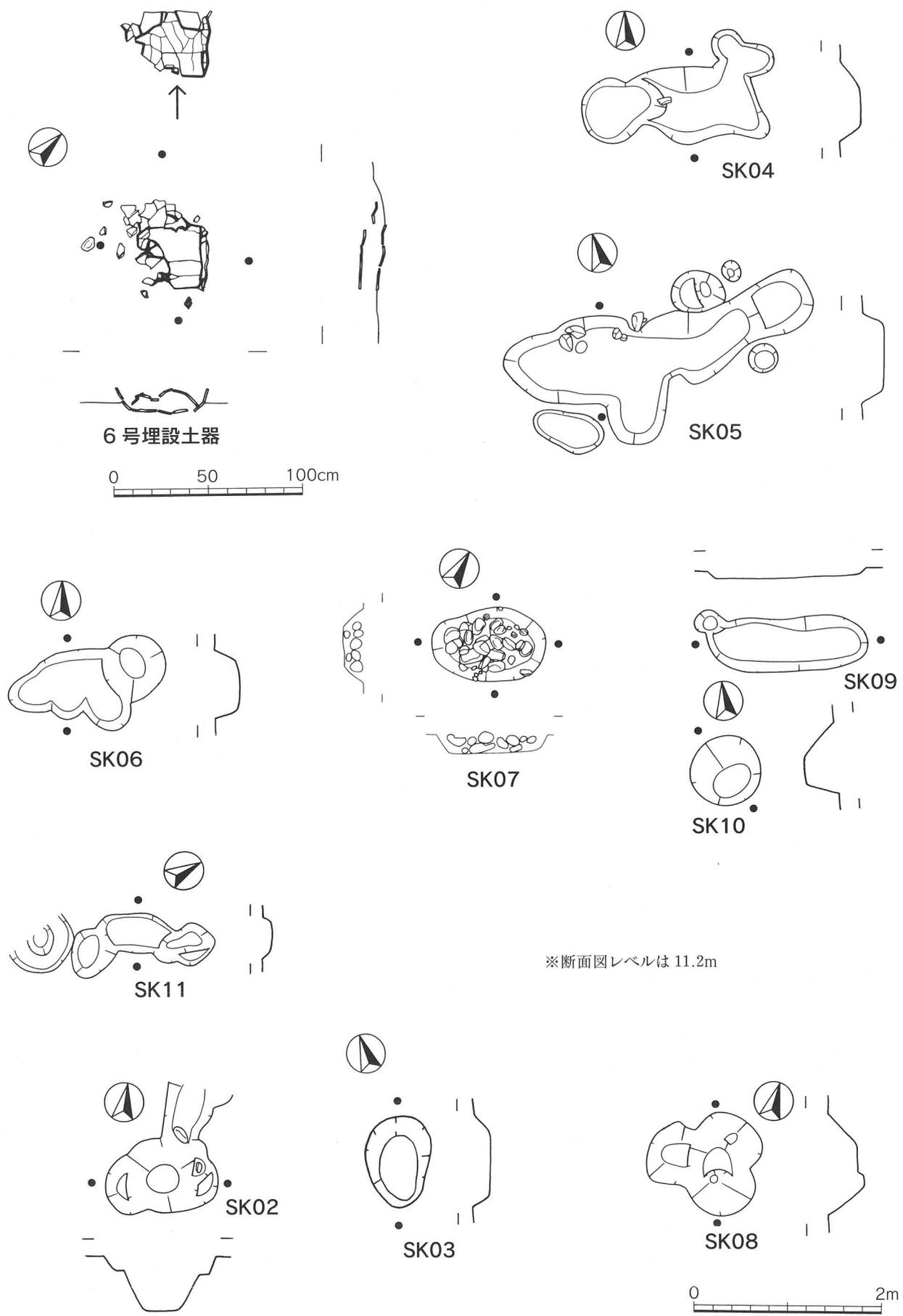
表2 3区土器一覧表（第6～9図）

図	番号	器種	出土遺構	グリッド	層位	法量 (mm)・備考	遺存等	時期
6	1	深鉢	6号埋設土器	H3		口径420、胴径414、粗製、斜条痕文、尖口唇	口縁～胴下半部	中屋3～下野
	2	皿	SK07	H3		口唇部連続押圧、内面幅広沈線3	口縁部	長竹
	3	浅鉢	SK07	H3		楕円区画工字状文、外面スス付着	口縁部	長竹
	4	深鉢	SK11	H3	BG	沈線文、円形押圧文、条痕文、外面スス付着	口縁部	井口2
	5	深鉢	SP13	F5		連続円形押圧文、外面スス付着	口縁部	長竹
	6	深鉢	SP14	G3		沈線間押引短沈線文、外面スス付着	口縁部	長竹
	7	深鉢	SP15	G5		くの字状口縁、条痕文、口唇部押圧、内面沈線1、外面スス付着	口縁部	中屋3
	8	浅鉢	SP16	H3		沈線文、縦隆帯1対、外面スス付着	口縁部	井口2
	9	深鉢	SP17	H3		沈線文、円形押圧文、外面スス付着	口縁部	八日市新保1
	10	浅鉢	SP18	H5		菱形区画、列点文、赤彩、外面スス付着	胴部	長竹
7	11	深鉢		E3	B	口径107、頸径90、胴径122、底径70、器高148、蛇行沈線文、沈線内刻目文	口縁～底部	下野
	12	壺		E3	B	口径225、胴径300、くの字状文・列点文、口唇部肥厚、外面スス付着	胴上半部	下野
	13	浅鉢		E3	BG	沈線文	口縁部	下野
	14	浅鉢		E3	BG	幅広沈線文	口縁部	下野
	15	壺	SD01a	E4		押圧文・幅広沈線隆帯、条痕文	肩部	長竹
	16	深鉢		F3	B	頸部列点文	口縁部	下野
	17	壺		F3	B	口唇部押圧、幅広沈線文	口縁部	長竹
	18	深鉢		F3	B	幅広沈線間列点文	口縁部	長竹
	19	壺		F3	BG	2条沈線文2段、斜条痕文	肩部	長竹
	20	深鉢		F3	B	沈線文、列点文、縦条痕文	胴部	長竹
	21	壺		F3	B	列点文、楕円状区画文（線描順は入組的）	胴部	下野
	22	浅鉢		F3	B	沈線文、口唇部三角形の刻み	口縁部	下野
	23	浅鉢		F3	B	沈線文、口唇部連続押圧、内面幅広沈線3、外面スス付着	口縁部	長竹

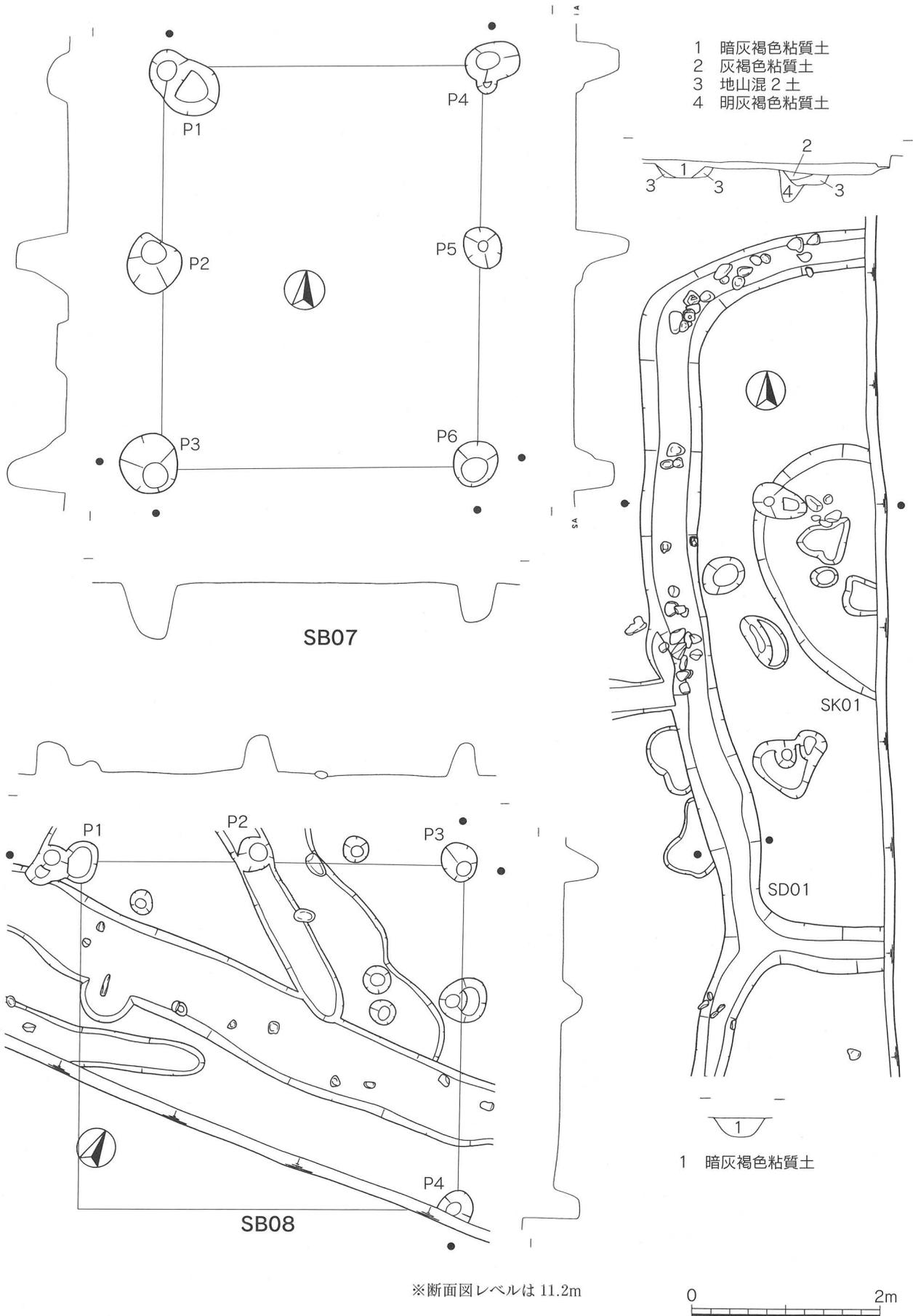
図	番号	器種	出土遺構	グット	層位	法量 (mm)・備考	遺存等	時期	
7	24	深鉢		F4	BG	胴径240、弧線文+逆C字状文、LR縄文、外面スス付着	胴部	中屋3	
	25	浅鉢		F4	BG	口径305、沈線文、口縁部一部細波状、赤彩痕	底部欠損	下野	
	26	浅鉢		F5	B	小波状口縁、眼鏡状突帯、楕円区画LR縄文	口縁～胴部	下野	
	27	壺		G3	B	口唇部面取、縦条痕文	口縁部	長竹	
	28	鉢		G3	B	工字文、文様帯下部眼鏡状の隆帯、外面スス付着	口縁部	長竹	
8	29	深鉢		G4	B	口径275、口唇部連続押圧、斜条痕文、外面スス付着	口縁～胴下半部	中屋3	
	30	蓋		G4	BG	列点文、LR縄文	口縁部	中屋2	
	31	深鉢		G5	B	くの字状口縁、斜条痕文、押引刺突沈線	口縁部	下野	
	32	壺	SD04	G5		沈線間列点文、口唇部短沈線、内外赤彩	口縁部	長竹	
	33	鉢		G5	B・BG	小突起、口唇部沈線文、沈線文、突起、円形列点文、外面スス付着	口縁部	長竹	
	34	深鉢		H3	BG	内湾口縁、沈線文、LR縄文	口縁部	御経塚	
	35	鉢		H3	B・BG	口径90、台形状区画	口縁～胴部	下野	
	36	深鉢		H3	B	沈線間列点文、斜条痕文	口縁部	長竹	
	37	鉢		H3	BG	突起、浮線網状文系文様か、外面スス付着	口縁部	長竹	
	38	深鉢		H3	BG	口唇部刻目、刻目凸帯、外面スス付着	口縁部	長竹	
	39	深鉢		H3	BG	口唇部刻目、無刻目凸帯、外面スス付着	口縁部	長竹	
	40	壺		H3	B	口縁端押圧凸帯	口縁部	長竹	
	41	浅鉢		H4	BG	LR縄文	口縁部	御経塚	
	42	深鉢		H4	B	口唇部刻目、沈線間短沈線、縦条痕文	口縁部	下野	
	43	浅鉢		H4	B	刻目文、外面スス付着	口縁部	中屋3	
	44	壺		H4	B	口縁端無刻目凸帯	口縁部	長竹	
	45	浅鉢		H5	B	口唇部隆帯、LR縄文帯、内外面段	口縁部	中屋1	
	46	深鉢		H5	B	口縁端押圧凸帯、横条痕文、外面スス付着	口縁部	長竹	
	47	浅鉢		H5	BG	工字文	口縁部	長竹	
	48	深鉢		I2	BG	LR縄文帯、内面幅広沈線文	口縁部	御経塚1	
	9	49	深鉢		I3	B	B字状突起(一部欠)、沈線間刻目文	口縁部	中屋2
		50	深鉢		I3	B	口径144、胴径178、くの字状口縁、LR縄文	口縁～胴部	中屋3
		51	深鉢		I3	B	押引列点文、斜条痕文	口縁部	中屋3
		52	深鉢		I3	B	沈線文	口縁部	中屋
53		浅鉢		I3	B	列点文、LR縄文帯、外面スス付着	口縁部	中屋2	
54		浅鉢		I3	B	口径342、口唇部三角形刻目と刻目交互、雲形文、LR縄文、赤彩痕	口縁部	中屋3	
55		深鉢		I4	BG	くの字状口縁、縦条痕文、頸部刻目文	口縁部	下野	
56		深鉢		I4	B下層	口唇部刻目、刻目凸帯	口縁部	長竹	
57		甕	SD03	E5		口径178、指頭圧痕、外面スス、赤色粒	口縁部	月影II～白江	
58		高坏	SD04	G5		外面ミガキ、磨耗著しい	坏部	〃	
59		壺		E3	B	口径123、疑凹線11条	口縁部	〃	
60		裝飾器台		E3	B	外面赤彩、ミガキ、スス付着。内面ミガキ	受部	〃	
61		器台		E3		外面赤彩・ミガキ、内面ケズリ	柱状部	〃	
62		甕		E4	B	口径276、疑凹線8条、指頭圧痕	口縁部	〃	
63		甕		E4	B	口径152	口縁部	〃	
64		甕		E4・5	B	口径220、外面スス付着、内面磨耗	口縁部	〃	
65		甕		E4	B	口径139、スス付着、内外面磨耗著しい	口縁・底部	〃	
66		壺		E4	B	口径128、外面磨耗	口縁部	〃	
67		台付壺		E4	B	胴径82、底径56、外面赤彩	口縁欠損	〃	
68		高坏		E4	B	口径73、底径84、器高59、内面磨耗著しい	坏～裾部	〃	
69		甕		E5	B・BG	口径163、疑凹線4条、外面スス付着	口縁部	〃	
70		高坏		E5	B	脚径157、外面磨耗	脚部	〃	
71		甕		F4	B	口径180、外面スス付着	口縁部	〃	
72		甕		F4	B	口径168	口縁部	〃	
73		甕		F5	B・BG	口径178、疑凹線6条、指頭圧痕	口縁部	〃	

表3 3区石器・石製品一覧表 (第10~15区)

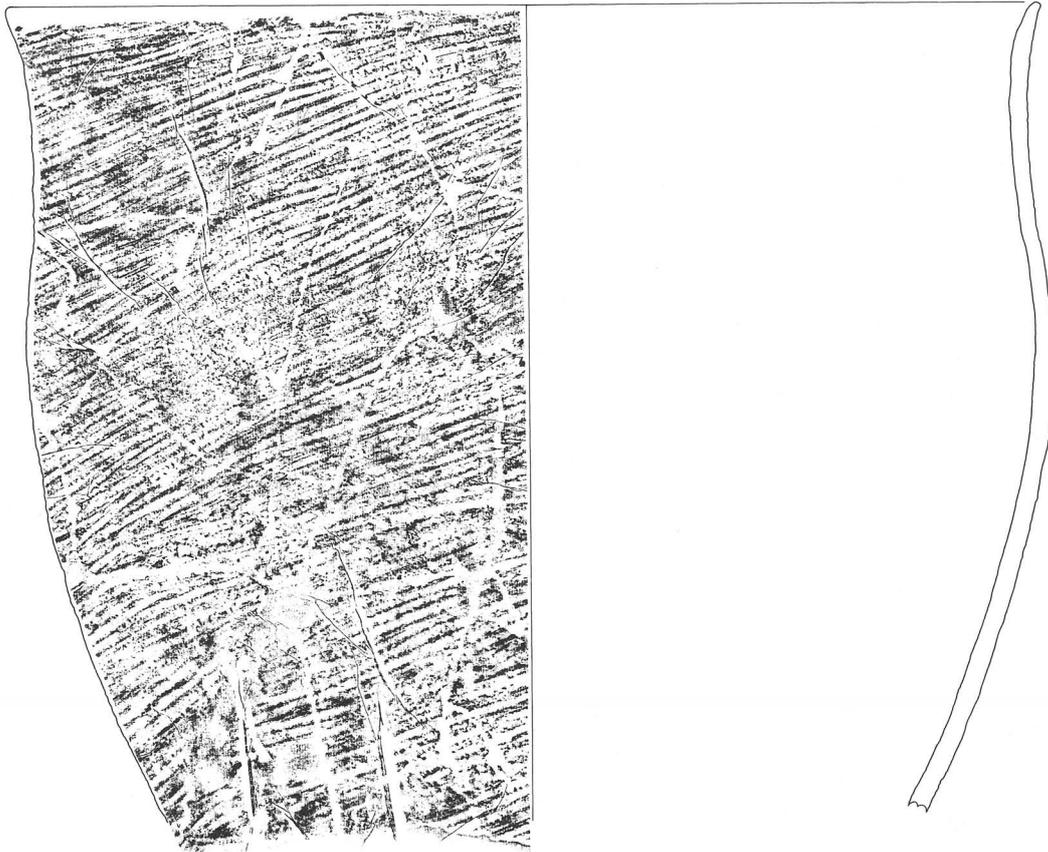
区	番号	器種	出土遺構	グロット	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	分類		石質	遺存率
10	1	打製石斧	SP19	F5		(165)	65	29	(315)	I 3B	短冊形、円刃	石英安山岩	95%
	2	打製石斧		I3	B	126	62	28	295	II 1B	撥形、円刃	砂岩	100%
	3	打製石斧		H4	B	(155)	85	35	(650)	II 2A	撥形、直刃	火山礫凝灰岩	95%
	4	打製石斧		I4	B下層	(117)	70	28	(265)	II 1B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	95%
	5	打製石斧		I4	B	172	76	31	505	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	100%
	6	打製石斧	SD04	G5		187	101	35	840	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	100%
	7	打製石斧		F3	B	123	77	27	295	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	100%
	8	打製石斧		E5	BG	(157)	96	37	(545)	II 2B	撥形、円刃	緑色凝灰岩	95%
	9	打製石斧		H4	B	(135)	82	22	(340)	II 2B	撥形、円刃	砂岩	95%
11	10	打製石斧		H5	BG	147	90	35	450	II 3B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	100%
	11	打製石斧		H5	B	(160)	109	34	(690)	II 3B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	95%
	12	打製石斧		H5	B	(142)	(87)	18	(250)	II 3B	撥形、円刃	緑色凝灰岩	80%
	13	打製石斧		M5	B	131	80	23	245	II 3B	撥形、円刃	砂岩	100%
	14	打製石斧		G3	BG	(115)	(72)	13	(130)	II 3B	撥形、円刃	石英安山岩	70%
	15	磨石		I4	B	76	75	58	447	III	敲、円形	砂岩(粗粒)	100%
	16	磨石		F5	BG	105	103	55	886	III	磨、敲、円形	砂岩	100%
	17	磨石		F5	BG	100	91	39	536	IV	磨、凹、敲、楕円形	砂岩(粗粒)	100%
	18	磨石		G3	BG	92	77	47	489	IV	磨、凹、敲、楕円形	凝灰岩	100%
12	19	磨石		G3	B	90	79	47	471	IV	磨、凹、敲、楕円形	砂岩(粗粒)	100%
	20	磨石	SP20	H3		137	83	26	432	IV	磨、凹、敲、楕円形	砂岩	100%
	21	磨石		G5	B	126	82	31	483	IV	磨、凹、敲、楕円形	砂岩	100%
	22	磨石		G5	B	121	90	35	566	IV	磨、凹、敲、楕円形	砂岩	100%
	23	磨石	SD04	I5		131	74	52	714	IV	磨、凹、敲、長楕円形、被熱	砂岩	100%
	24	磨石		H4	B	121	72	40	548	IV	磨、凹、敲、長楕円形	緑色凝灰岩	100%
	25	磨石		I5		102	74	44	449	IV	磨、凹、敲、楕円形	砂岩	100%
	26	敲石		F5	BG	87	79	55	506	III	敲、円形、被熱、亀裂あり	砂岩	100%
	27	敲石		H4	B	77	74	48	377	III	敲、円形	砂岩	100%
13	28	敲石	SD04	H5		95	81	47	500	II b	敲、凹、楕円形	砂岩	100%
	29	敲石		I3	B	109	74	38	493	II	敲、凹、楕円形	砂岩(粗粒)	100%
	30	敲石		F3	B	115	57	43	405	II	敲、凹、長楕円形	砂岩(粗粒)	100%
	31	敲石		F3	BG	119	51	30	271	II	敲、凹、長楕円形、被熱、亀裂	砂岩	100%
	32	敲石	SK07	H3		128	72	45	510	II	敲、凹、長楕円形、被熱、亀裂	凝灰岩	100%
	33	石錘		G3	BG	69	118	51	586	C1	敲打有溝、楕円形、横形	砂岩(粗粒)	100%
	34	磨製石斧		不明		115	58	23	(250)	A1	定角大形	流紋岩	90%
	35	磨製石斧		G5	B	(63)	(51)	(24)	(132)	A1	定角大形	蛇紋岩	50%
	36	磨製石斧	SD04	H5		(55)	(45)	(27)	(84)	A1	定角大形	流紋岩	50%
14	37	磨製石斧		G4	B	(54)	37	11	(31)	A3	定角小形	蛇紋岩	95%
	38	磨製石斧		I3	B	45	(25)	9.4	(15)	A3	定角小形	珪質岩	90%
	39	磨製石斧		H3	BG	56	22	8	(17)	A3	定角小形	流紋岩	90%
	40	石皿		G3	BG	(108)	(155)	55	(792)	II A	無縁、深く凹、不定形、被熱	凝灰岩	20%
	41	石皿		H5	B	(112)	(93)	31	(526)	II B	無縁、深く凹、不定形、被熱	砂岩	40%
	42	石皿		F3	B	(125)	(96)	41	(634)	II C	無縁、平坦、楕円形	砂岩	20%
	43	石皿		G5	B	(125)	(98)	67	(1270)	II C	無縁、平坦、楕円形	砂岩(粗粒)	20%
	44	砥石		F4	B	132	(74)	28	(446)	I YC	緩溝、楕円形	安山岩	50%
	45	砥石		F3	B	(157)	163	67	(2180)	II A	無溝、楕円形	砂岩	40%
15	46	砥石		G3	B	(141)	124	62	(1570)	II A	無溝、長楕円形	砂岩	50%
	47	砥石		H4	BG	(77)	55	10	(68)	II C	無溝、船形	砂岩	50%
	48	砥石		H5	BG	(60)	(40)	5	(13)	II C	無溝、手持ち	砂岩	30%
	49	石鏃		G5	B	29	16	6	2	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	50	石鏃		I5	B	23	17	7	1.7	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	51	石鏃		F5	B	(19)	(17)	2	(0.7)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	95%
	52	石鏃		F3	B	14	15	2	0.3	A1	凹基無茎、三角形	フリント	100%
	53	石鏃		F5	B	18	13	4	0.8	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	100%
	54	石鏃		I3	B下層	22	16	6	1.3	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	100%
15	55	石鏃		F3	B	26	(13)	5	(1)	A3	凹基無茎、五角形	フリント	60%
	56	石鏃		F4	BG	(28)	17	7	(3.7)	C2	円基、三角形	フリント	95%
	57	石錐		E4	B	(33)	(18)	6	(2.5)	B1	全体加工、有頭、棒状	フリント	95%
	58	石錐	SP21	I3		(22)	(20)	5	(2.6)	B1	全体加工、有頭、棒状	フリント	50%
	59	石錐		I3	B下層	(27)	(14)	8	(2.1)	D1	全体加工、三角形	輝石安山岩	95%
	60	石錐		G4	BG	(27)	24	7	(3.8)	D1	両端加工、三角形	輝石安山岩	95%
	61	石錐		I3	B	28	(13)	4	(2)	D2	両端加工、三角形	フリント	70%
	62	削器		H3	B	(47)	(18)	4	(6)			輝石安山岩	30%
	63	石棒		H4	B	(158)	(36)	(15)	(160)			粘板岩	30%
	64	石棒		F3	B	(290)	105	75	(2950)			凝灰岩	40%
	65	石刀		G3	B	(77)	31	(24)	(65)		頭部、線刻	緑色片岩	20%
	66	石刀		H4	B	(95)	25	17	(70)		被熱	角閃石安山岩	20%
	67	石冠		I3	B	46	42	(48)	(90)		亀頭状頭部、被熱	粘板岩	20%
	68	石冠		H4	BG	(42)	25	35	(31)		石鋸形、被熱	凝灰岩	5%
	69	垂玉		H5	BG	26	22	14	16			含ヒスイ珪質岩	100%



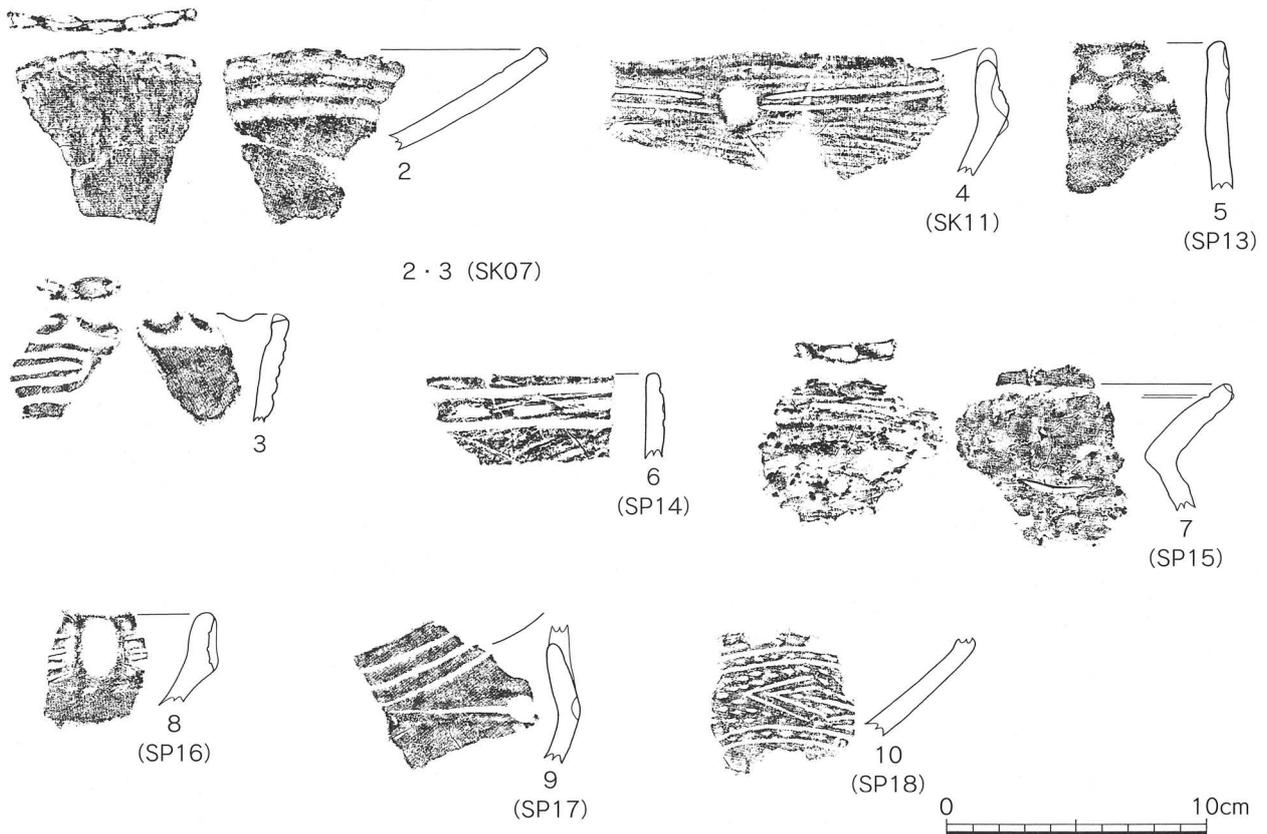
第4図 3区遺構図1 (S=1/30: 6号埋設土器 S=1/60: 土坑)



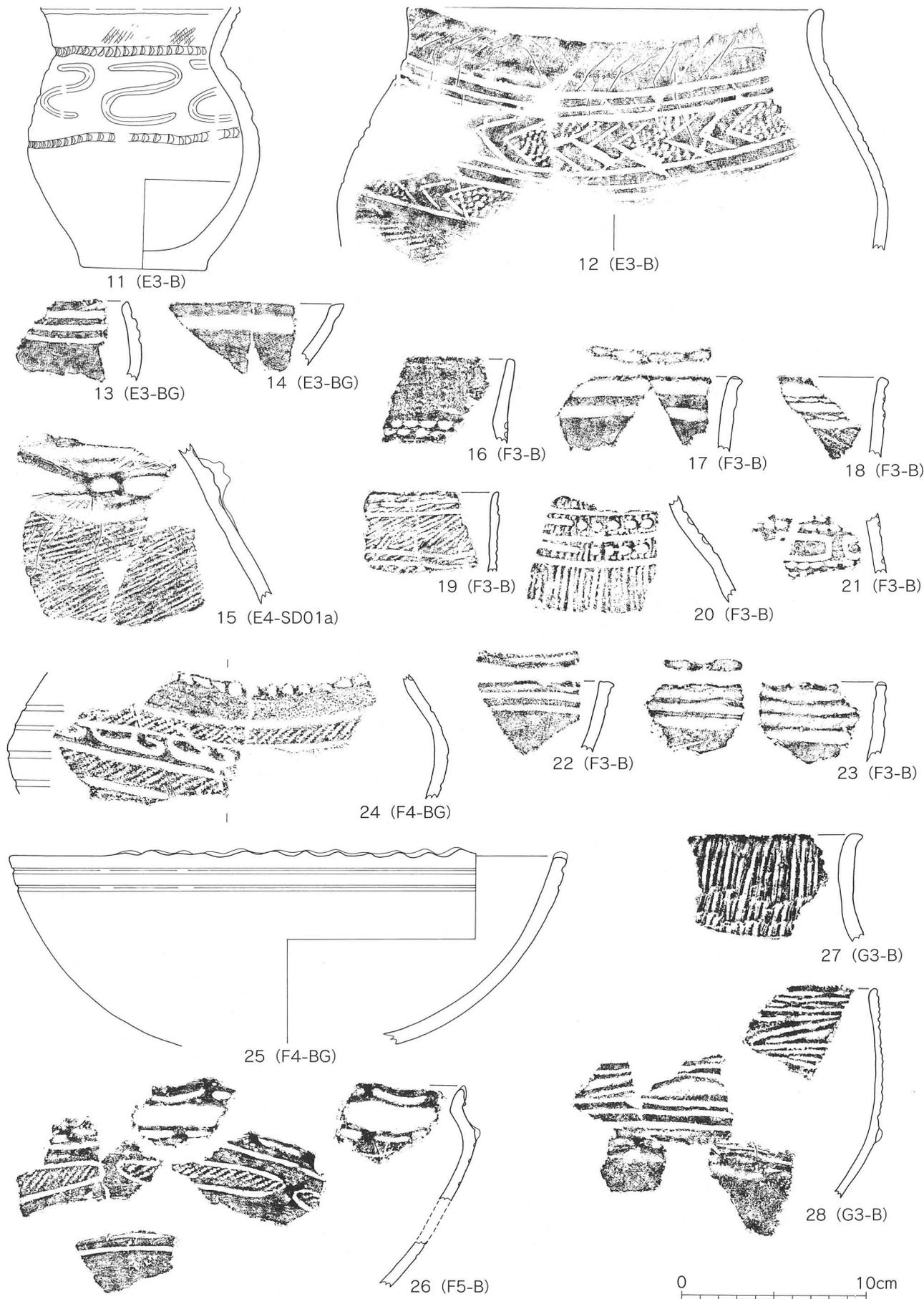
第5図 3区遺構図2 (S=1/60)



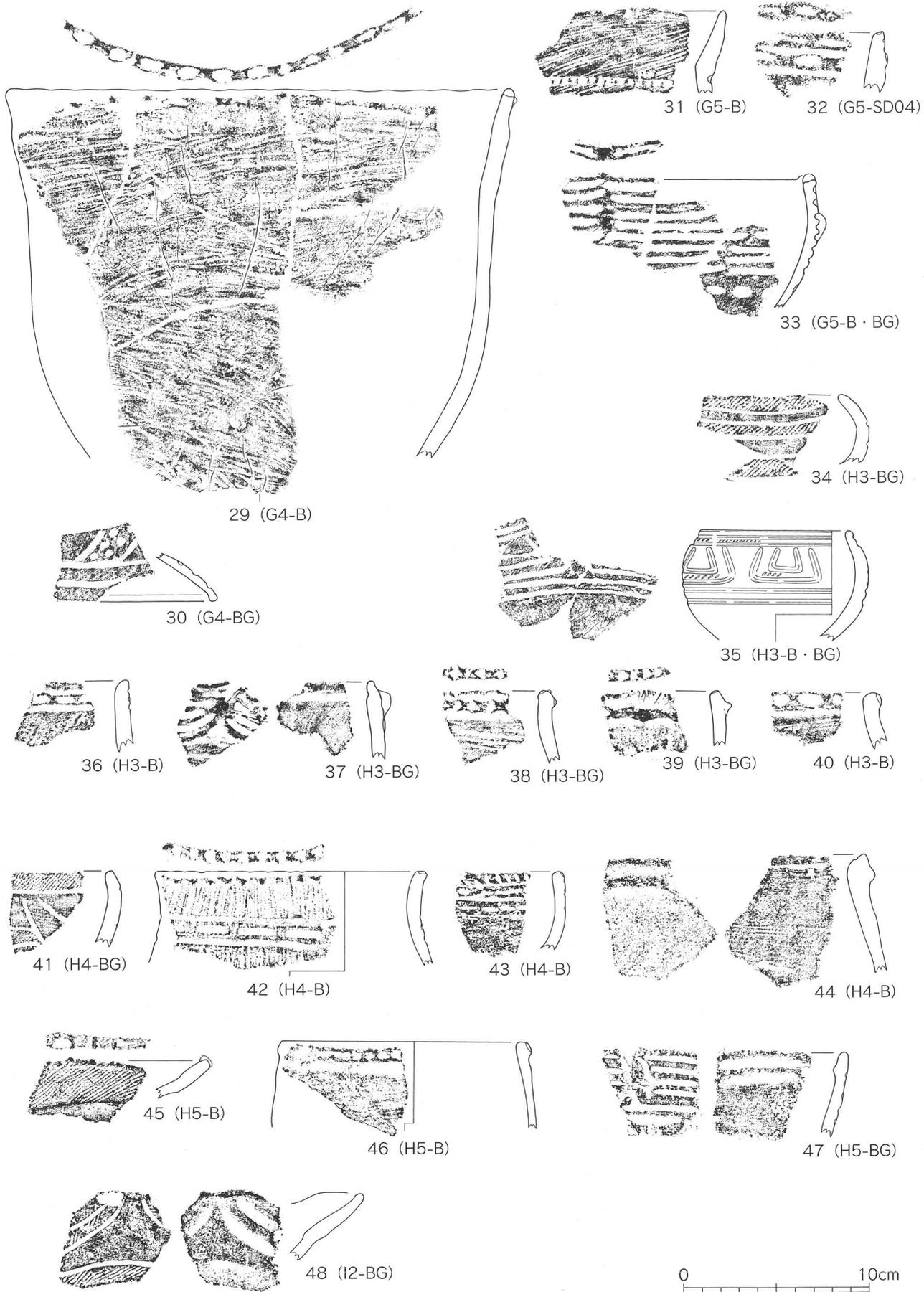
1 (6号埋設土器)



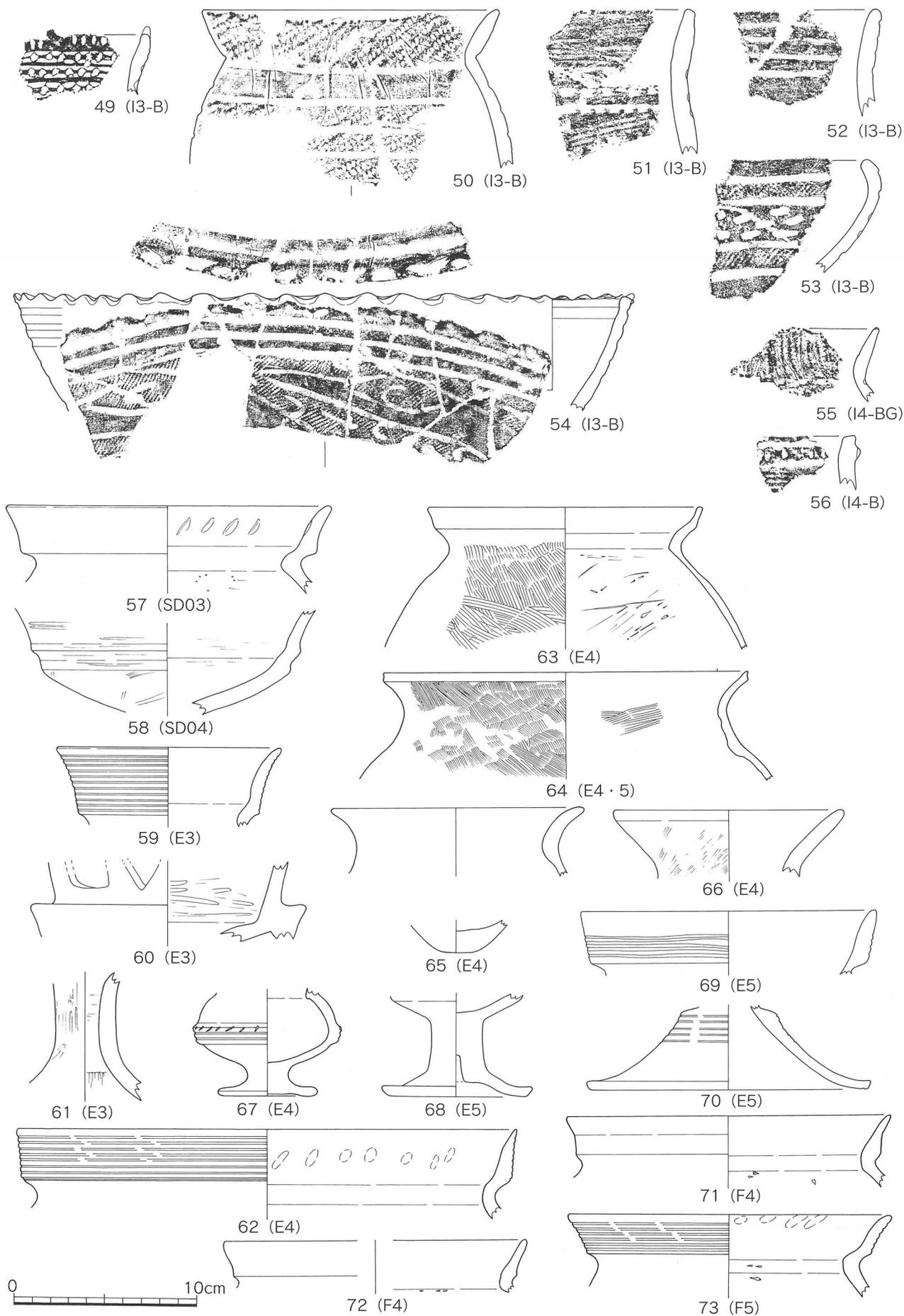
第6図 3区出土土器1 (S=1/3)



第7图 3区出土土器2 (S=1/3)



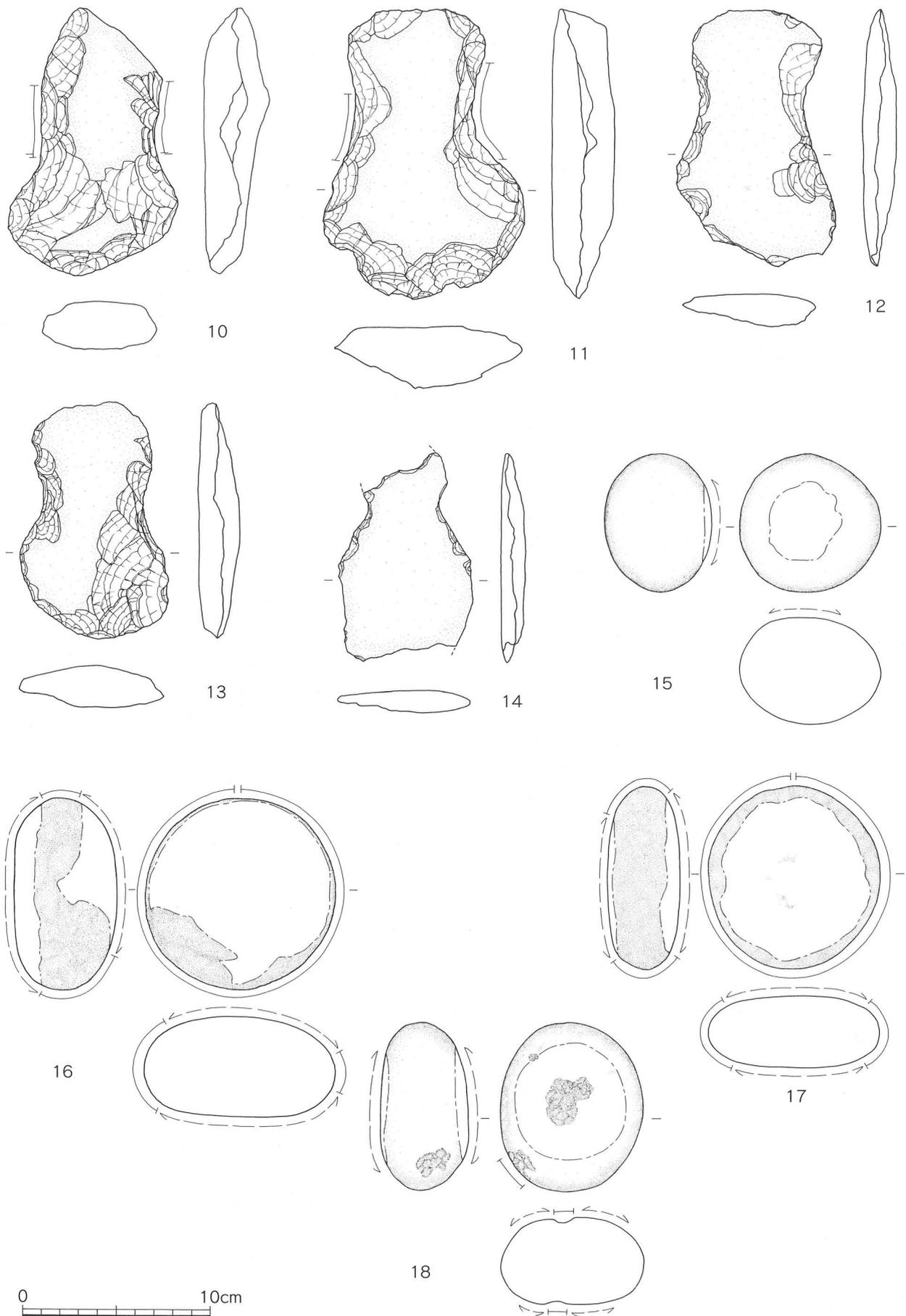
第8图 3区出土土器3 (S=1/3)



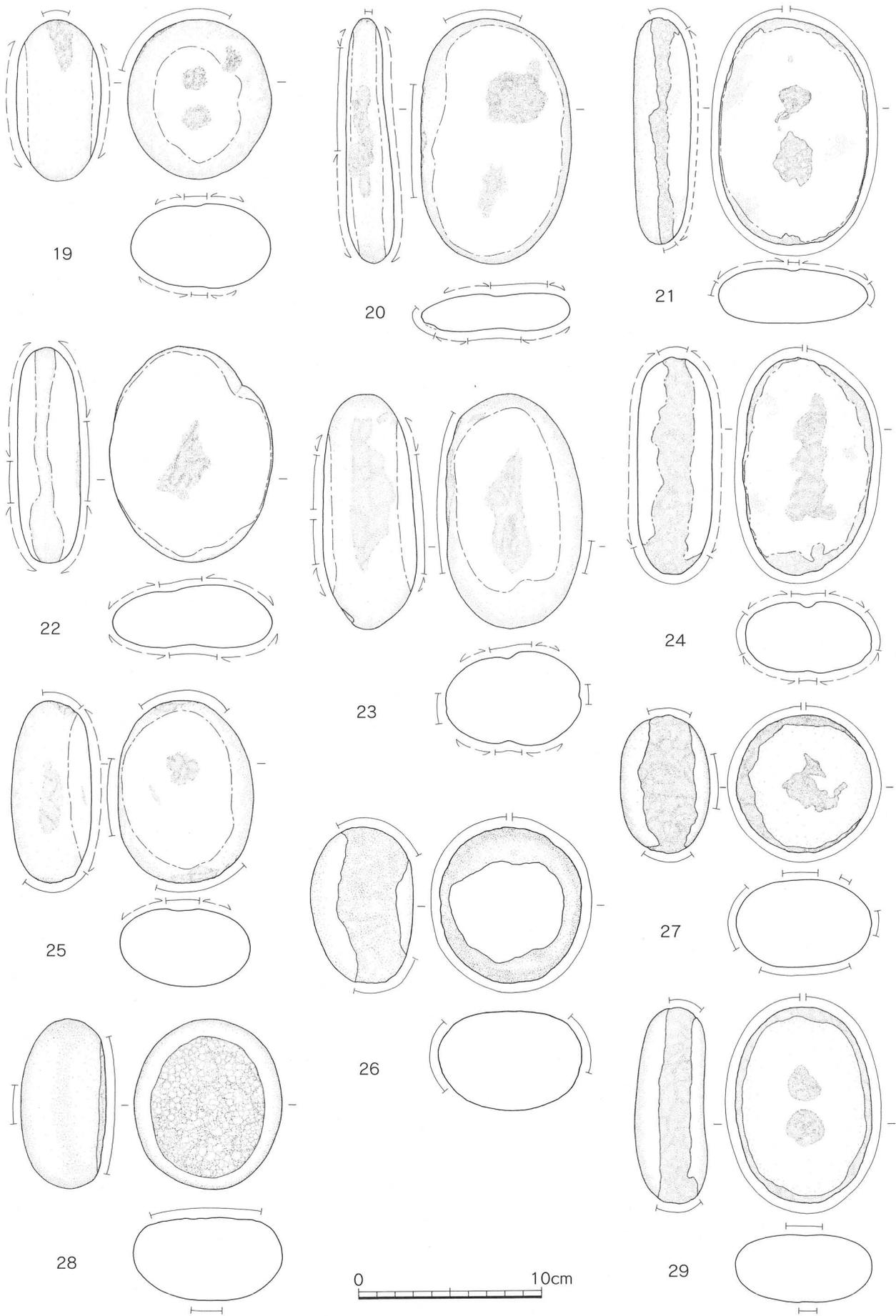
第9图 3区出土土器4 (S=1/3)



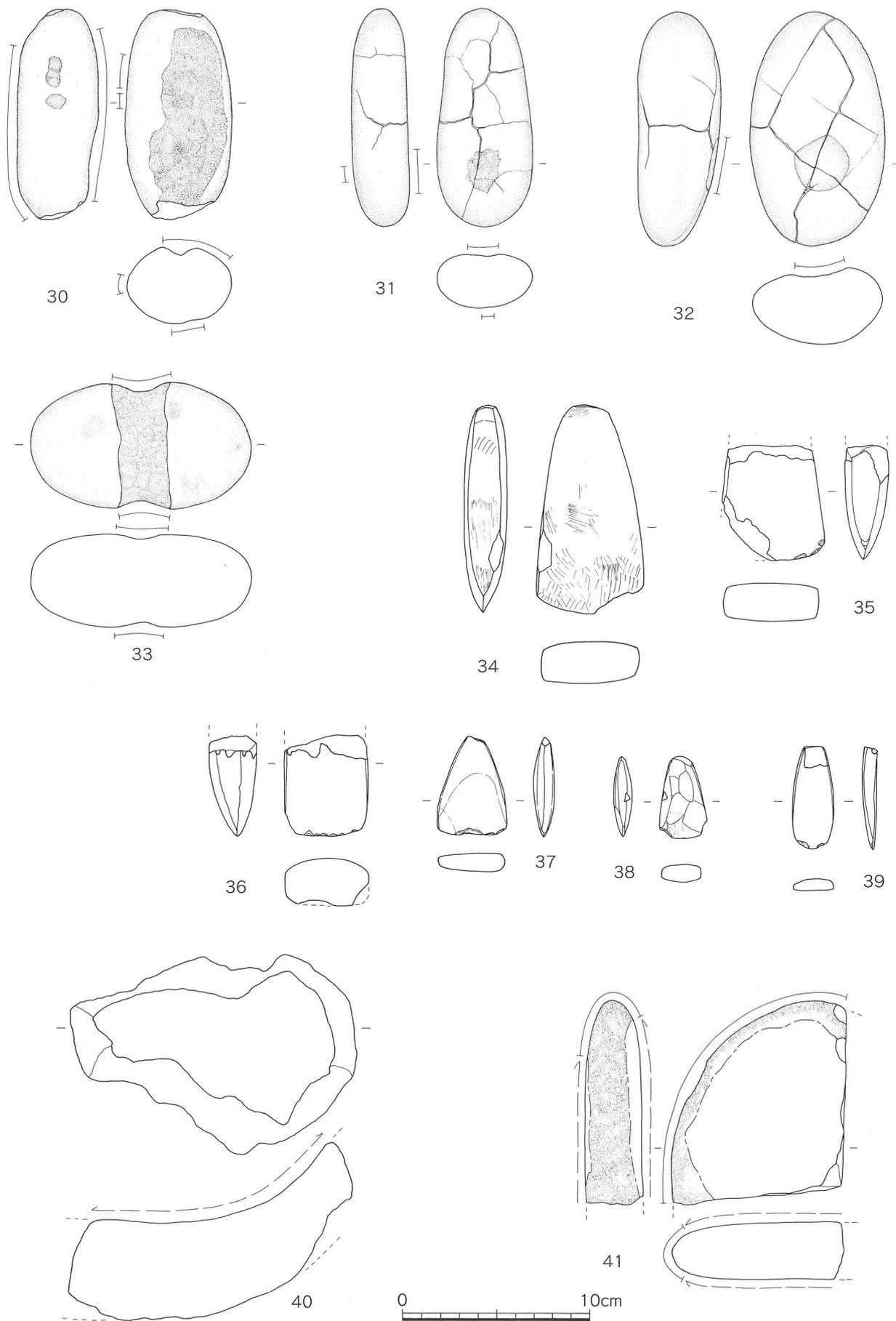
第10图 3区出土石器1 (S=1/3)



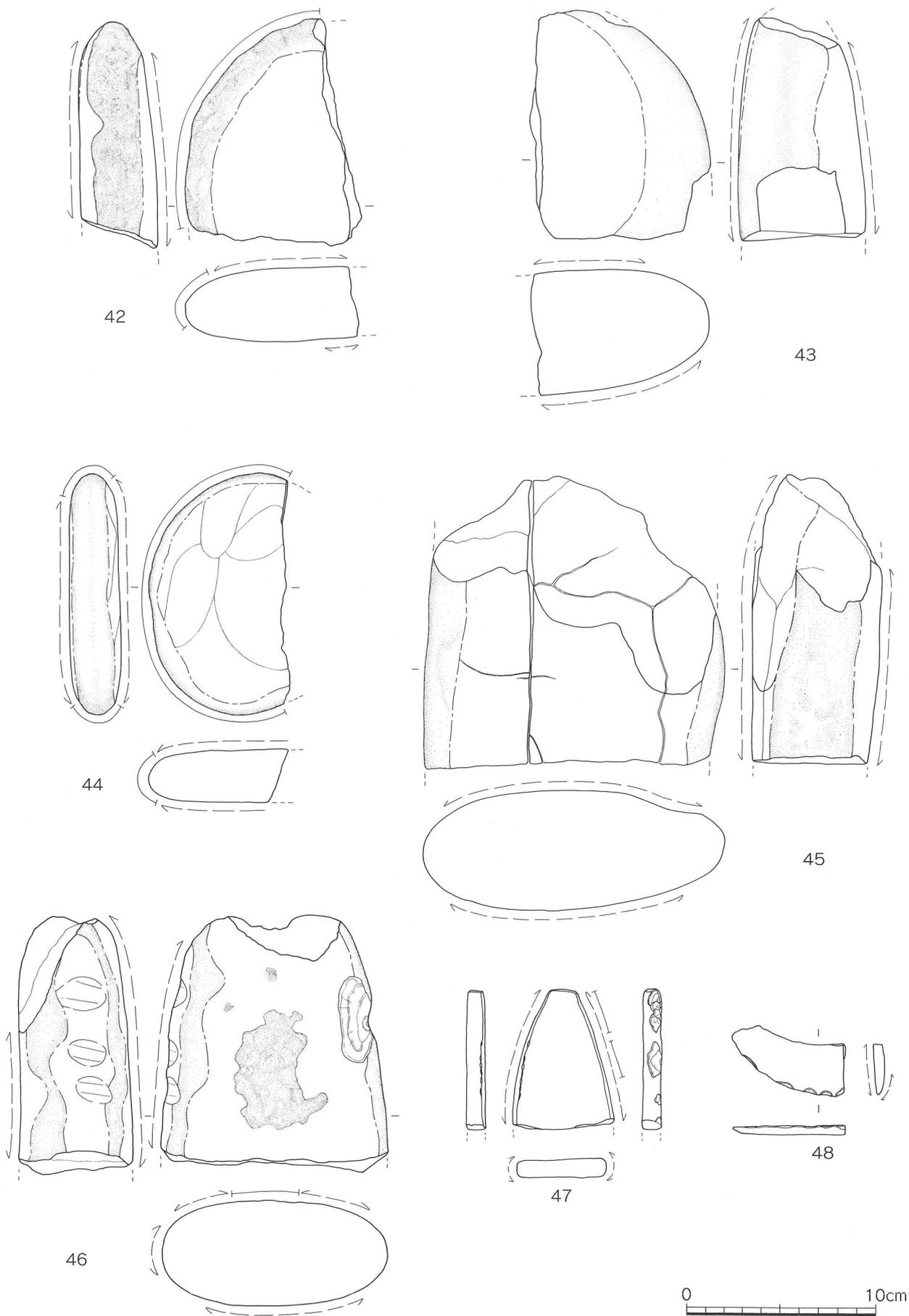
第11图 3区出土石器2 (S=1/3)



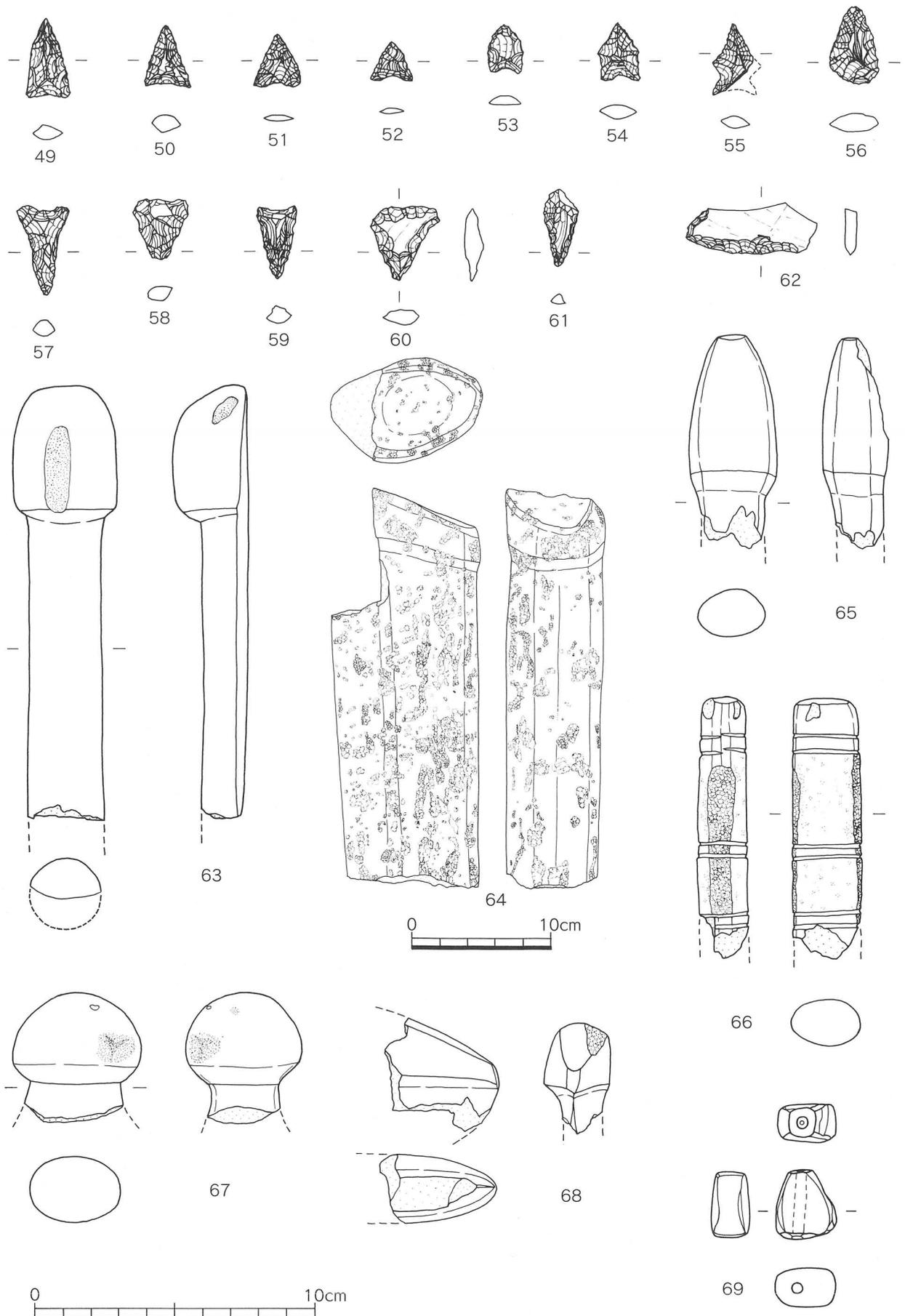
第12图 3区出土石器3 (S=1/3)



第13图 3区出土石器4 (S=1/3)



第14图 3区出土石器5 (S=1/3)



第15图 3区出土石器6·石製品 (S=1/2 64:S=1/4)

## 第2節 4区の調査

### 第1項 遺構

#### 1 縄文時代

##### 1) 土坑 SK12~20 (第17図)

土坑とした9基は、穴遺構のなかで大きめのものを土坑にしたもので、判断はあいまいである。縄文土器が出土した土坑を本時期に帰属させている。図示した出土遺物の図番号を( )内で示したが、底部出土のみの図示土坑は省略した。

SK12はJ4グリッドに位置する。楕円状を呈し、規模は72×60cm、深さ26cmである。長竹式期の土坑であろう(第18図1・2)。

SK13はJ4グリッドに位置する。隅丸形状を呈し、規模は56×50cm、深さ9cmである。長竹式期の土坑であろう(第18図3)。

SK14はK3・L4グリッドに位置する。略円状を呈し、規模は95(推定)×80cm、深さ27cmである。長竹式期の土坑であろう(第18図4)。

SK15はL3グリッドに位置し、複合するSK16が先行する。楕円状を呈し、規模は164×102cm、深さ53cmである。覆土最上部から扁平な小形土偶10が出土している。出土土器8から長竹式期の土坑であろう(第18図5~10)。

SK16はL3グリッドに位置する。不正な楕円状を呈し、規模は推定230×220cm、深さ47cmである。出土土器から下野式期の土坑であろう(第18図11~24)。

SK17はL3・M3グリッドに位置する。不正な楕円状を呈し、規模は230×138cm、深さ24cmである。

SK18はN3グリッドに位置する。略円形を呈し、規模は50×56cm、深さ36cmである。

SK19はN3・4グリッドに位置する。細長い溝状を呈し、規模は445×110~160cm、深さ58cmである。出土土器30・31から下野式期の土坑であろう(第19図28~33)。

SK20はM4グリッドに位置する。略円形を呈し、規模は70×70cm、深さ30cmである。刻目凸帯文土器から長竹式期の土坑であろう(第19図34)。

#### 2 古代

該期に属する遺構は、掘立柱建物SB09の1棟及び、溝SD05~07と認識している。溝は灰褐色砂質土を覆土とするものである。

##### SB09 (第17図)

J3・4、K3・4グリッドに位置する。2間×2間の総柱建物で、規模は4.2×3.4m、面積は14.3㎡、桁行方位はN56°Wである。柱間はやや不揃いで、桁行間は南側ではP1~2間2.2m、P2~3間2.0m、中央部ではP4~5間2.2m、P5~6間2.2m、北側ではP7~8間2.2m、P8~9間2.2mである。梁行間は西側ではP1~4間1.75m、P3~6間1.65m、中央部ではP2~5間1.9m、P5~8間1.6m、東側ではP3~6間1.75m、P6~9間1.65mを測る。柱穴掘方は略円形で、径40~64cmで、深さ31~61cmである。SB09は複合するSD05に先行する。

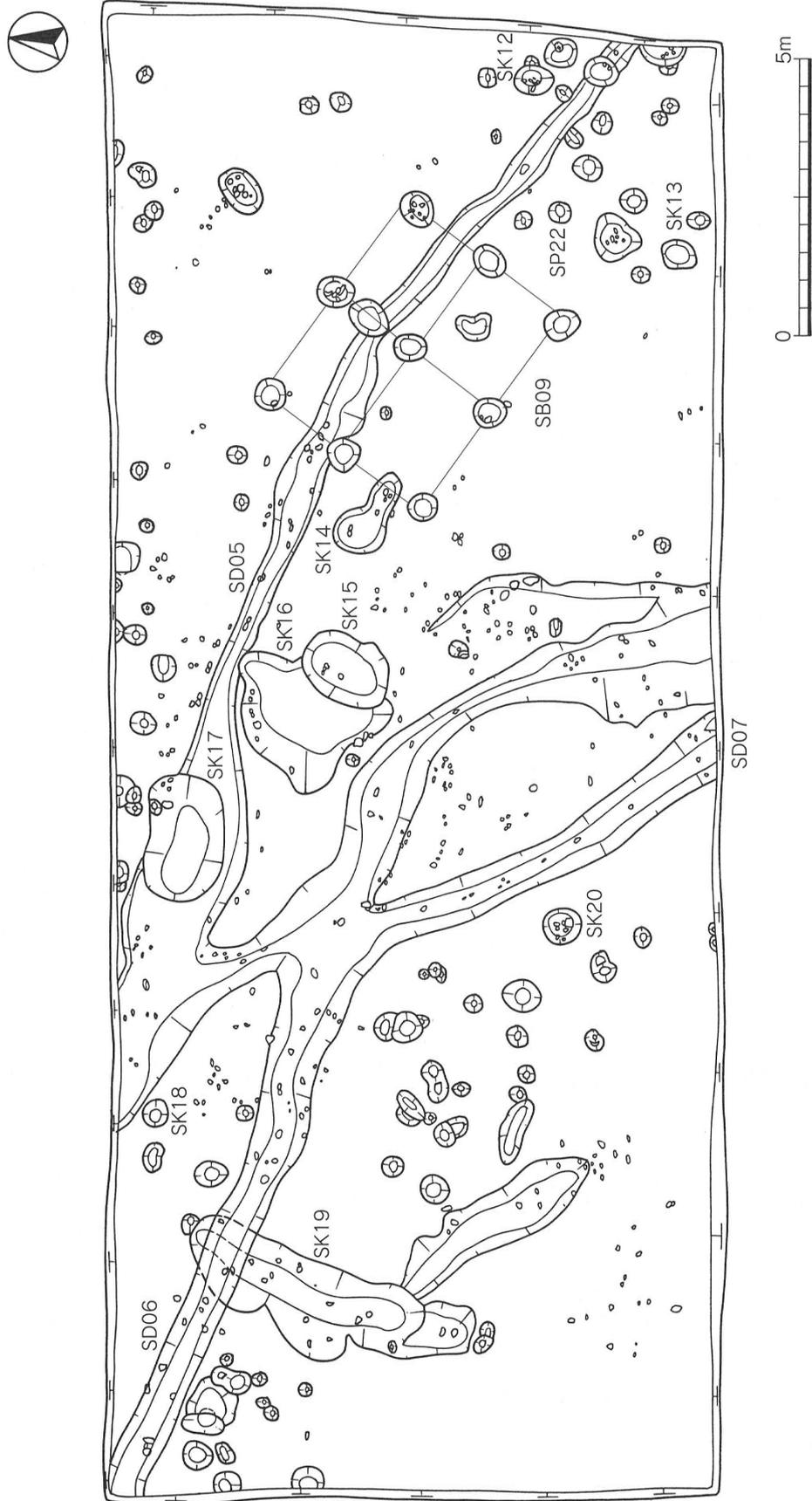
##### SD05~07 (第16図)

SD05は西北方向からK3グリッドでやや屈折し西北西方向に流下した溝で、大部分は幅50cm前後であるが170cmと広がる部分もみられる。深さは5cm前後である。

SD06は北北西方向からL3グリッドで屈折し西北西方向に流れた溝で、屈折後はSD05とほぼ平行する。大部分の幅は80~100cmであるが200cmと広がる部分もみられる。深さは10~18cmである。

SD07は北西方向に流路をもつ溝で、複合するSD05・06が先行する。幅は80~100cm、深さは16cm前後である。

N3グリッドではSD06から北へ1m離れてSD07と同様な灰褐色砂質土から第22図142の須恵器杯が出土している。SD05~07は同様な灰褐色砂質土を覆土とするもので、時期は須恵器142の9世紀後半



第16图 4区遺構全体図 (S=1/120)

期頃と推定している。

## 第2項 遺物

### 1 縄文時代

#### 1) 土器 (第18～22図・表4)

土器については、実測図を第18～22図に、器種、出土遺構、出土グリッド、層位、法量、備考、遺存部、型式については表4において表記した。なお、土製品は土偶1点であり、土坑上面の出土から第18図で図示した。

文様を有する土器等の型式等については6頁を参照願いたい。

#### 2) 石器・石製品 (第23～29図・表5)

石器・石製品については、実測図を第23～29図に、器種、出土遺構、出土グリッド、層位、法量、分類、備考、石質、遺存率を表5において表記した。石器の分類は6～8頁を参照願いたい。

石器の器種別出土点数は、打製石斧92点、磨石15点、敲石23点、石錘1点、磨製石斧6点、石皿4点、砥石14点、擦切用石器2点、石鏃38点、石錐16点、削器4点で、出土合計点数は215点である。

石製品の器種別出土点数は、石棒2点、石刀4点、石剣1点、石冠1点、玉3点で、出土合計点数は11点である。

①打製石斧 (第23・24図1～21) 打製石斧は、92点出土した。完形とほぼ完形はそのうち24点である。

②磨石 (第25図・第26図22～33) いわゆる磨石・敲石・凹石であるが、磨ってあるものを磨石とし、磨ってないものは敲石としている。磨石は15点出土した。完形とほぼ完形はそのうち13点である。

③敲石 (第26図34～42) 磨痕がみられず敲痕のあるものを敲石とした。敲石は23点出土した。完形とほぼ完形はそのうち13点である。

④石錘 (第26図43) 石錘は1点の出土である。

⑤磨製石斧 (第27図44～48) 磨製石斧は、6点出土した。ほぼ完形はそのうち1点である。

⑥石皿 (第27図49～51) 石皿は、4点出土したが、いずれも遺存状態は悪く全体の15%以下程度である。

⑦砥石 (第27図52～57) 砥石は14点出土した。完形ほぼ完形は2点であり、他の遺存率は50%以下程度である。

⑧擦切用石器 (第27図58) 擦切用石器は2点出土した。完形は過去の調査でもみられないことも含め分類は行っていない。

⑨石鏃 (第28図59～85) 石鏃は38点の出土で、完形ほぼ完形のものは22点である。

⑩石錐 (第28図86～95) 石錐は16点の出土で、完形ほぼ完形のものは11点である。

⑪削器 (第28図96) 削器は4点の出土である。遺存率90%以上は3点である。

⑫石棒・石刀・石剣 (第29図97～102)

石棒は2点の出土である。頭部が遺存する97は石冠かもしれない。98は欠損する断面が円形になるものと考えた。石刀は4点の出土で刀部が遺存する99～102を図示した。102はミネ部がないことから石剣とした。

⑬石冠 (第29図103) 石冠の出土は1点で、147はいわゆる鯉節形である。

⑭玉 (第29図104～106) 玉は3点の出土で、104は長玉、105・106は丸玉である。

### 2 古代

#### 1) 土器 (第22図142・表4)

須恵器杯1点が出土しており、遺構の溝で出土状況などを先述した。

表4 4区土器・土製品一覧表 (第18~22図)

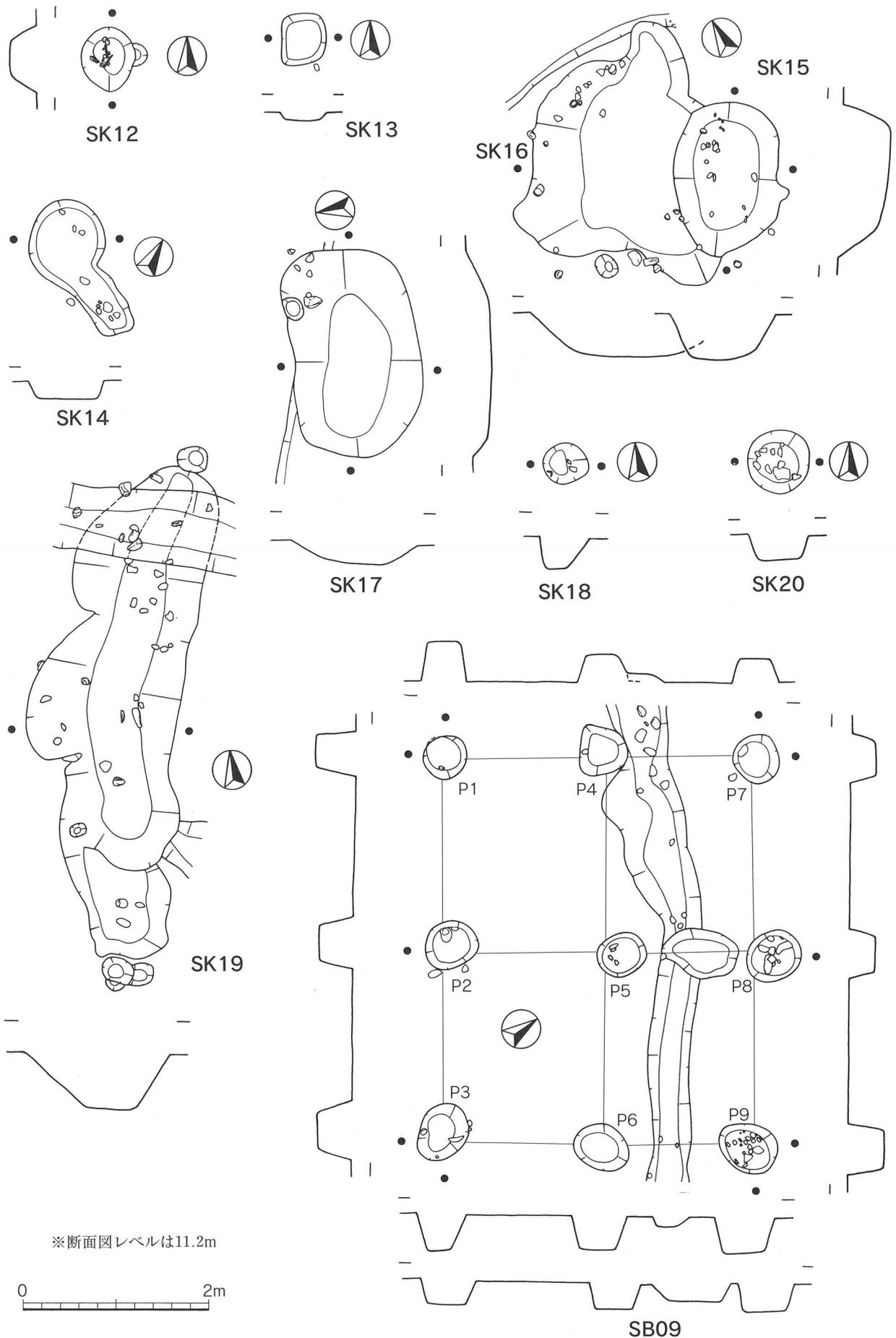
図	番号	器種	出土遺構	クワット*	層位	法量 (mm)・備考	遺存等	時期
18	1	深鉢	SK12	J4	BG	口径230、斜条痕文、口唇面取、外面スス付着	口縁部	
	2	深鉢	SK12	J4	B	口径330、沈線間押し短斜沈線文2段、斜条痕文、内外面スス付着	口縁・胴部	長竹
	3	深鉢	SK13	J5	G	列点文帯、斜条痕文	口縁部	長竹
	4	浅鉢	SK14	K3		工字文、内面幅広沈線2条	口縁部	長竹
	5	深鉢	SK15	L3		くの字状口縁、横条痕文	口縁部	中屋3
	6	深鉢	SK15	L3		口唇部刻目文、斜条痕文	口縁部	中屋
	7	深鉢	SK15	L3	2層下	横条痕文、口唇部面取、内面条痕文	口縁部	長竹か
	8	浅鉢	SK15	L3		口径170、底径68、器高48、口縁端部幅広ナデ、底部圧痕、西日本系土器か	口縁~底部	長竹
	9	底部	SK15	L3		斜条痕文、底部圧痕無		
	10	土偶	SK15	L3		長67、幅48、厚11、楕円板状、	ほぼ完形	長竹か
	11	浅鉢	SK16	L3		沈線文、RL縄文	口縁部	井口2
	12	深鉢	SK16	L3		弧線文、Lr縄文	胴部	下野
	13	浅鉢	SK16	L3		沈線文、口唇部肥厚	口縁部	下野
	14	浅鉢	SK16	L3		口径288、胴径295、底径91、器高162、口縁下部段、底部圧痕無、西日本系土器か	口縁~底部	下野
	15	深鉢	SK16	L3		沈線文界無文帯、縦条痕文のち横条痕文、外面スス付着	胴部	下野
	16	深鉢	SK16	L3		LR縄文	口縁部	
	17	深鉢	SK16	L3		LR縄文、外面スス付着	口縁部	
	18	深鉢	SK16	L3		斜条痕文	口縁部	
	19	深鉢	SK16	L3	2層	内外面斜条痕文	口縁部	
	20	深鉢	SK16	L3		斜条痕文、内面スス付着	口縁部	
	21	深鉢	SK16	L3		横条痕文、口唇部面取、外面スス付着	口縁部	
	22	深鉢	SK16	L3		縦・斜条痕文、外面スス付着	口縁部	
	23	深鉢	SK16	L3		無文	口縁部	
	24	底部	SK16	L3		底径55、条痕文、スタレ状圧痕		
19	25	底部	SK17	N4	G	底径60、磨耗著しい		
	26	底部	SK18	N3		底径80、RL縄文、網代圧痕2-2-1		
	27	底部	SK18	N3		底径69、無文、圧痕不明		
	28	浅鉢	SK19	N3		口径202、突起有(一部欠)、LR縄文帯、押し列点文、赤彩痕	口縁部	中屋2
	29	浅鉢	SK19	N3		LR縄文	口縁部	
	30	浅鉢	SK19	N3		内面幅広沈線2条	口縁部	下野
	31	深鉢	SK19	N3		口唇部押圧、横条痕文	口縁部	中屋3~下野
	32	深鉢	SK19	N3		口唇部押圧	口縁部	中屋3
	33	底部	SK19	N3		底径94、斜条痕文、網代圧痕不鮮明		
	34	深鉢	SK20	M4	G	刻目凸帯、外面スス付着	口縁部	長竹
	35	蓋	SP22	J4	G	横し字状沈線文、LR縄文、赤彩	口縁部	中屋3
	36	底部	SP22	J4	G	底径98、縦条痕文、網代圧痕2-2-1		下野
	37	深鉢	J3	2層		沈線間刻目文	口縁部	酒見
	38	深鉢	J3	2層		LR縄文帯	口縁部	八日市新保
	39	深鉢	J3	2層下		沈線文、LR縄文、補修孔	口縁部	御経塚
	40	浅鉢	J3	2層		玉抱入組文・三叉文、LR縄文、焼成前穿孔	口縁部	御経塚1
	41	浅鉢	J3	2層下		口唇部隆帯・LR縄文・赤彩	口縁部	中屋2
	42	浅鉢	J3	2層		口唇部押圧、沈線間刻目、赤彩痕、補修孔	口縁部	中屋2
	43	深鉢	J3	2層		斜条痕文、口唇部三角形刻み	口縁部	中屋2
	44	深鉢	J2	2層下		沈線間刻目、斜条痕文	胴部	中屋2
	45	浅鉢	J3	2層		列点文帯、LR縄文	口縁部	御経塚3
	46	浅鉢	J3	2層		雲形文、LR縄文	口縁部	下野
	47	浅鉢	J3	2層		口径80、口唇部刺突、LR縄文	口縁部	中屋2
	48	深鉢	J3	2層		口唇部押圧、刺突文	口縁部	中屋3
	49	浅鉢	J3	2層		沈線文、擬縄文	胴部	中屋2
	50	浅鉢	J3	2層		沈線文	口縁部	下野
	51	蓋	J3	2層		入組文、LR縄文、赤彩	口縁部	中屋2
	52	蓋	J3	2層		入組三叉文、LR縄文	口縁部	中屋2
	53	深鉢	J3	2層		短沈線文、斜条痕文	口縁部	長竹
	54	壺	J3	2層		肩部隆帯、赤彩	肩部	長竹
	20	55	深鉢	J3	2層		RL縄文、口唇面取	口縁部
56		深鉢	J3	2層		口唇部押圧、横条痕文	口縁部	中屋2
57		深鉢	J3	2層下		口唇部押圧、横条痕文	口縁部	
58		深鉢	J3	2層下		口唇部押圧、横条痕文	口縁部	
59		深鉢	J3	2層		口唇部押圧、横条痕文	口縁部	
60		深鉢	J3	2層		斜条痕文	口縁部	
61		深鉢	J3	2層		無文、口唇面取	口縁部	
62		深鉢	J3	2層		斜条痕文、口唇面取	口縁部	
63		深鉢	J3	2層		斜条痕文	口縁部	
64		深鉢	J3	2層		口唇部刻目、縦条痕文	口縁部	下野
65		深鉢	J3	2層		無文	口縁部	
66		鉢	J3	2層		口径102、小形、内面赤彩痕	底部欠	
67		深鉢	J4	2層		刻目凸帯	口縁部	長竹
68		深鉢	J4	2層		口唇部押圧・RL縄文	口縁部	井口1
69		深鉢	J4	2層下		斜条痕文	口縁部	中屋3~下野
70		深鉢	J4	2層		斜条痕文	口縁部	中屋
71		浅鉢	J5	2層		口唇部刻目、沈線文、赤彩痕	口縁部	下野

図	番号	器種	出土遺構	グリット	層位	法量 (mm) ・ 備考	遺存等	時期	
20	72	深鉢		K3	2層下	口唇刻目、LR縄文、入組三叉文	口縁部	中屋2	
	73	浅鉢		K3	2層	沈線文、補修孔	口縁部		
	74	浅鉢	SD05	K3		沈線間刻目、雲形文か、赤彩痕	口縁部	中屋2	
	75	浅鉢		K3	2層	口唇沈線	口縁部	下野	
	76	蓋		K3		列点文、LR縄文	口縁部	中屋3	
	77	深鉢	SD05	K3		口唇押圧、横条痕文	口縁部	中屋2	
	78	深鉢		K3	2層	口唇刻目、斜条痕文	口縁部	中屋2	
	79	深鉢		K3	2層下	口唇刻目、横条痕文	口縁部	中屋2	
	80	深鉢		K3	2層	斜条痕文	口縁部	中屋3～下野	
	81	深鉢		K3	2層	口唇三角状刻み、縦条痕文	口縁部	下野	
	82	深鉢		K4	2層	沈線間刻み、LR縄文	口縁部	下野	
	83	深鉢		K4		口唇刻み、無文	口縁部		
	84	浅鉢		K4	2層下	雲形文、LR縄文	胴部	下野	
	85	浅鉢		K4	2層	貼付突起、雲形文か	胴部	下野	
	86	深鉢		K4	2層下	縦条痕文	口縁部	下野	
	21	87	深鉢		L3	2層	凹線文、刻目文	口縁部	井口1
		88	浅鉢		L3	2層	沈線文	口縁部	八日市新保
		89	深鉢		L3	2層	巻貝押圧文	口縁部	井口2
90		深鉢		L3	最下層	口唇三角状刻み	口縁部	中屋2	
91		浅鉢	SD05	L3	砂層	縦条痕文、内面ハ字状刻み・短沈線	口縁部	下野	
92		蓋		L3	2層下	沈線間刻み、LR縄文	口縁部	中屋2	
93		浅鉢		L3	2層下	眼鏡状隆帯、LR縄文	口縁部	下野	
94		浅鉢		L3	2層	沈線間刺突文、口唇部面取	口縁部	長竹	
95		浅鉢		L3	2層下	2条沈線文2段	口縁部	長竹	
96		浅鉢		L3	2層	口唇部押圧、工字文か、内面幅広沈線3条	口縁部	長竹	
97		深鉢		L3	2層下	緩波状、横条痕文、内面条痕文	口縁部		
98		深鉢		L3	2層下	斜条痕文、口唇部面取	口縁部		
99		深鉢	SD06	L3	砂層	斜条痕文	口縁部		
100		深鉢		L3	2層下	縦条痕文	口縁部	下野	
101		深鉢		L3	2層下	無文	口縁部		
102		深鉢		L4	2層下	口唇押圧、横条痕文	口縁部	中屋2	
103		深鉢		L4	2層下	尖口唇、無文	口縁部		
104		小形		L4	砂層	無文、内面指頭調整痕	底部欠		
105		浅鉢		M3	2層下	小波状、内面弧線文、三叉文、LR縄文、赤彩痕	口縁部	御経塚	
106		深鉢	SD05	M3		突起1対	口縁部	中屋2	
107	深鉢	SD05	M3	砂層	口唇刻み	口縁部	下野		
108	蓋		M3	2層下	つまみ径35、刺突文	つまみ部	中屋2		
109	浅鉢		M3	2層	眼鏡状隆帯、楕円区画工字文	口縁部	長竹		
110	壺		M3	2層	肩部肥厚段部、沈線文、赤彩	肩部	長竹		
111	深鉢	SD06	M3	砂層	口縁端部沈線文、斜条痕文	口縁部	長竹		
112	深鉢		M3	2層下	口縁端部押圧、無文	口縁部			
113	深鉢	SD05	M3	砂層	口唇刻み、横条痕文	口縁部			
114	深鉢		M3	2層	無文、口唇面取	口縁部			
115	深鉢		M3	2層下	口唇短沈線文、斜条痕文	口縁部	下野か		
116	深鉢	SD05	M3	砂層	縦条痕文	口縁部	下野		
117	深鉢		M3	2層下	沈線文、斜条痕文	口縁部	長竹		
118	浅鉢		M3	2層	口縁端部幅広ナデ、西日本系か	口縁部	下野		
22	119	浅鉢	SD06	M4・N3	2層下	工字文、LR縄文、外面スス付着	胴部	下野	
	120	深鉢		M4	2層	口唇押圧、斜条痕文	口縁部		
	121	浅鉢		N3	2層下	B字状突起、擬縄文	口縁部	中屋2	
	122	浅鉢		N3	2層下	突起、口唇刻み、LR縄文	口縁部	中屋2	
	123	深鉢	SD06	N3		口唇押圧、斜条痕文	口縁部	中屋2	
	124	蓋	SD06	N3	砂層	つまみ径41～44、側面三角状刻み3	つまみ部	中屋2	
	125	深鉢	SD06	N3	砂層	口唇ハ字状刻み、無文	口縁部	下野	
	126	浅鉢		N3	砂層	突起、頸部突起帯	口縁部	下野	
	127	浅鉢		N3	砂層	眼鏡状隆帯	口縁部	長竹	
	128	浅鉢		N3	2層	弧線文、口唇面取	口縁部	長竹	
	129	深鉢		N3	2層下	内面押圧、RL縄文	口縁部	井口2	
	130	深鉢		N3	2層	横条痕文	口縁部		
	131	深鉢		N3	2層	横条痕文	口縁部		
	132	鉢		N3	2層	無文	口縁部		
	133	深鉢		N3	最下層	口唇押圧、横条痕文	口縁部	中屋3	
	134	深鉢		N3	2層	口唇ハ字状刻み、横条痕文	口縁部	下野	
	135	浅鉢		N4	2層下	口唇押圧	口縁部		
	136	浅鉢		N4	2層	口唇隆帯3、LR縄文	口縁部	中屋2	
	137	浅鉢		N4	2層	口唇三角状刻み・短沈線、LR縄文	口縁部	下野	
	138	浅鉢		N4	2層	口唇沈線文、	口縁部		
	139	壺		O4	2層下	口縁端部沈線文、口唇面取、赤彩	口縁部	長竹	
	140	浅鉢		不明		口唇刻み、沈線間押引短沈線	口縁部	長竹	
	141	深鉢		O3	2層下	横条痕文	口縁部		
	142	杯		N3	砂層	須恵器、口径124、底径60、器高30	口縁～底部	9世紀後半	

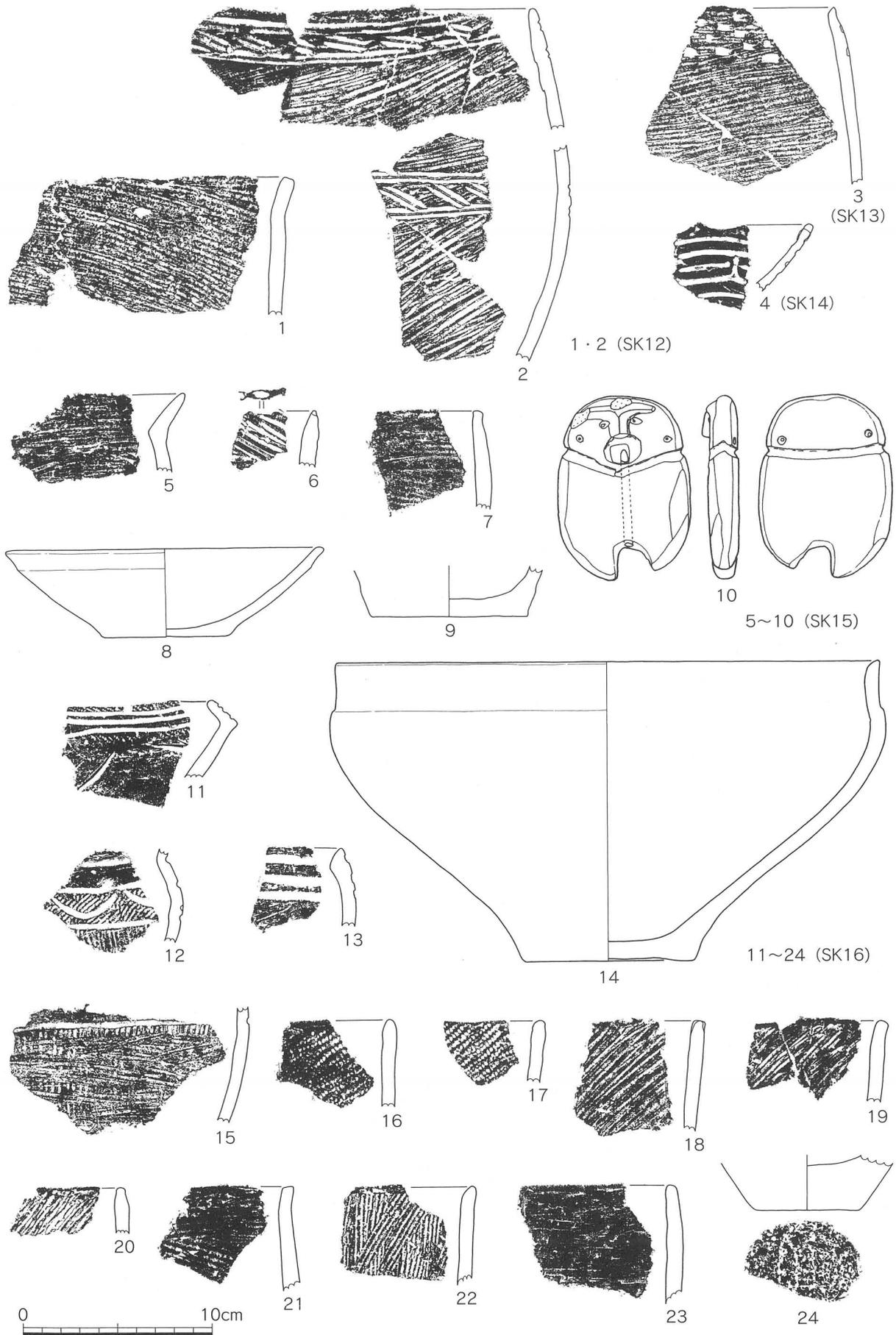
表5 4区石器・石製品一覧表 (第23~29図)

図	番号	器種	出土遺構	グット	層位等	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	分類	備考・形態	石質	遺存
23	1	打製石斧		K3	2層下	178	75	37	552	I 3B	短冊形、円刃	角閃石安山岩	100%
	2	打製石斧	SK19	N3		113	58	19	(154)	II 2B	撥形、円刃	中粒砂岩	95%
	3	打製石斧	SD06	L4		92	53	23	(144)	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	95%
	4	打製石斧	SK19	N3		154	98	34	(640)	II 2B	撥形、円刃	石英安山岩	90%
	5	打製石斧		N3	2層下	146	98	31	520	II 2B	撥形、円刃	角閃石安山岩	100%
	6	打製石斧		N3		144	93	25	432	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	100%
	7	打製石斧	SK14	K3		158	81	32	(438)	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	95%
	8	打製石斧	SD05	K3		(131)	83	27	(354)	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	90%
	9	打製石斧	SD05	M3		125	66	23	(213)	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	95%
	10	打製石斧		J3	2層	(116)	62	17	(121)	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	95%
24	11	打製石斧		N5	2層下	174	90	29	499	II 2B	撥形、円刃	安山岩	100%
	12	打製石斧		N4	2層	141	80	29	377	II 2B	撥形、円刃	緑色凝灰岩	100%
	13	打製石斧	SD06	M3		123	70	32	322	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	100%
	14	打製石斧	SK19	N3		184	112	35	(762)	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	95%
	15	打製石斧		N3	2層下	(131)	79	33	(360)	II 2B	撥形、円刃	緑色凝灰岩	90%
	16	打製石斧		L4	2層下	131	79	38	438	II 2B	撥形、円刃	火山礫凝灰岩	100%
	17	打製石斧		K4		(108)	73	22	(189)	II 2B	撥形、円刃	白色凝灰岩	90%
	18	打製石斧	SD06	L4		138	(83)	26	(294)	II 2B	撥形、円刃	中粒砂岩(中生代)	80%
	19	打製石斧		K3	2層	(126)	102	30	(373)	II 2B	撥形、円刃	中粒砂岩(中生代)	90%
	20	打製石斧		J4		(78)	81	30	(195)	II 2B	撥形、円刃	緑色凝灰岩	80%
	21	打製石斧		K4	2層下	(144)	86	25	(259)	II 2A	撥形、直刃	火山礫凝灰岩	95%
25	22	磨石		K3	2層	87	79	23	250	II	磨、凹、円形	粗粒砂岩(中生代)	100%
	23	磨石		N4	2層	122	96	41	740	III	磨、敲、楕円形	細粒砂岩(中生代)	100%
	24	磨石		K3	2層下	130	92	45	840	III	磨、敲、楕円形	粗粒砂岩(中生代)	100%
	25	磨石		K3	2層	78	74	54	390	III	磨、敲、円形	中粒砂岩(中生代)	100%
	26	磨石		L3		100	70	19	170	III	磨、敲、楕円形	白色凝灰岩	100%
	27	磨石		L3	区画区最下層	132	96	37	690	IV	磨、凹、敲、楕円形	中粒砂岩(中生代)	100%
	28	磨石		L4		116	86	41	680	IV	磨、凹、敲、楕円形	粗粒砂岩(中生代)	100%
	29	磨石		N4	2層下	111	101	58	1010	IV	磨、凹、敲、円形	中粒砂岩(中生代)	100%
	30	磨石		L3	2層下	(66)	78	45	(360)	IV	磨、凹、敲、楕円形	粗粒砂岩(中生代)	70%
	31	磨石		N4	2層下	91	77	43	450	IV	磨、凹、敲、楕円形	粗粒砂岩(中生代)	100%
	26	32	磨石		J4		101	69	32	310	IV	磨、凹、敲、楕円形	粗粒砂岩(中生代)
33		磨石		K4	2層	105	81	31	400	IV	磨、凹、敲、楕円形	粗粒砂岩(中生代)	100%
34		敲石	SD06	L4		121	96	20	380	II	凹、敲、楕円形	細粒砂岩(中生代)	100%
35		敲石		J3	2層下	107	99	38	590	II	凹、敲、円形	粗粒砂岩(中生代)	100%
36		敲石		J3	2層下	109	84	24	340	II	凹、敲、楕円形	粗粒砂岩(中生代)	100%
37		敲石	SD06	L5		116	63	40	460	II	凹、敲、長楕円形	粗粒砂岩	100%
38		敲石		K4		118	80	27	380	II	凹、敲、楕円形	安山岩	100%
39		敲石		K4	2層	82	(75)	61	(480)	II	凹、敲、円形	中粒砂岩(中生代)	85%
40		敲石		L3	2層下	78	70	46	360	II	凹、敲、不定形	新时期角閃安山岩	100%
41		敲石		L3	2層下	67	63	39	(200)	III	敲、円形、被熱	変朽安山岩	90%
42		敲石		不明		67	58	26	(170)	III	敲、三角形	細粒砂岩(中生代)	95%
43		石錘		N4	2層下	98	61	19	190	A1	打欠・礫、楕円形、横形	角閃石安山岩	100%
27		44	磨製石斧	SD06	N3		(110)	(57)	32	(314)	A1	定角大形	片麻岩
	45	磨製石斧		K4	2層	(70)	51	36	(182)	A1	定角大形	細粒砂岩(中生代)	50%
	46	磨製石斧		K4	2層	(79)	(53)	(25)	(135)	A1	定角大形	片麻岩	50%
	47	磨製石斧		不明		(58)	(47)	(31)	(108)	A1	定角大形	輝緑岩	50%
	48	磨製石斧		J4	2層	46	23	9	(17)	A3	定角小形	蛇紋岩	95%
	49	石皿		J4	2層	(120)	(119)	59	(420)	I B	有縁、緩く凹、楕円形か	粗粒砂岩(中生代)	5%
	50	石皿		L3	2層下	(142)	(114)	85	(1580)	II B	無縁、緩く凹、楕円形か	火山礫凝灰岩	15%
	51	石皿		N4	2層下	(141)	(77)	70	(1000)	II B	無縁、緩く凹、楕円形か	石英安山岩	5%
	52	砥石		K3	2層下	(117)	(85)	62	(850)	I A	有溝、長楕円形	粗粒砂岩	30%
	53	砥石		K4	2層	(63)	21	13	(30)	I E	有溝、不定形	細粒砂岩(中生代)	80%
	54	砥石		K3	2層下	71	61	23	190	I YC	緩溝、長方形	中粒砂岩(中生代)	100%
	55	砥石	SD05	M3		(97)	(71)	21	(190)	II C	無溝、楕円形	細粒砂岩(中生代)	50%
	56	砥石		J3	2層	(80)	(60)	17	(120)	II C	無溝、楕円形	中粒砂岩(中生代)	30%
	57	砥石		N4	2層下	(71)	39	10	(50)	II C	無溝、長方形	細粒砂岩(中生代)	50%
	58	擦切用石器		M3	2層下	(69)	47	5	(34.6)		直刃	細粒砂岩(中生代)	50%
	28	59	石鏃		K3	2層下	(24)	14.5	4	(0.9)	A1	凹基無茎、三角形	フリント
60		石鏃		J3	2層	(21.5)	(14.5)	2.5	(0.8)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	80%
61		石鏃		K4	2層	(39)	16	4	(2.5)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	95%

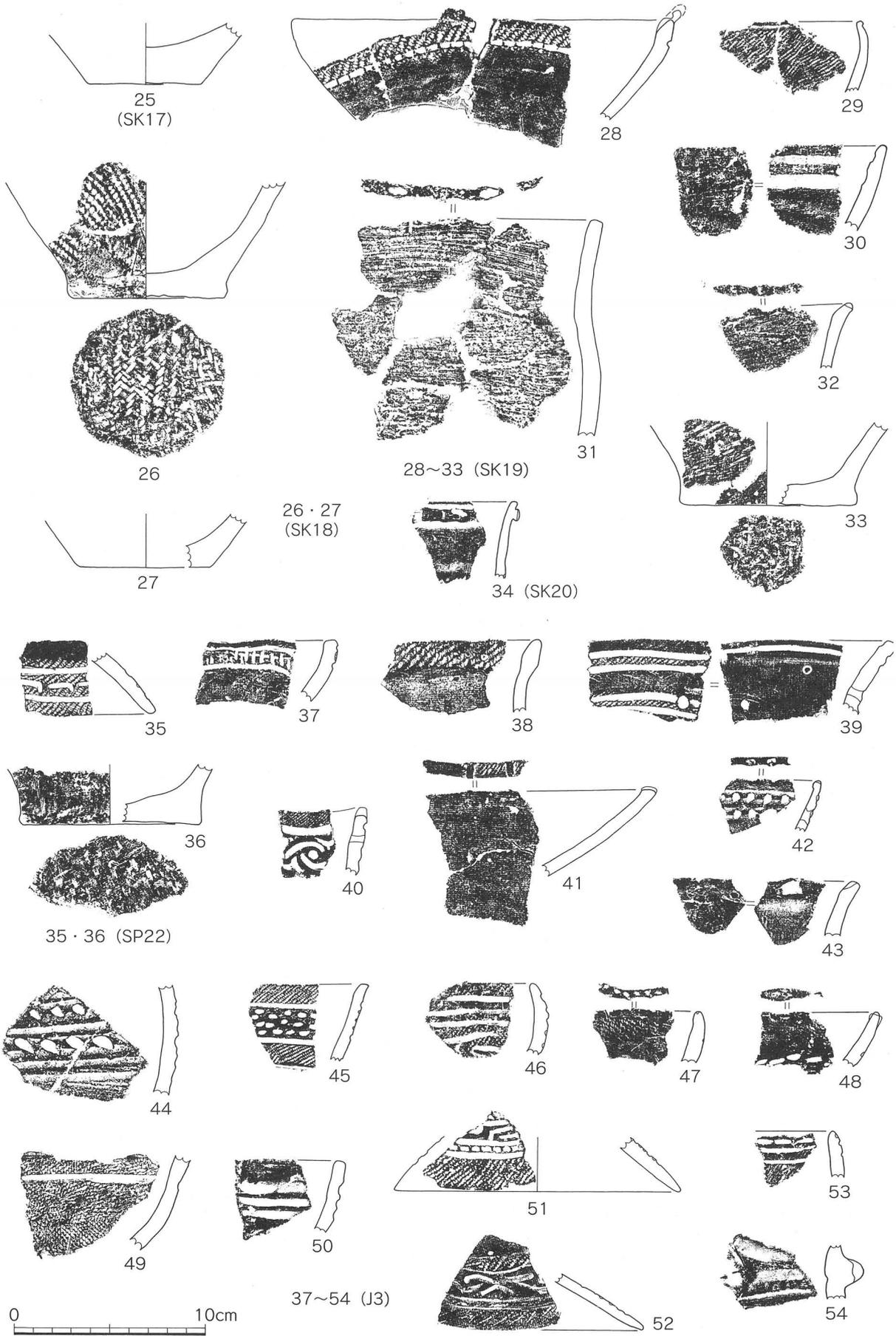
図	番号	器種	出土遺構	グロット	層位等	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	分類	備考・形態	石質	遺存
28	62	石鏃		J3	2層	30	(19)	5	(2.5)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	80%
	63	石鏃		K3	2層	23	(18.5)	3	(1.6)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	95%
	64	石鏃		J3	2層	21	14	3	0.9	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	65	石鏃		不明		19.5	14.5	4	0.9	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	66	石鏃		M3	2層	29.5	20.5	5.5	3.2	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	67	石鏃		L4	2層下	26	17.5	3	1.9	A1	凹基無茎、三角形	流紋岩	100%
	68	石鏃		K4	2層	(28.5)	21.5	3.5	(2.2)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	60%
	69	石鏃		K3	2層下	23	17	2	(1.2)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	90%
	70	石鏃		J3	2層	21	(14.5)	3	(0.8)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	85%
	71	石鏃		J4	2層	20.5	15.5	3	0.9	A1	凹基無茎、三角形	フリント	100%
	72	石鏃		K4		22	14	1.5	0.7	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	73	石鏃		O3	砂層	21	12	3	0.9	A1	凹基無茎、三角形	フリント	100%
	74	石鏃		不明		18	14.5	4	1.1	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	100%
	75	石鏃		L4	2層	19	18	2	(1.1)	A1	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	95%
	76	石鏃		L4	2層	14	12.5	2	0.5	A1	凹基無茎、三角形	フリント	100%
	77	石鏃		K3	2層下	19	16	3	1.0	A3	凹基無茎、五角形	メノウ質フリント	100%
	78	石鏃	SD06	L4	2層	27.5	19.5	5.5	(2.9)	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	95%
	79	石鏃		J3	2層	(26.5)	16.5	3	(1.6)	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	95%
	80	石鏃		K4	2層下	22	16	5	1.7	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	100%
	81	石鏃		J3	2層	20	16	3	1.4	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	100%
	82	石鏃		L3	2層下	14.5	13.5	2	0.6	A3	凹基無茎、五角形	輝石安山岩	100%
	83	石鏃		N3	2層	(30)	21	6	(4.2)	A4	平基無茎、五角形	輝石安山岩	95%
	84	石鏃		N4	2層下	27.5	19.5	6	(3.4)	C2	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	60%
	85	石鏃		J3	2層	(22.5)	21	6.5	(3.8)	C2	凹基無茎、三角形	輝石安山岩	95%
	86	石錐		J3	2層	46	9	6	3.2	A1b	両端尖、棒状	メノウ質フリント	100%
	87	石錐	SK16	L3		(37.5)	13	6	(3.9)	A1b	両端尖、棒状	フリント	95%
	88	石錐		M3	2層	33	10	7	2.2	A1b	両端尖、棒状	輝石安山岩	100%
	89	石錐		J3	2層	32	7	4	0.8	A1b	両端尖、棒状	輝石安山岩	100%
	90	石錐		不明		22	7	2	0.5	A1b	両端尖、棒状	フリント	100%
	91	石錐		J4		(23)	6	2	(0.4)	A・B	棒状、先端部のみ	フリント	30%
	92	石錐	SD05	L3		(23)	13	9.5	(2.7)	B2	頭部未加工、有頭棒状	メノウ質フリント	50%
	93	石錐		K4	2層	(22)	15	5	(1.7)	D1	全体加工、三角形	輝石安山岩	90%
94	石錐		O4	2層	(19.5)	12.5	3	(0.9)	D1	全体加工、三角形	輝石安山岩	95%	
95	石錐	SD05	J4		22.5	(21.5)	5.5	(2.4)	D1	全体加工、三角形	輝石安山岩	95%	
96	削器	SD05	K3		33	19	6.5	(3.8)			輝石安山岩	95%	
29	97	石棒		M3	2層下	(73)	41	33	(120)			細粒砂岩	20%
	98	石棒		不明		(65)	37	(14)	(49)			黒色頁岩	5%
	99	石刀		L3	2層下	(102)	25	17	(72)			凝灰岩	20%
	100	石刀		J3		(89)	23	15	(53)			白色凝灰岩	20%
	101	石刀		J3		(65)	20	(7)	(15)			黒色頁岩	5%
	102	石剣		J3	2層下	(45)	28	15	(31)			粘板岩	5%
	103	石冠	SD07	M4		(67)	26	61	(101)		鯨節形	白色凝灰岩	20%
	104	長玉	SK15	L3		(23)	8.0	(4)	(1.1)			グリーンタフ	20%
	105	丸玉		M4	2層下	5.0	8.5	8.0	0.7			含ヒスイ珪質岩	100%
	106	丸玉		L3	2層	5.5	7.5	7.5	0.6			含ヒスイ珪質岩	100%



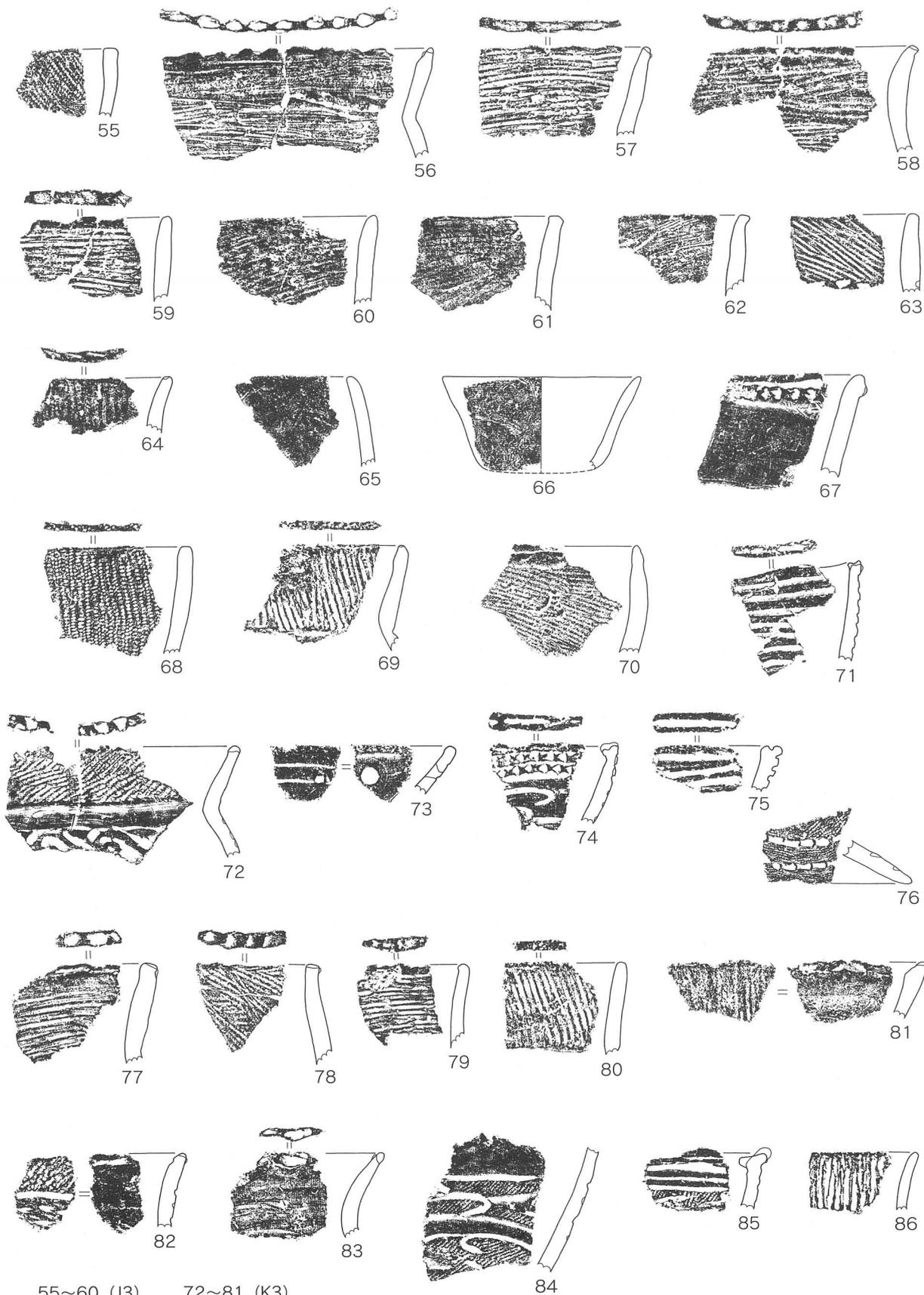
第17図 4区遺構図 (S=1/60)



第18图 4区出土土器 1 (S=1/60) · 10 : 土偶 (S=1/2)



第19图 4区出土土器2 (S=1/3)



55~60 (J3)

72~81 (K3)

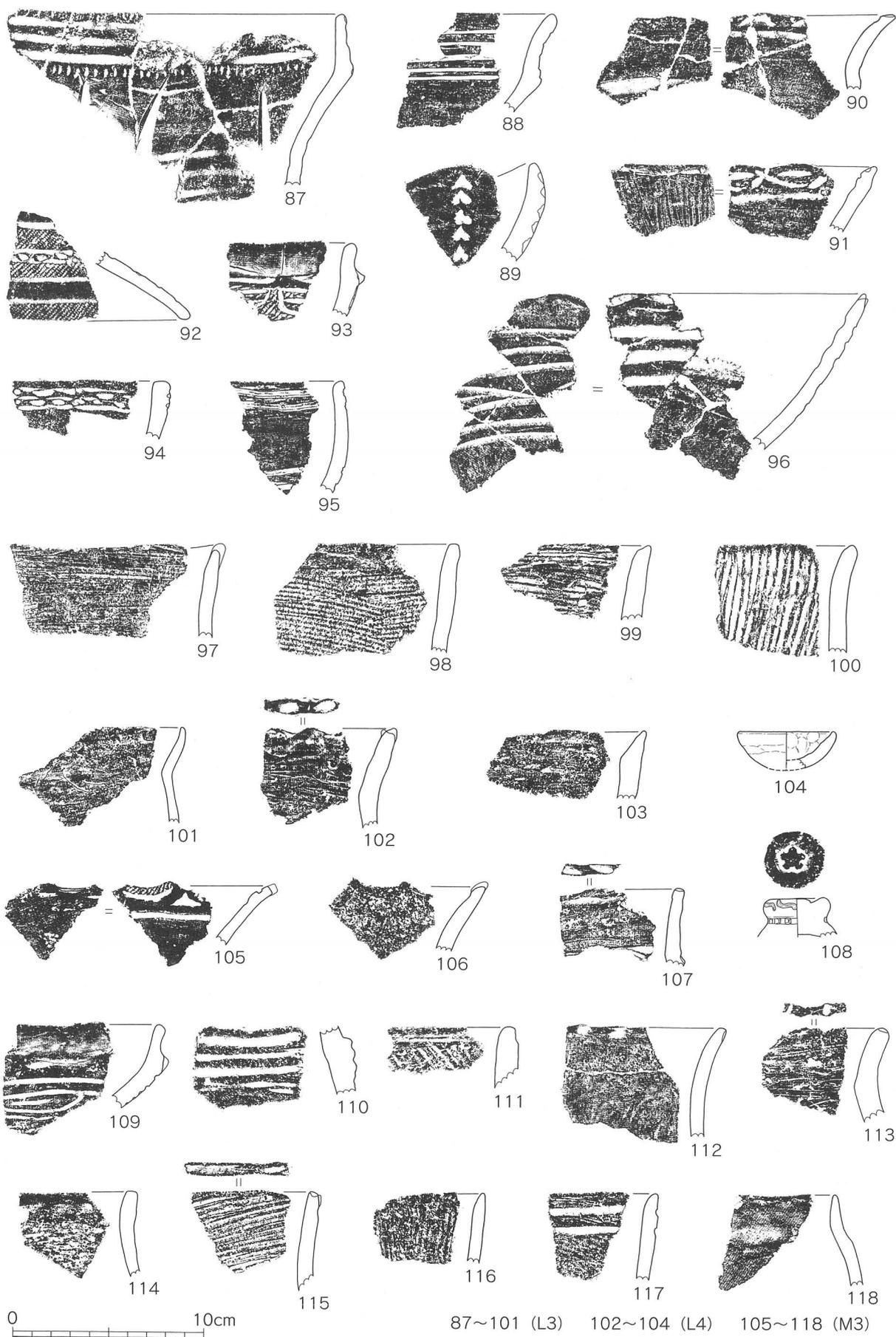
67~70 (J4)

82~86 (K4)

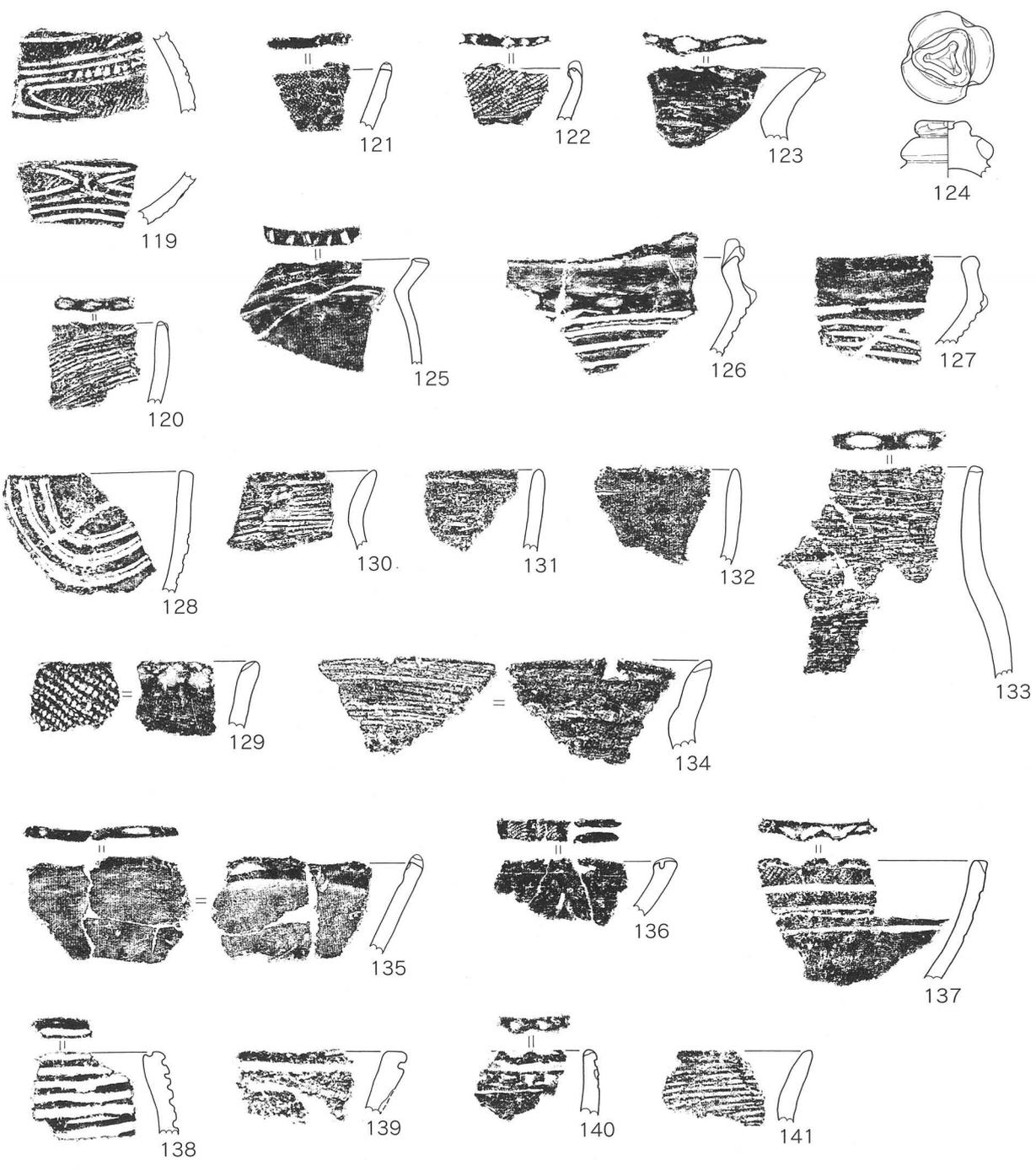
71 (J5)

0 10cm

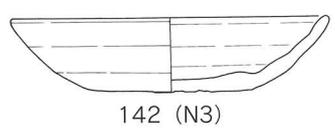
第20图 4区出土土器3 (S=1/3)



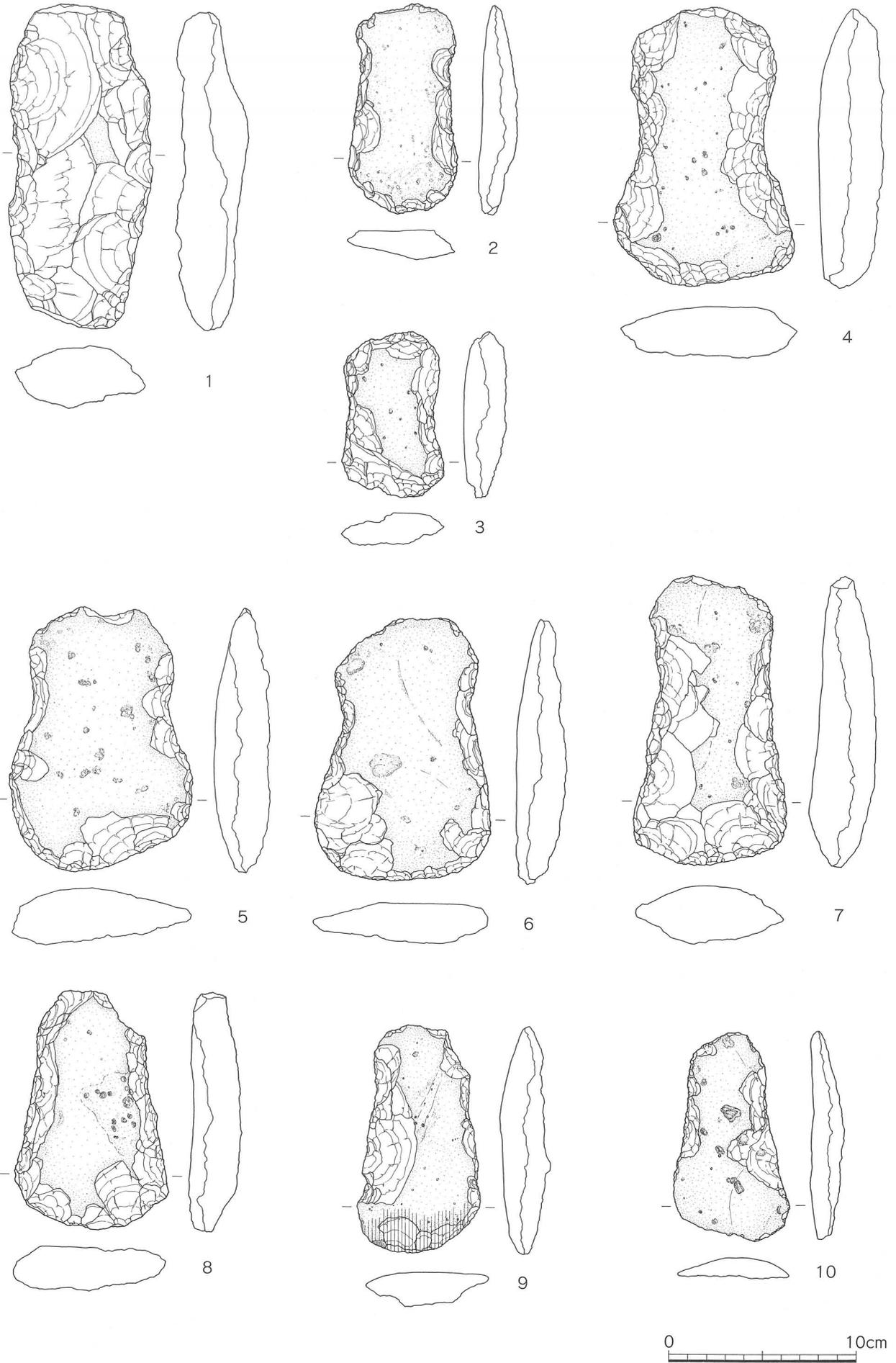
第21图 4区出土土器4 (S=1/3)



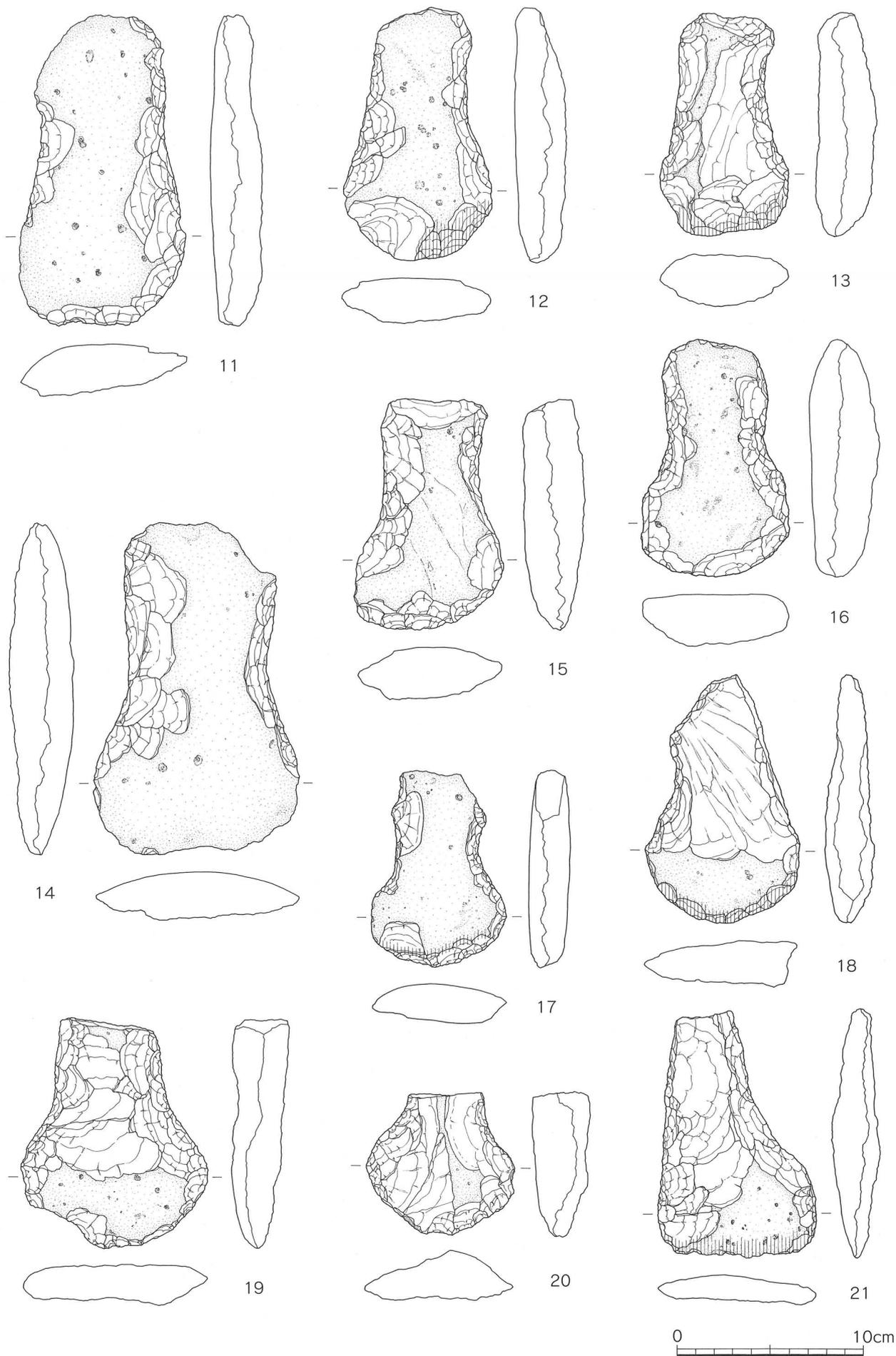
119 · 120 (M4)    121~134 (N3)    135~138 (N4)    139 (O4)    140 (不明)    141 (O3)



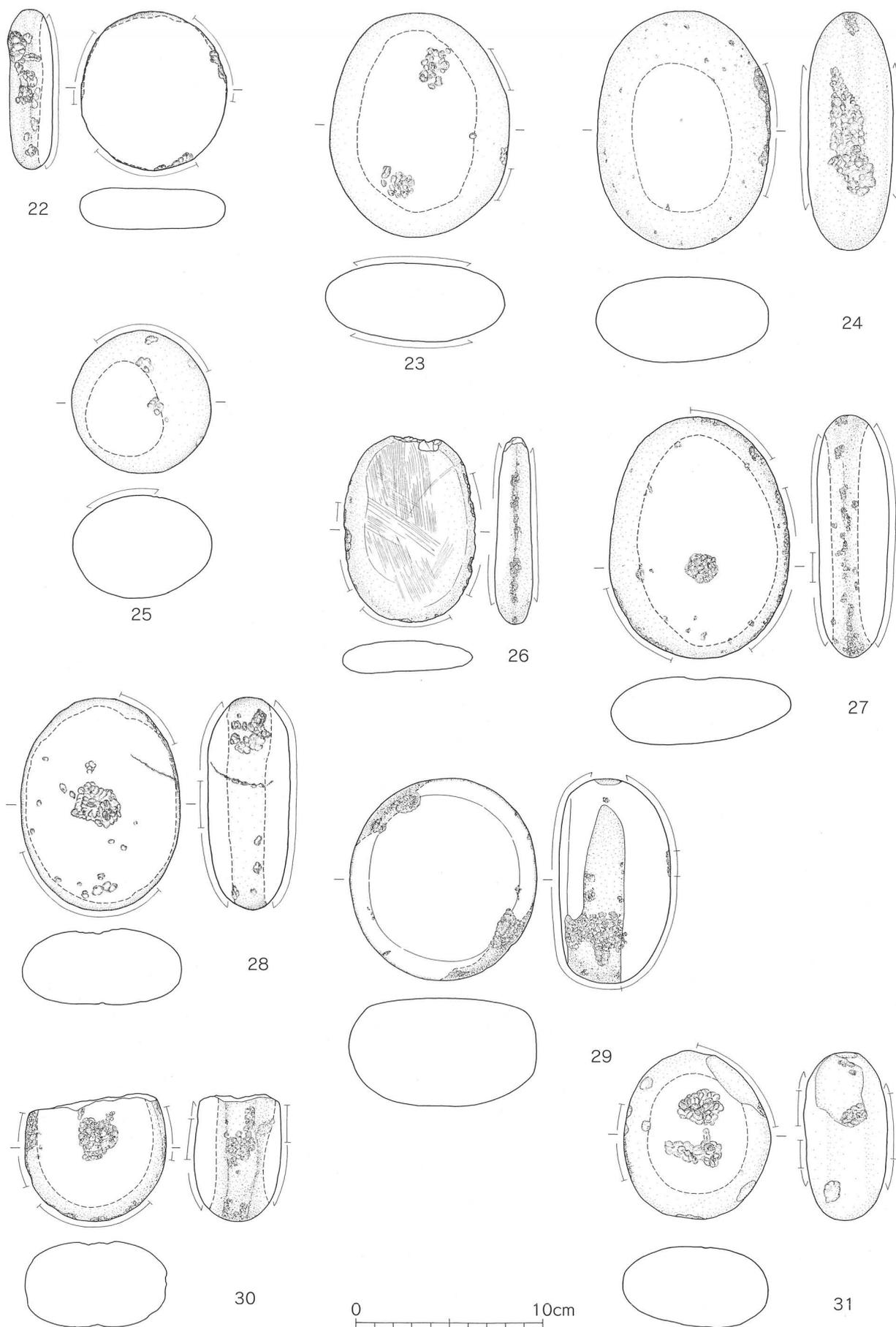
第22图 4区出土土器5 (S=1/3)



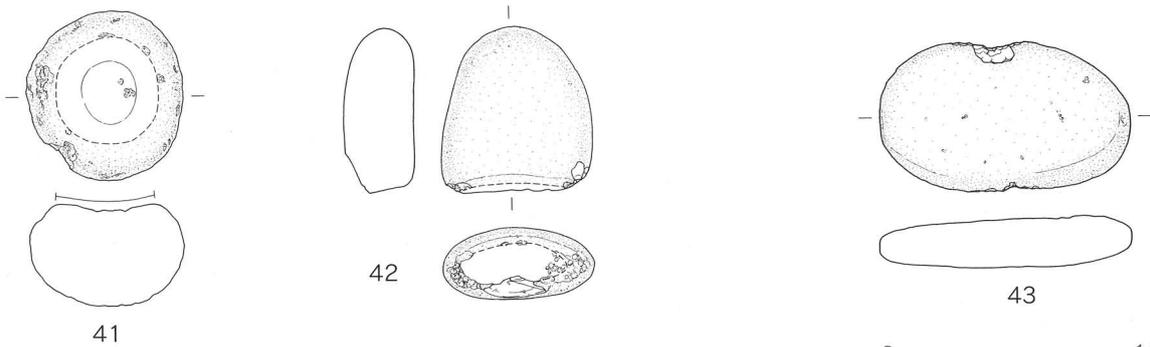
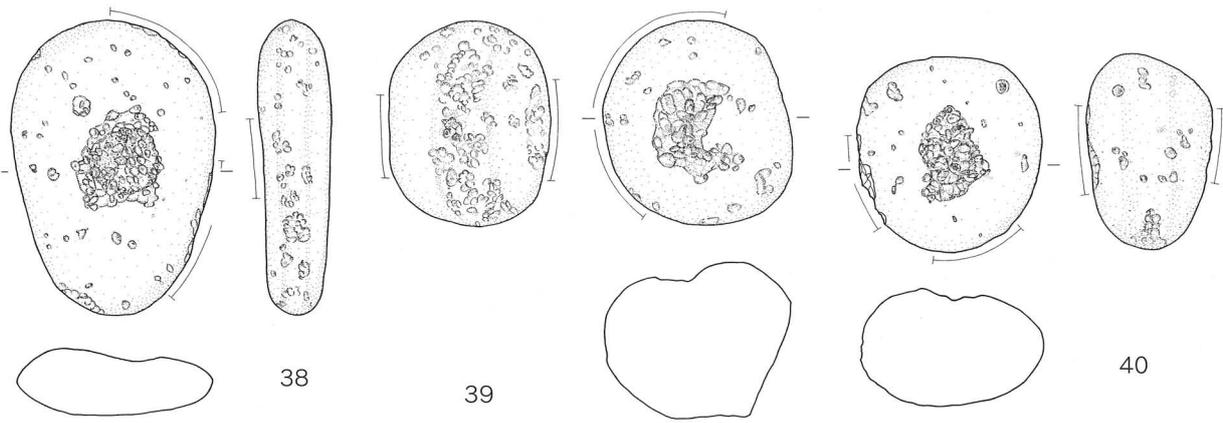
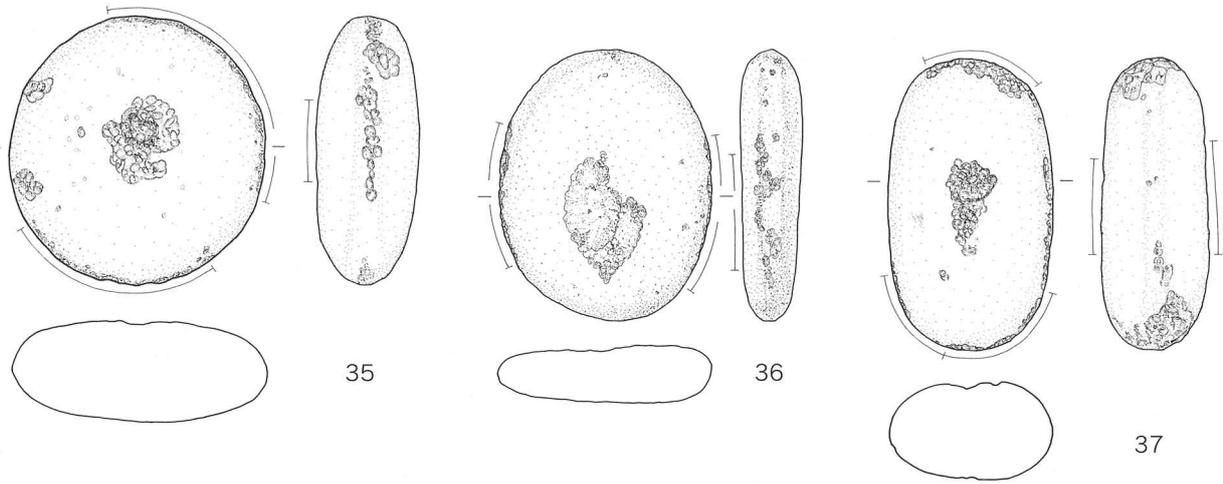
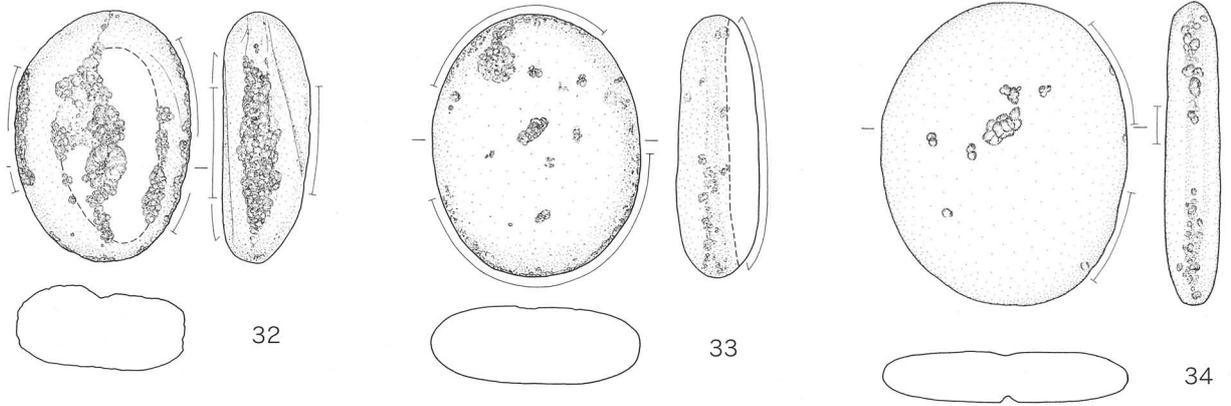
第23图 4区出土石器1 (S=1/3)



第24图 4区出土石器2 (S=1/3)

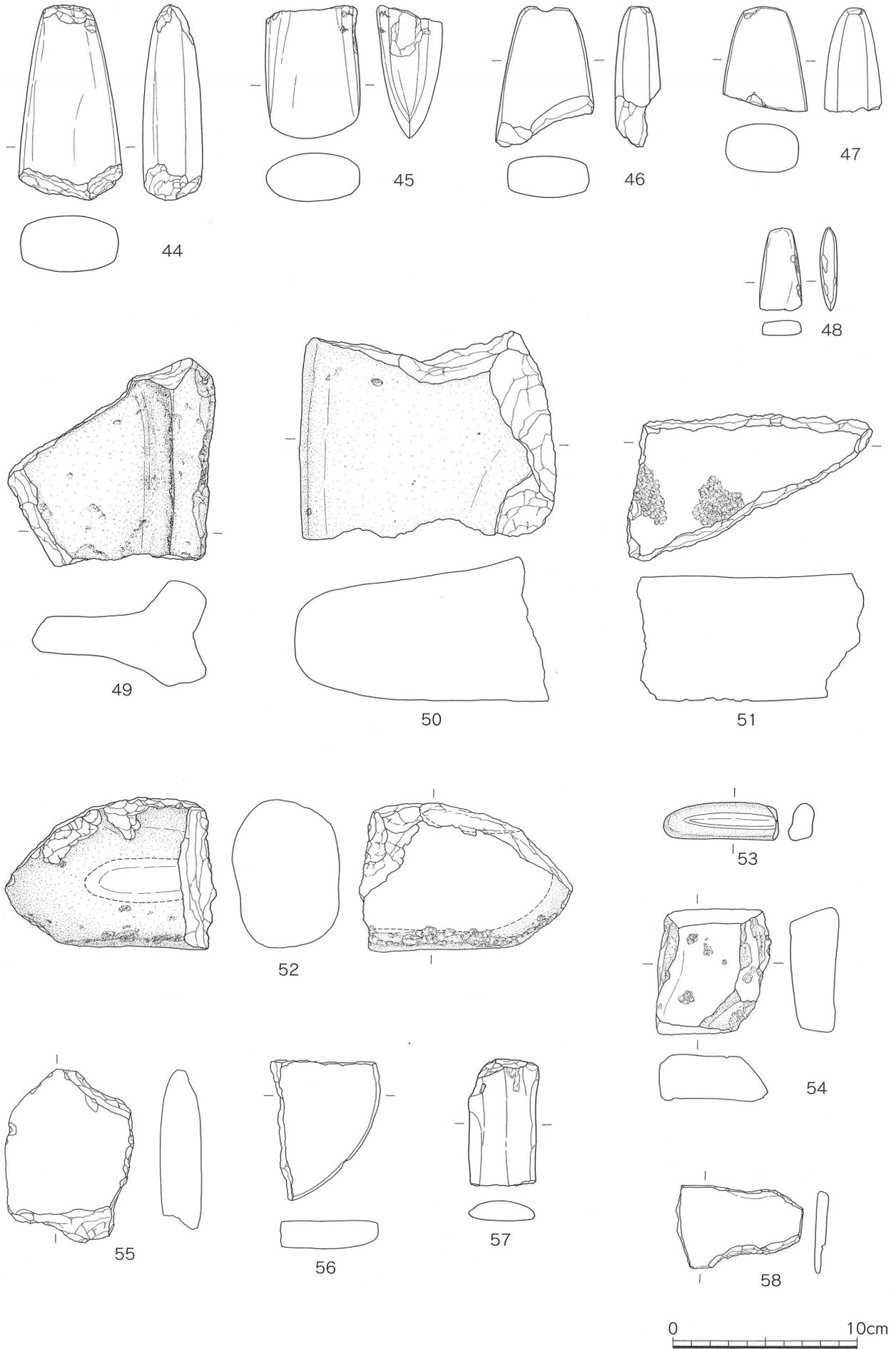


第25图 4区出土石器3 (S=1/3)

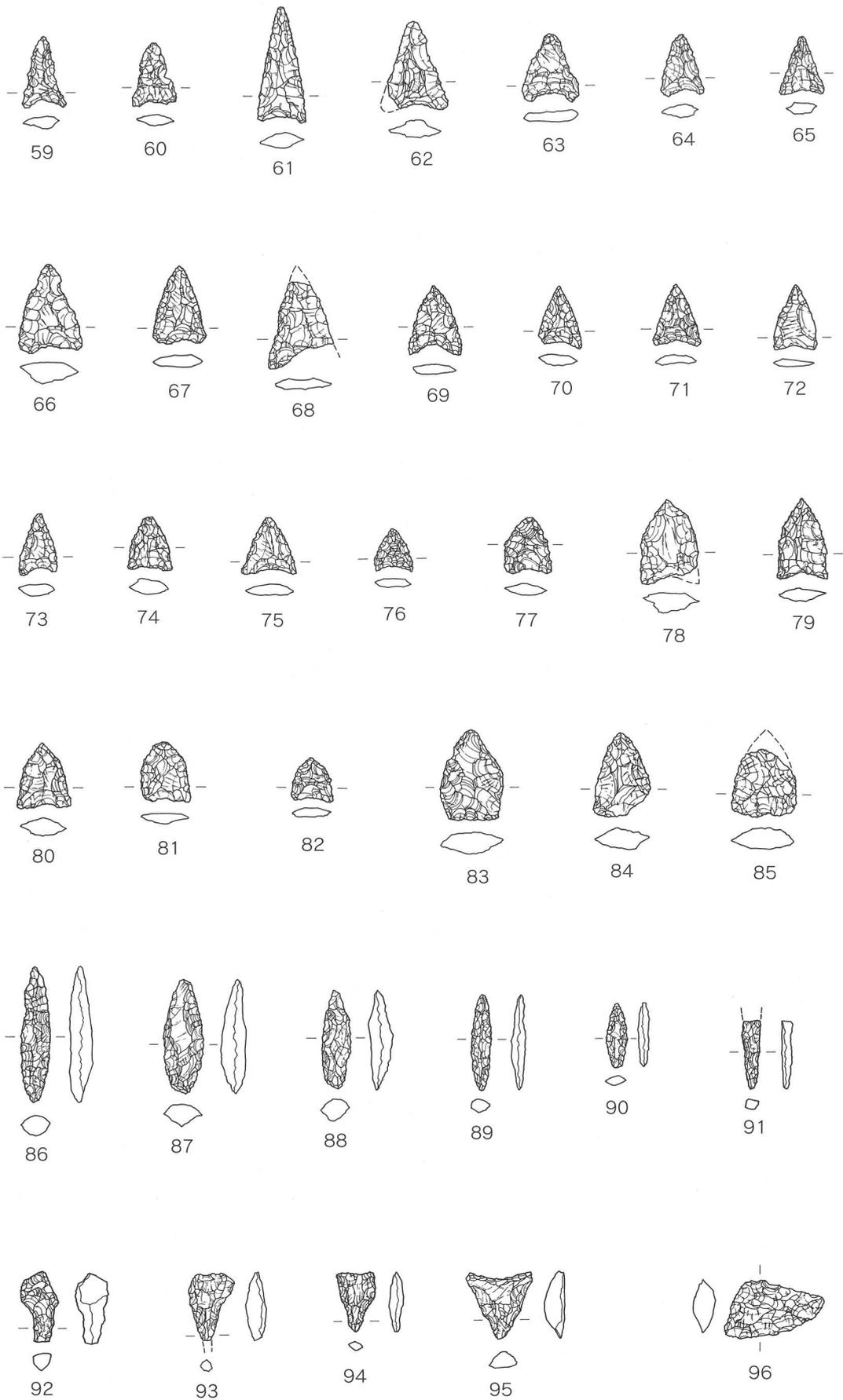


0 10cm

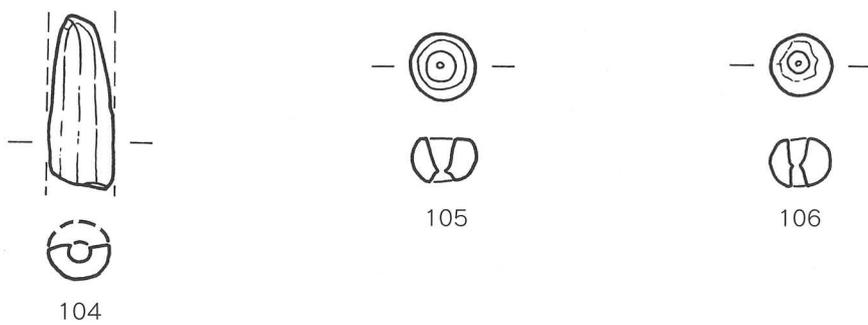
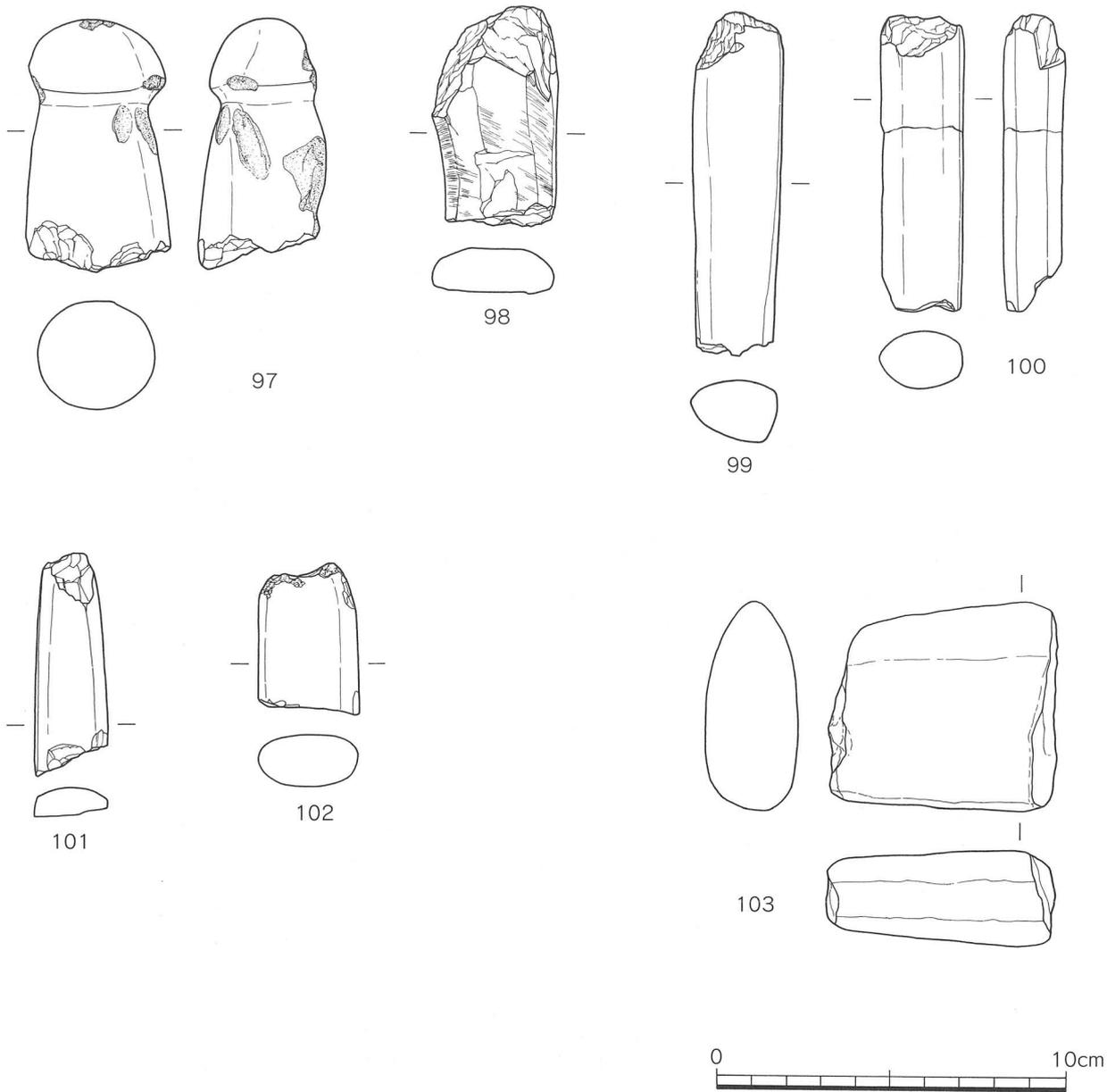
第26图 4区出土石器4 (S=1/3)



第27图 4区出土石器5 (S=1/3)



第28图 4区出土石器6 (S=1/2)



第29图 4区出土石製品 97~103 (S=1/2) 104~106 (S=1/1)

## 第3章 3・4区調査の総括

### 1 縄文時代

調査区における主な遺構は、土坑17基、横位の埋設土器1基である。遺構密度は史跡指定地北側のブナラン地区と比較して低く、集落における本調査区の位置は、縁辺域付近にあたる。また、本調査区南側でも同様な状況を呈し、遺構密度がさらに低くなることもその状況を示している。

出土土器の状況は、わずかであるが後期～晩期前半のものも含むが、主体は晩期後半の中屋3式・下野式・長竹式期で、ほとんどの遺構の所属も該期である。中屋3式以降から深鉢は文様の簡素化が始まり、西日本の影響の受容が想定され、集落の同地区での下野・長竹式期への移行となっていくことが考えられよう。また、第18図2などの長竹式後半期の土器が最終時期となる。3・4区では建物の分布はみられず、この地区以南では、埋設土器と土坑が確認される。本地区以南は、晩期後半期の墓域と理解したい(野々市町教委2003)。

### 2 弥生時代

調査区における当該時期の遺構は少なく、掘立柱建物2棟、土坑3基、区画溝1基である。遺物の時期から月影2～白江式期と考えられる。北東方向に流路をもつ旧河道が遺跡を二分するように位置することから、本期の遺構は、ツカダ地区集落の分布域に含まれるものと考えたい(野々市町教委1984・1989)。

### 3 古代

調査区における当該時期の遺構は少なく、掘立柱建物1棟、溝5条である。2×2間の総柱となる掘立柱建物は、軸方位がツカダ地区(野々市町教委1989)のC群である15号住居・6号掘立と同じくすることから7世紀代の時期が与えられよう。溝については、4区の調査で報告したように、近接した須恵器の時期から9世紀後半頃と推定している。

#### 参考・引用文献

- 植田 文雄 1999 「遺物研究 石皿・磨石・敲石(凹石)」『縄文時代文化研究の100年 第4分冊 遺物研究』縄文時代文化研究会
- 小島 俊彰・西野 秀和・酒井 重洋 1994 「北陸の土器編年―後期後半-晩期中葉」『縄紋晩期前葉-中葉の広域編年』林謙作編
- 酒井 重洋 2008 「中屋式土器」・「下野式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄編 『総覧 縄文土器』刊行委員会
- 鈴木道之助 1981 『図録 石器の基礎知識 III 縄文』柏書房
- 高堀 勝喜 1964 「金沢市近郊八日市新保並びに御経塚遺跡の調査」『石川県押野村史』押野村史編集委員会
- 高堀 勝喜 1975 『石川県御経塚遺跡―第6次調査概報』野々市町教育委員会・御経塚遺跡調査団
- 田嶋 明人 2006 「白江式」再考『吉岡康暢先生古希記念論集 陶磁器の社会史』桂書房
- 親跡 喬・野村 忠司ほか 1996 『籠峰遺跡発掘調査報告書Ⅰ 遺構編』中郷村教育委員会
- 西野 秀和 1989 『金沢市米泉遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 西野 秀和 2008 「御経塚式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄編 『総覧 縄文土器』刊行委員会
- 布尾 和史 2003 「第5章第1節御経塚遺跡における建物跡の検討」『御経塚遺跡Ⅲ』野々市町教育委員会
- 野々市町教育委員会 1983 『野々市町御経塚遺跡』野々市町教育委員会
- 野々市町教育委員会 1984 『野々市町御経塚ツカダ遺跡(御経塚B遺跡)発掘調査報告書Ⅰ』
- 野々市町教育委員会 1989 『御経塚遺跡Ⅱ』
- 野々市町教育委員会 2003 『御経塚遺跡Ⅲ』
- 久田 正弘 1998 「北陸地方西部の土器の動き」『水遺跡発掘調査資料図譜第三冊』水遺跡発掘調査資料図譜刊行会
- 久田 正弘 2004 「北陸西部の晩期中葉の様相」『晩期中葉の再検討』縄文セミナーの会
- 湯尻修平他 1976 『野々市町御経塚遺跡調査(第8次)概報』石川県教育委員会
- 湯尻 修平 1983 「加賀・能登における掘立柱建物の類型と性格」『東大寺横江庄遺跡』松任市教育委員会・石川考古学研究会
- 南 久和 2001 『編年』南書会
- 宮下 健司 1983 「有溝砥石」『縄文文化の研究7 道具と技術』雄山閣
- 矢島 國雄・前山 精明 1983 「石錐」『縄文文化の研究7 道具と技術』雄山閣
- 吉田 淳 2006 「第1章第1節4縄文から弥生へ」『野々市町史 通史編』野々市町

## 第4章 補遺編

### 第1節 遺物

本節は、過去の調査報告書で未掲載となっていた土器、土製品、石器、石製品について第30～41図及び写真図版11～14に示したものである。なお、第37図石器類の写真は掲載していない。また、参照されたい報告書は、表6の冒頭で記し(①～⑥)、各遺物表の行末尾に示した。

#### 1 土器 (第30・31図、表6)

報告する土器は、深鉢5点、浅鉢5点、注口土器1点、蓋2点、底部1点の計14点である。表6において、器種、調査次、出土遺構、出土地点、層位等、法量、備考、時期、遺存率を表記した。

#### 2 土製品 (第32～36図、表7)

報告する土製品は、土偶14点、玉1点、土製円盤104点の計119点である。表7において、器種、調査次、出土遺構、出土地点、層位等、法量、備考、時期、遺存率を表記した。

#### 3 石器 (第37図、表8)

報告する石器は、石匙3点、削器12点、三脚石器1点、異形石器1点の計17点である。表8において、器種、調査次、出土遺構、出土地点、層位等、法量、備考、石質、遺存率を表記した。

#### 4 石製品 (第38～41図、表9)

報告する石製品は、石冠32点、穿孔石製品1点、岩版1点、垂飾(35～40)6点、玉(41～59)19点の計59点である。表8において、器種、調査次、出土遺構、出土地点、層位等、法量、備考、石質、遺存率を表記した。

表6 土器一覧表 (第30・31図)

※調査次は、第1章 表1 調査一覧表参照

※参照報告書 ①石川県教育委員会 1973『野々市町御経塚遺跡』 ②石川県教育委員会 1976『野々市町御経塚遺跡調査(第8次)概報』

③野々市町教育委員会 1983『野々市町御経塚遺跡』 ④野々市町教育委員会 1989『御経塚遺跡Ⅱ』

⑤野々市町教育委員会 2003『御経塚遺跡Ⅲ』

図	番号	器種	調査次	出土遺構	出土地点	層位等	口径(mm)	胴径(mm)	底・摘径(mm)	器高(mm)	備考	遺存等	時期	遺存率	参照報告書
30	1	深鉢	旧7		J-22	S-4	243	183	58	204	4波状、一字文、巻貝八字状押圧文、押圧貼付文	口縁～底部	井口2	95%	③
	2	浅鉢	旧7		J-22	S-3・4	238	—	28	89	4緩波状、沈線文、方形状押圧、赤彩	口縁～底部	井口2	60%	③
	3	浅鉢	旧7		I-23	S-3	238	—	54	88	4波状、平面方形、内面沈線文・刺突文、外面沈線文・円文、内外赤彩	口縁～底部	井口2	60%	③
	4	蓋	旧7		No.156		51	—	—	19	無文、円孔1	口縁～頂部	中屋か	90%	③
	5	深鉢	旧7		K-25		338	—	—	(336)	粗製、平縁、口唇部・胴部全面RL縄文	底部欠損	井口1	80%	③
	6	深鉢	旧7		L-29		320	348	80	477	粗製、口唇内面押圧文、RL縄文全面施文	口縁～底部	井口2	70%	③
	7	深鉢	旧7		M-21	S-3Z	395	369	—	(348)	粗製、斜条痕文、口唇刻目文	口縁～胴下半部	中屋3	40%	③
31	8	注口土器	旧6		B-2	S-5	—	158	56	(110)	凹線文、巻貝押圧文	口縁欠、注口一部欠損	井口1	40%	③
	9	浅鉢	旧6		不明		332	—	58	134	平縁、沈線文	口縁～底部	井口2	30%	③
	10	浅鉢	旧6	B22D・30P			148	149	—	70	丸底、沈線文	口縁～底部	中屋3	50%	③
	11	蓋	旧6	B110P			90	—	摘径33	28	鍵の手法、LR縄文帯、円孔2	口縁～摘部	中屋3	60%	③
	12	浅鉢	不明		不明		184	194	30	98	平縁、菱形文、連結三叉文、弧線文、補修孔1	口縁～胴下半部	八日市新保2	60%	③
	13	深鉢	16次		F-10	2層下	160	—	68	115	平縁、粗製、斜条痕文	口縁～底部	中屋3	90%	④
	14	深鉢底部	旧7		G-8	S-2	—	—	93	(59)	底部編布圧痕、斜条痕文	底部のみ			③

表7 土製品一覧表 (第32~36図)

※調査次は、第1章 表1調査一覧表参照

図	番号	器種	調査次	出土遺構	出土地点	層位等	高・長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考	時期	遺存率	参照報告書	
32	1	土偶	旧7		不明		(33)	(35)	(24)		脚部			③	
	2	土偶	旧9		21Cトレンチ	3層	(38)	(32)	28		腕部			③	
	3	土偶	旧7		M-25	S-1	(31)	(26)	(20)		胴部			③	
	4	土偶	旧7		M-26	S-1	(44)	(60)	(20)		胴部			③	
	5	土偶	旧7		H-22	S-3	(38)	(21)	(22)		腰部			③	
	6	土偶	旧7		I-22	S-4	(53)	(19)	20		胴部			③	
	7	土偶	5		A-10	黒色土上面	(79)	(30)	25		胴部、2片接合			③	
	8	土偶	5	溝	b-3		(38)	(48)	40		胴部、赤彩痕			③	
	9	土偶	旧6		E-0	S-4	(33)	(38)	22		頭部、赤彩痕	御経塚		③	
	10	土偶	4		B-13		(37)	23	19		脚部			①・③	
	11	土偶	17		L2	3	(55)	(68)	(24)		胴部	晩期		④	
	12	土偶	16		K2	S-4上	(66)	(69)	21		腰・脚部			④	
	13	土偶	16		C2	2層上	(50)	31	26		脚部			④	
	14	土偶	16		B3	3層	(54)	(34)	(25)		脚部			④	
	33	15	玉	不明		不明		26	12	12	2.4	管状		100%	③
16		土製円盤	3		A-1・6	黒下	52	43	7	21.1	条痕文		100%	③	
17		土製円盤	3		A-8	黒下	44	41	6	13.5	条痕文		100%	③	
18		土製円盤	3		A-8	黒下	46	42	5	13.5	条痕文		100%	③	
19		土製円盤	3		A-9	黒土上層	39	36	6	13.2	条痕文		100%	③	
20		土製円盤	3		A-9・10	黒下	34	33	6	11.0	無文		100%	③	
21		土製円盤	3	溝	A-9・10	上層	38	32	6	10.5	無文		100%	③	
22		土製円盤	3		A-11・12	包含黒土層	47	47	6	20.7	LR縄文	中屋	100%	③	
23		土製円盤	3		B-7		32	29	6	8.0	RL縄文		100%	③	
24		土製円盤	3		E-10・11	落込み	41	36	6	13.1	条痕文		100%	③	
25		土製円盤	3		F-7	黒下	34	34	7	12.3	無文		100%	③	
26		土製円盤	3		F-9	黒土下層	55	50	7	20.2	沈線文		100%	③	
27		土製円盤	3		不明	表採土上	35	34	5	8.5	無文		100%	③	
28		土製円盤	3		H-3	黒土上層	66	62	10	57.1	無文 底部片使用		100%	③	
29		土製円盤	3	溝	I-4		33	29	7	10.8	無文		100%	③	
30		土製円盤	3		I-12・13	黒色最下	43	35	8	16.5	条痕文		100%	③	
31		土製円盤	5		C-10		36	33	5	9.4	無文		100%	③	
32		土製円盤	5	9D			37	34	7	13.8	無文		100%	③	
33		土製円盤	5	9D			31	28	4	5.9	無文		100%	③	
34		土製円盤	5		E-12	黒色下層	34	32	6	9.6	無文 円孔径5		100%	③	
35		土製円盤	5		E-12	黒上	40	38	6	9.5	無文 円孔径4(焼成前)		100%	③	
36		土製円盤	2		No.13		50	50	5	18.9	無文		100%	③	
37		土製円盤	5		H-9	黒色上面	45	44	5	17.9	無文 円孔径3		100%	③	
38		土製円盤	5	15D			34	32	8	8.3	縄文		100%	③	
39		土製円盤	5		No.561		40	39	6	10.7	無文 円孔未貫通		100%	③	
40		土製円盤	4		A-6		39	36	5	9.4	T字状三叉文	御経塚	100%	①・③	
41		土製円盤	4		A-8		33	30	5	7.2	口縁部使用、LR縄文	中屋	100%	①・③	
42		土製円盤	4		ピット内	A-9		48	45	8	21.9	無文		100%	①・③
43		土製円盤	4			A-16		47	39	8	19.8	無文		100%	①・③
34		44	土製円盤	4		A-13		45	44	5	16.7	無文		100%	①・③
		45	土製円盤	4		A-16		45	39	7	11.1	条痕文		100%	①・③
		46	土製円盤	4		B-9		30	27	9	11.5	無文		100%	①・③
		47	土製円盤	4		B-11		55	51	6	30.9	無文		100%	①・③
	48	土製円盤	4		B-12		50	45	9	26.2	条痕文		100%	①・③	
	49	土製円盤	4		B-16		42	40	6	11.8	無文		100%	①・③	
	50	土製円盤	旧6	B57D			40	40	9	17.2	無文		100%	③	
	51	土製円盤	旧6	B56D			31	28	7	6.1	条痕文		100%	③	
	52	土製円盤	旧6	B56D			60	48	8	28.3	LR縄文	中屋	100%	③	
	53	土製円盤	旧6	B41P			52	45	7	20.1	LR縄文		100%	③	
	54	土製円盤	旧6		C-5・6	S-3	52	47	7	16.6	条痕文		100%	③	
	55	土製円盤	旧6		D-0・1	S-3	43	41	5	11.7	無文 円孔径3		100%	③	
	56	土製円盤	旧6		E-3	S-1	44	39	4	13.4	三叉文	御経塚	100%	③	
	57	土製円盤	旧6		E・F-4	S-2下(3)	58	51	6	21.0	無文 円孔径4		100%	③	
	58	土製円盤	旧6		E-5	S-2	43	39	5	12.6	無文		100%	③	

図	番号	器種	調査次	出土遺構	出土地点	層位等	高・長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考	時期	遺存率	参照報告書	
34	59	土製円盤	旧6		F-5	S-1	62	58	10	38.9	無文		100%	③	
	60	土製円盤	旧6		F-7	S-2	40	38	6	14.6	列点文、LR縄文	中屋	100%	③	
	61	土製円盤	旧6		G-8	S-2	40	38	8	14.8	無文		100%	③	
	62	土製円盤	旧6	2号住			33	33	7	11.0	無文		100%	③	
	63	土製円盤	旧6		H-8	S-2	43	41	8	20.6	条痕文		100%	③	
	64	土製円盤	旧6		H-8	S-2	48	40	7	20.3	無文		100%	③	
	65	土製円盤	旧6		H-8	S-1	41	39	6	10.8	無文 円孔径3		100%	③	
	66	土製円盤	5	63号土坑			52	47	5	18.4	無文 円孔径6		100%	③	
35	67	土製円盤	5	63号土坑			24	20	5	3.1	無文 円孔径4		100%	③	
	68	土製円盤	5		No.1107		46	46	6	12.9	無文 円孔径5		100%	③	
	69	土製円盤	5		No.1007		57	51	5	20.8	無文 円孔径4		100%	③	
	70	土製円盤	旧6		不明		41	35	7	15.7	無文		100%	③	
	71	土製円盤	旧6		不明		38	35	7	11.6	無文 赤彩痕		100%	③	
	72	土製円盤	旧6		不明		35	33	7	9.2	沈線文		100%	③	
	73	土製円盤	旧8		A-I	黒色土下層	38	38	6	11.3	無文		100%	③	
	74	土製円盤	旧7		L-23	S-3	45	43	10	20.7	条痕文		100%	③	
	75	土製円盤	旧7	196D			42	35	6	14.5	無文		100%	③	
	76	土製円盤	旧7	183D			41	37	7	15.6	無文 円孔未貫通		100%	③	
	77	土製円盤	旧7	183D			30	27	6	6.1	無文		100%	③	
	78	土製円盤	5		E-11	黒色土	40	36	5	10.4	無文		100%	③	
	79	土製円盤	旧7		F-19	S-3	47	44	6	14.3	無文		100%	③	
	80	土製円盤	旧7		G-19	S-2	48	47	7	17.2	無文		100%	③	
	81	土製円盤	旧7		G-19	S-1	72	71	7	44.8	条痕文 円孔径4		100%	③	
	82	土製円盤	旧7		G-20	砂層質	44	39	8	14.7	条痕文		100%	③	
	83	土製円盤	旧7		G-21	S-2	45	39	4	10.4	無文		100%	③	
	84	土製円盤	旧7		G-21	S-2	44	40	6	14.4	無文 円孔径5 四角形未成品		100%	③	
	85	土製円盤	旧7		G-22	S-2	51	44	5	17.3	無文		100%	③	
	86	土製円盤	旧7		G-22	S-2	30	29	5	4.6	無文		100%	③	
	87	土製円盤	旧7		G-23	S-3	40	40	4	10.3	無文		100%	③	
	88	土製円盤	旧7	5号住			58	51	11	29.9	無文		100%	③	
	89	土製円盤	旧7	5号住		上層	51	50	7	23.8	無文		100%	③	
	90	土製円盤	旧7		G-23	S-3	29	28	6	6.6	無文		100%	③	
	91	土製円盤	旧7		H-21	S-2	45	37	6	14.0	無文 円孔未貫通		100%	③	
	92	土製円盤	旧7		H-23	S-2	40	40	6	12.1	無文 円孔未貫通		100%	③	
	93	土製円盤	旧7		H-23	S-1	40	38	5	10.1	無文		100%	③	
	94	土製円盤	旧7		I-21	S-2	32	32	6	9.9	RL縄文		100%	③	
	95	土製円盤	旧7		I-22	セクション	37	36	9	11.8	無文 円孔径5		100%	③	
	36	96	土製円盤	旧7		I-26	S-3	39	43	5	11.2	無文		100%	③
		97	土製円盤	旧7		I-25	S-2	39	35	5	11.5	無文		100%	③
		98	土製円盤	旧7		F-10		40	38	9	14.7	無文		100%	③
		99	土製円盤	旧7		K-26	S-3	38	35	7	14.3	無文		100%	③
100		土製円盤	旧7		K-27	S-3	40	35	7	10.8	条痕文		100%	③	
101		土製円盤	旧8		Y-b	暗褐色土	35	33	7	11.6	無文		100%	③	
102		土製円盤	旧8		W-b	黒色下層	44	38	4	11.2	無文 円孔径6		100%	③	
103		土製円盤	旧7	5号住			53	50	8	37.2	RL縄文	御経塚	100%	③	
104		土製円盤	旧7	86D			56	55	9	32.9	無文		100%	③	
105		土製円盤	旧7		不明		60	53	7	27.9	LR縄文	中屋	100%	③	
106		土製円盤	旧7		不明		44	38	10	16.7	条痕文		100%	③	
107		土製円盤	旧7		不明		32	30	7	9.3	無文		100%	③	
108		土製円盤	旧7		不明		33	32	6	7.2	無文		100%	③	
109		土製円盤	旧8		リ-b	S-2黒色包	70	59	7	42.4	条痕文		100%	②・③	
110		土製円盤	旧8		リ-b		61	59	6	25.8	条痕文		100%	②・③	
111		土製円盤	5		A-3	S-2	47	42	8	22.9	無文		100%	③	
112		土製円盤	不明		不明		32	28	5	7.2	無文		100%	③	
113		土製円盤	旧7	86D			34	33	9	9.9	条痕文		100%	③	
114		土製円盤	旧6	B72D			43	37	6	10.3	条痕文		100%	③	
115		土製円盤	4		A-7		35	34	8	11.5	無文		100%	①・③	
116		土製円盤	16		K2	4	47	43	7	19.8	無文		100%	④	
117		土製円盤	16		J2		49	46	5	16.1	無文		100%	④	
118		土製円盤	16		M2	3	57	53	5	23.2	無文		100%	④	
119		土製円盤	16		H2	2	55	51	6	25.8	無文		100%	④	

表 8 石器一覧表 (第37図)

※調査次は、第1章 表1調査一覧表参照

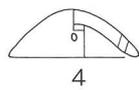
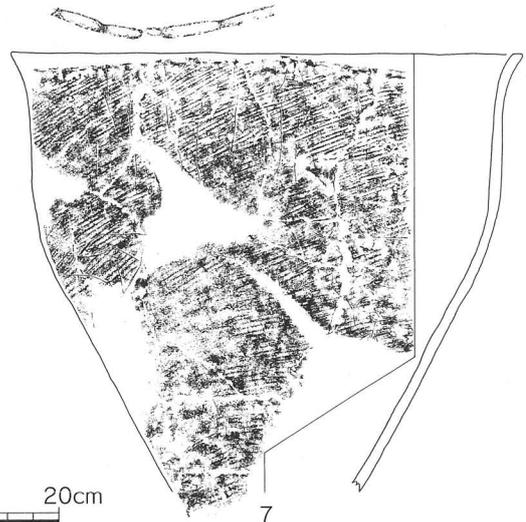
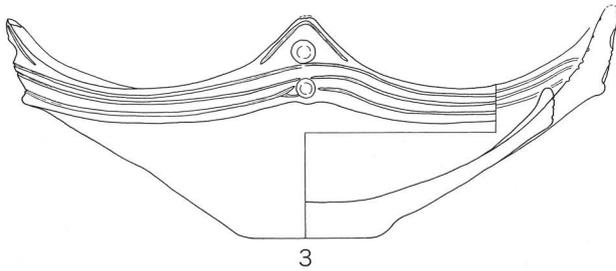
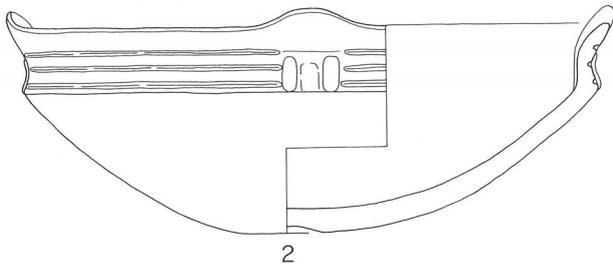
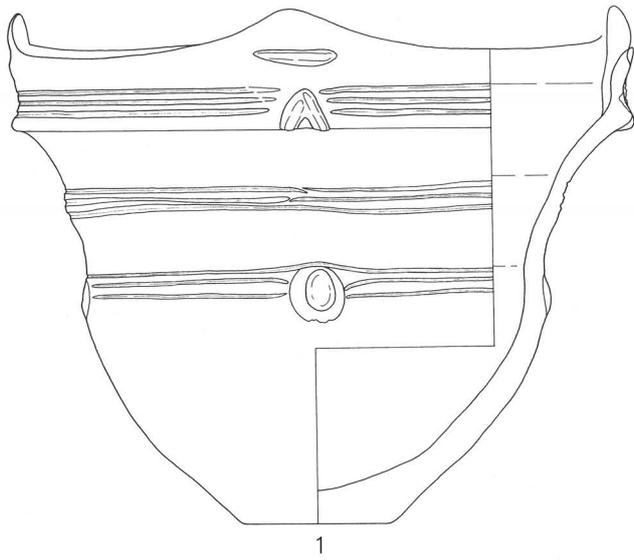
図	番号	器種	調査次	出土遺構	出土地点	層位等	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	形態	備考	石質	遺存率	参照報告書
37	1	石匙	5	溝	AF区	砂礫層	52	31	7	13.9	縦形	未製品	輝石安山岩	100%	③
	2	石匙	5	溝	b-3		58	29	10	19.9	縦形		フリント	100%	③
	3	石匙	旧6		G-5	S-1	86	28	8	30.0	縦形	刃部再生	頁岩	100%	③
	4	削器	5		H-12	黒色土下層	48	13	4	3.1			フリント	100%	③
	5	削器	5		不明	攪乱砂層	59	25	10	14.9			フリント	100%	③
	6	削器	5		G-15	砂層上面	41	29	6	8.5			珪化凝灰岩	100%	③
	7	削器	旧6	B2D			50	37	12	22.1			輝石安山岩	100%	③
	8	削器	旧6		BY区	S-5	52	34	11	18.1			輝石安山岩	100%	③
	9	削器	旧6		H-6	S-2	64	31	10	20.1			輝石安山岩	100%	③
	10	削器	旧6		G・H-6	S-2、下(3)	111	48	14	68.5			輝石安山岩	100%	③
	11	削器	5		B-10	黒下	59	36	8	13.6			輝石安山岩	100%	③
	12	削器	5		K-16	黒色土層	46	42	7	21.0			輝石安山岩	100%	③
	13	削器	旧7		L-22	S-4	60	37	8	26.9			輝石安山岩	100%	③
	14	削器	旧7		I-20	S-4	69	49	12	42.2			輝石安山岩	100%	③
	15	削器	16	18号住		下層	59	55	11	25.7			輝石安山岩	100%	④
	16	三脚石器	旧7		L-20	S-3	120	112	39	500			緑色凝灰岩	100%	③
	17	異形石器	旧7		M-24	S-3	59	25	4	5.0	y字形		フリント	100%	③

表 9 石製品一覧表 (第38～40図)

※調査次は、第1章 表1調査一覧表参照

図	番号	器種	調査次	出土遺構	出土地点	層位等	長 (mm)	幅 (mm)	高 (mm)	重さ (g)	形態・備考	石質	遺存率	参照報告書
38	1	石冠	旧8		Bトレンチ北側		102	37	79	(250)	亀頭状頭部	緑色凝灰岩	97%	②・③
	2	石冠	5		No.554		117	44	(53)	(260)	亀頭状頭部、被熱	砂岩	60%	③
	3	石冠	旧6		E-1	S-2	68	(41)	60	(170)	斧頭状、基部、被熱	輝緑凝灰岩	70%	③
	4	石冠	不明		不明		113	61	83	500	斧頭状、基部、被熱	粗粒砂岩	100%	③
	5	石冠	旧7		M-21	S-4	(66)	(43)	83	(240)	縦長形、基部、被熱	火山礫凝灰岩	60%	③
	6	石冠	5		No.492		58	51	(36)	(133)	縦長形、基部、被熱	砂岩	50%	③
	7	石冠	旧8		ヌ-b	地山漸移層	64	56	(39)	(170)	縦長形、基部	緑色凝灰岩	95%	②・③
	8	石冠	旧7		No.123	黒色	(61)	50	104	(330)	縦長形	緑色凝灰岩	90%	③
	9	石冠	不明		No.54	S-1	64	62	43	(210)	斧頭状、基部	火山礫凝灰岩	90%	③
	10	石冠	5		不明	排土中表採	72	50	62	(295)	斧頭状、基部、被熱	緑色凝灰岩	95%	③
	11	石冠	旧7		L-22	S-1	60	37	58	(127)	斧頭状、基部、被熱	凝灰岩	80%	③
	12	石冠	不明		不明		(109)	58	76	(375)	半円斧頭状、基部	凝灰岩	80%	③
	13	石冠	旧6		F-4		87	42	63	(365)	半円斧頭状、基部	砂岩	95%	③
39	14	石冠	旧6		F-4	S-1	70	36	60	(200)	斧頭状、端面	泥岩	85%	③
	15	石冠	旧7		G-23	S-2	75	38	60	(250)	斧頭状、端面、被熱	凝灰岩	95%	③
	16	石冠	旧7		L-19	S-4~6	(145)	(41)	85	(415)	斧頭状、端面、被熱	緑色凝灰岩	50%	③
	17	石冠	旧7		J-20	S-2	146	38	70	(370)	半円斧頭状、被熱	緑色凝灰岩	90%	③
	18	石冠	不明		No.906		(131)	49	65	(460)	鯉節形、被熱	緑色凝灰岩	50%	③
	19	石冠	旧7		J-22、I-24	S-5、S-2	(171)	50	66	(515)	鯉節形、被熱	緑色凝灰岩	50%	③
	20	石冠	旧7		J-22		247	48	69	(740)	鯉節形	緑色凝灰岩	95%	③
	21	石冠	5		No.332		(198)	35	46	(313)	鯉節形	緑色凝灰岩	70%	③
	22	石冠	旧6		AB区N	黒褐色土	293	47	65	992	鯉節形	緑色凝灰岩	100%	③
	23	石冠	旧7		J-24	S-2	153	39	71	695	半円形	砂岩	100%	③
40	24	石冠	旧6		F-4	S-1	146	48	87	(810)	半円斧頭状	凝灰岩	95%	③
	25	石冠	不明		No.868		(149)	39	82	(698)	鯉節形、被熱	緑色凝灰岩	60%	③
	26	石冠	旧7		M-21	S-2	180	42	76	(727)	斧頭状、端面、連結三叉文、八日市新保	緑色凝灰岩	95%	③
	27	石冠	不明		不明		231	44	80	(940)	鯉節形、被熱、線刻、八日市新保2	緑色凝灰岩	90%	③

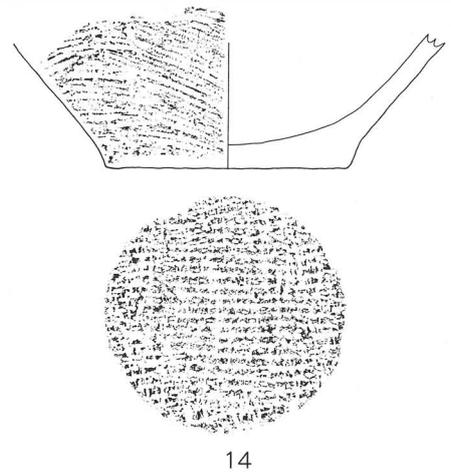
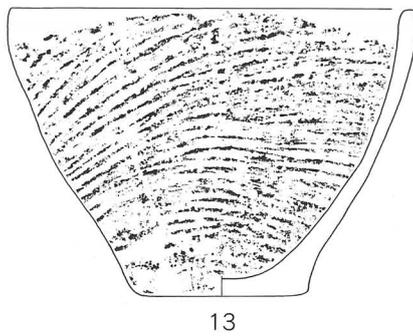
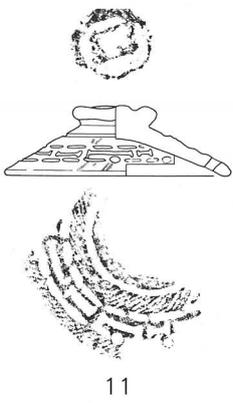
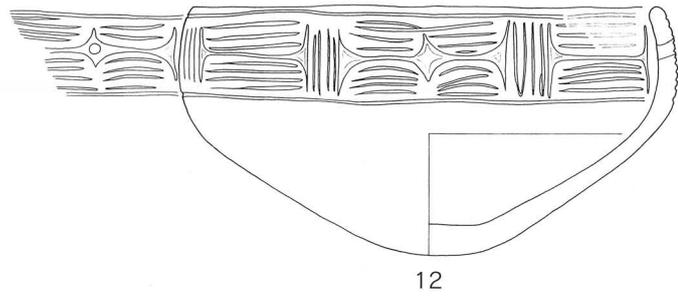
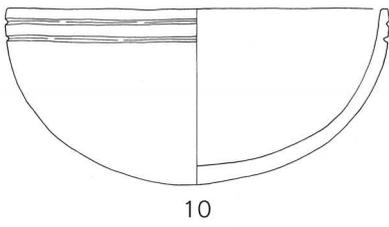
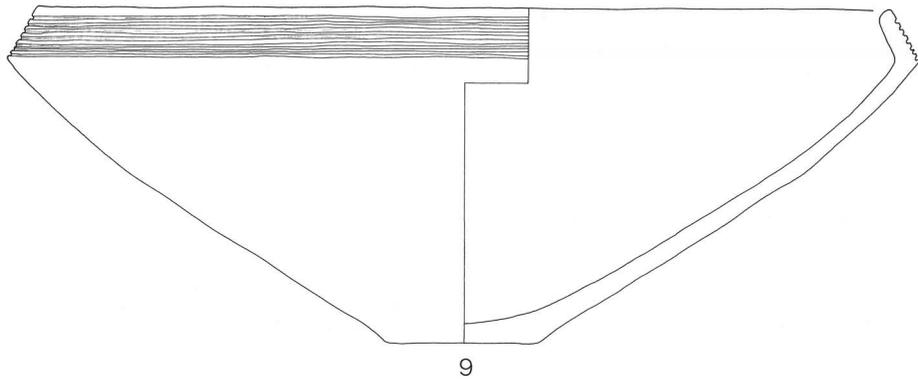
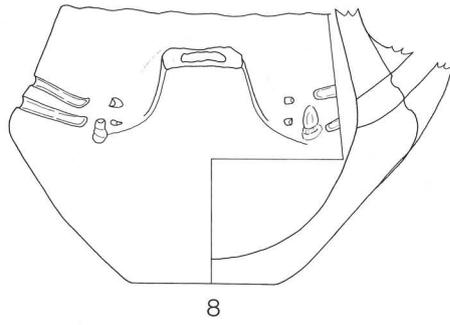
図	番号	器種	調査次	出土遺構	出土地点	層位等	長 (mm)	幅 (mm)	高 (mm)	重さ (g)	形態・備考	石質	遺存率	参照報告書
40	28	石冠	5		A-12-9、 ~C-12-9		(111)	57	70	(650)	縦長形、断面三角形	凝灰岩	70%	③
	29	石冠	21		X-3	S-3直下	(152)	49	51	(515)	縦長形、断面三角形	凝灰岩	95%	⑤
	30	石冠	5		G-12	地山 No.1011	77	50	63	(320)	頭部整形、被熱	砂岩	95%	③
	31	石冠	旧6		不明		73	49	64	(315)	頭部整形	砂岩(粗粒)	95%	③
	32	石冠	旧6		N-4 H-20	S-2 No.363 S-2	(160)	34	68	(335)	石鋸形、被熱	緑色凝灰岩	65%	③
	33	穿孔石製品	25		G-8	B・BG	48	42	10	27.3	楕円形、孔径6	緑色凝灰岩	100%	⑤
	34	岩版	旧7		I-24	S-3	(115)	99	39	(342)	凹、側面溝	白色凝灰岩	60%	③
41	35	勾玉	不明		不明		(11)	5	3	(0.7)		ガンクローム	80%	③
	36	垂玉	旧6		G-8	S-1	23	14.5	6	(2.5)	穿孔	ろう石	80%	③
	37	垂玉	不明		不明		19	15	6	2.5	穿孔	含硬玉珪質岩	100%	③
	38	垂玉 (未製品)	旧6		E-8	S-2	18	8	4	(0.9)	未製品	石筆質	95%	③
	39	垂飾 (未製品)	旧7		L-25	S-1	26	7.5	4	1.2	未製品	流紋岩	100%	③
	40	垂飾	旧7		I-23	S-1	(42.5)	21	8	(13.5)		凝灰岩	60%	③
	41	白玉	旧7		H-22	S-2	4.5	7.0	7.0	0.4		石筆質	100%	③
	42	白玉	旧7		不明	排土	2.0	5.0	5.0	0.1		石筆質	100%	③
	43	白玉	旧7		J-21	S-3	7.0	10.0	10.0	1.0		石筆質	100%	③
	44	白玉	不明		不明		4.0	7.5	7.5	0.3		石筆質	100%	③
	45	白玉	旧6		E-6	S-1	6.5	8.5	8.0	0.7		石筆質	100%	③
	46	白玉	旧7		G-20	S-1	3.5	8.5	8.0	0.4		含硬玉珪質岩	100%	③
	47	丸玉	不明		不明		6.5	9.0	8.5	0.7		含硬玉珪質岩	100%	③
	48	丸玉	旧7		L-22	S-1	7.0	9.5	9.5	1.2		含硬玉珪質岩	100%	③
	49	丸玉	不明		不明		6.0	8.0	8.0	0.4		含硬玉珪質岩	100%	③
	50	丸玉	旧7		J-22	S-2	7.0	9.5	9.5	1.0		含硬玉珪質岩	100%	③
	51	丸玉	不明		不明		12.0	13.5	13.0	3.3		含硬玉珪質岩	100%	③
	52	丸玉	不明		不明		9.0	11.0	10.5	(1.5)		石筆質	95%	③
	53	丸玉	不明		不明		8.5	12.5	12.0	2.3		含硬玉珪質岩	100%	③
	54	丸玉	不明		不明		9.0	8.5	7.5	0.8		含硬玉珪質岩	100%	③
	55	丸玉	16		不明		8.0	9.0	8.5	0.9		含硬玉珪質岩	100%	④
	56	長玉	旧6		不明	表採	7.5	6.5	5.5	0.4		ガンクローム	100%	③
	57	長玉	旧7		G-22	S-4	21.0	11.5	11.0	3	切断痕あり	珪質岩	100%	③
58	長玉	不明		不明		16.0	11.0	9.0	(2.4)		緑色凝灰岩	95%	③	
59	長玉	旧6	10号D			23.0	13.0	8.0	(3.2)		蛇紋岩	60%	③	



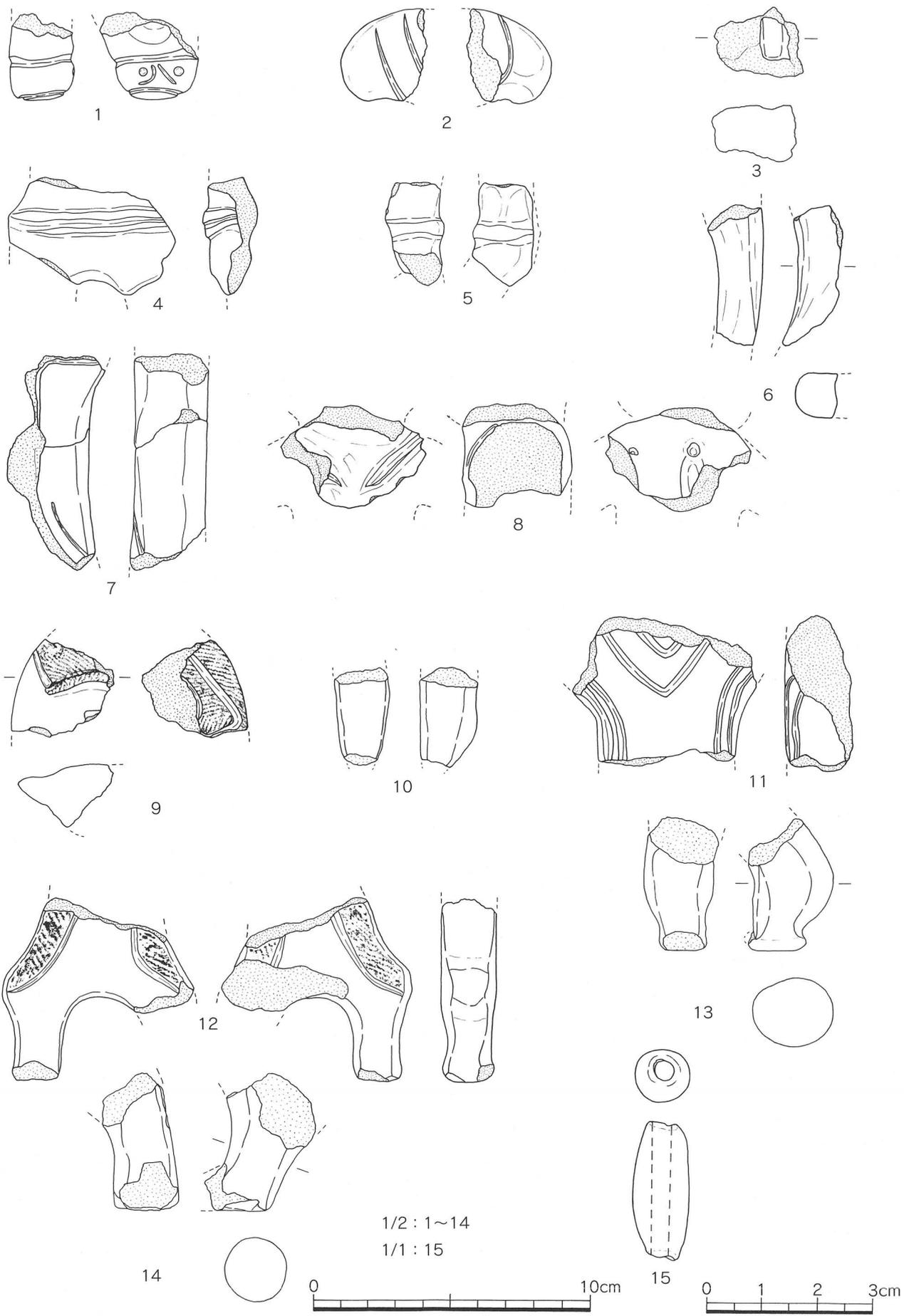
0 10cm 1/3 : 1~4

0 10 20cm 1/6 : 5~7

第30图 土器1 (S=1/3 · 1/6)

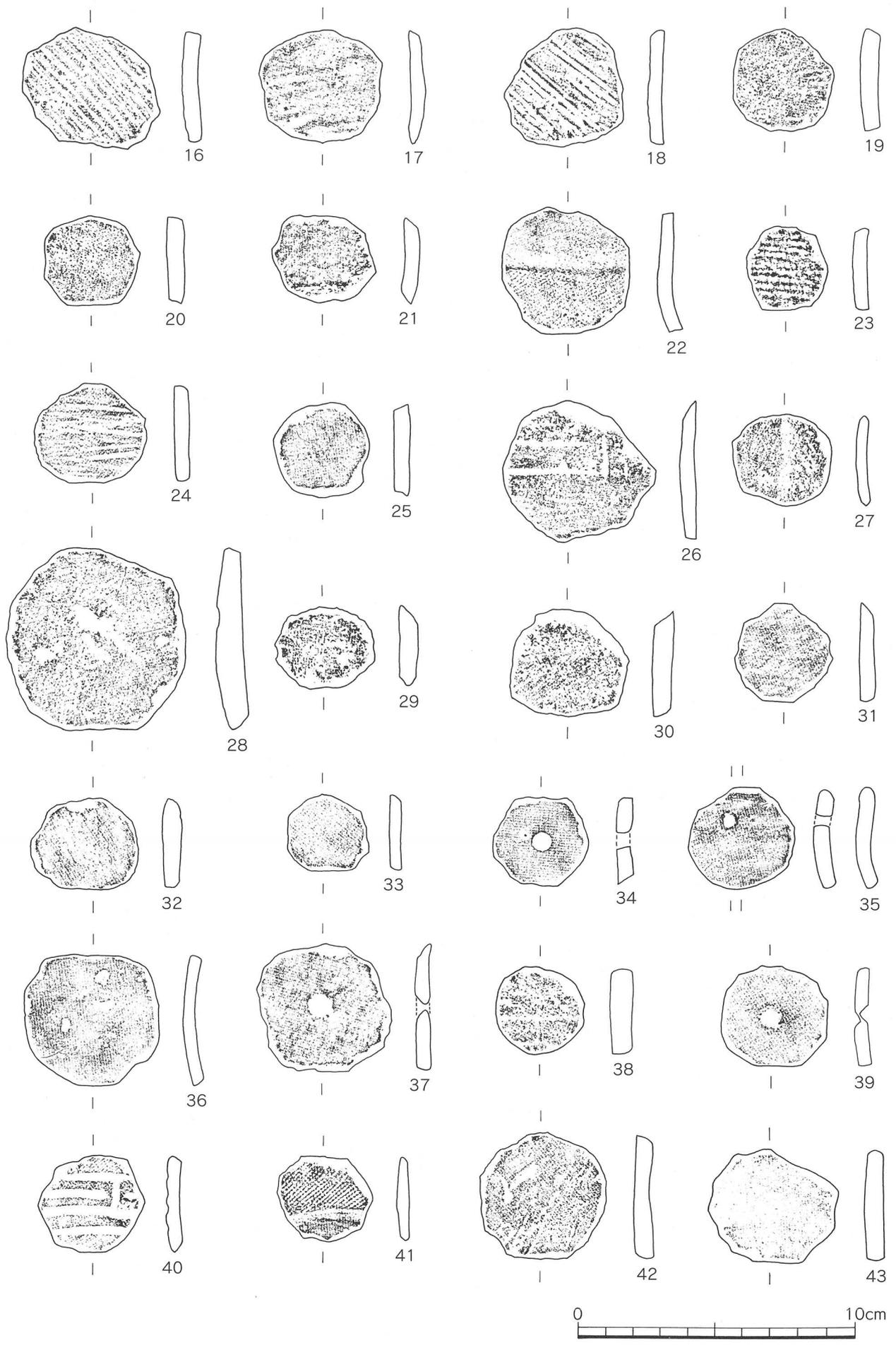


第31図 土器 2 (S=1/3)

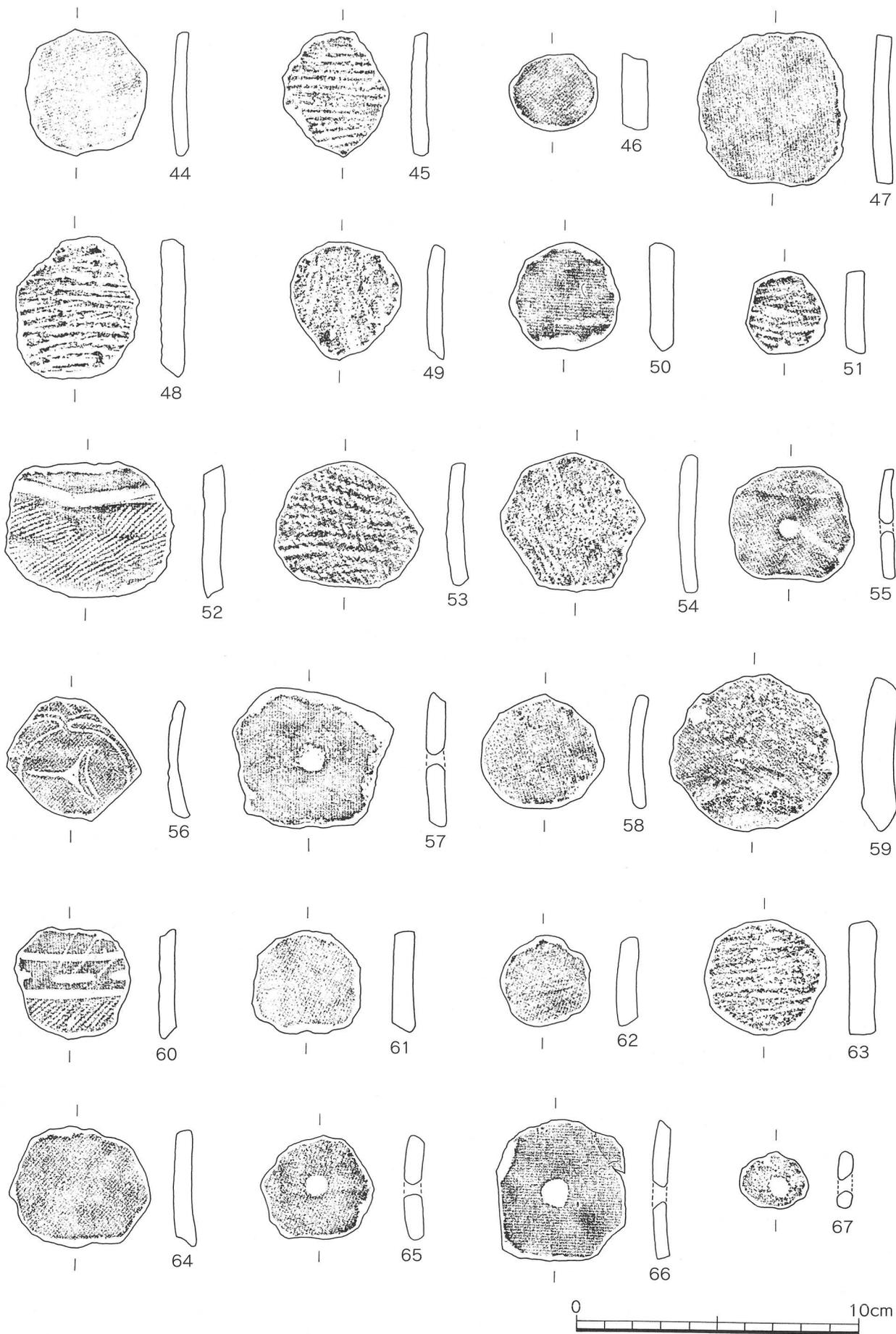


1/2 : 1~14  
 1/1 : 15

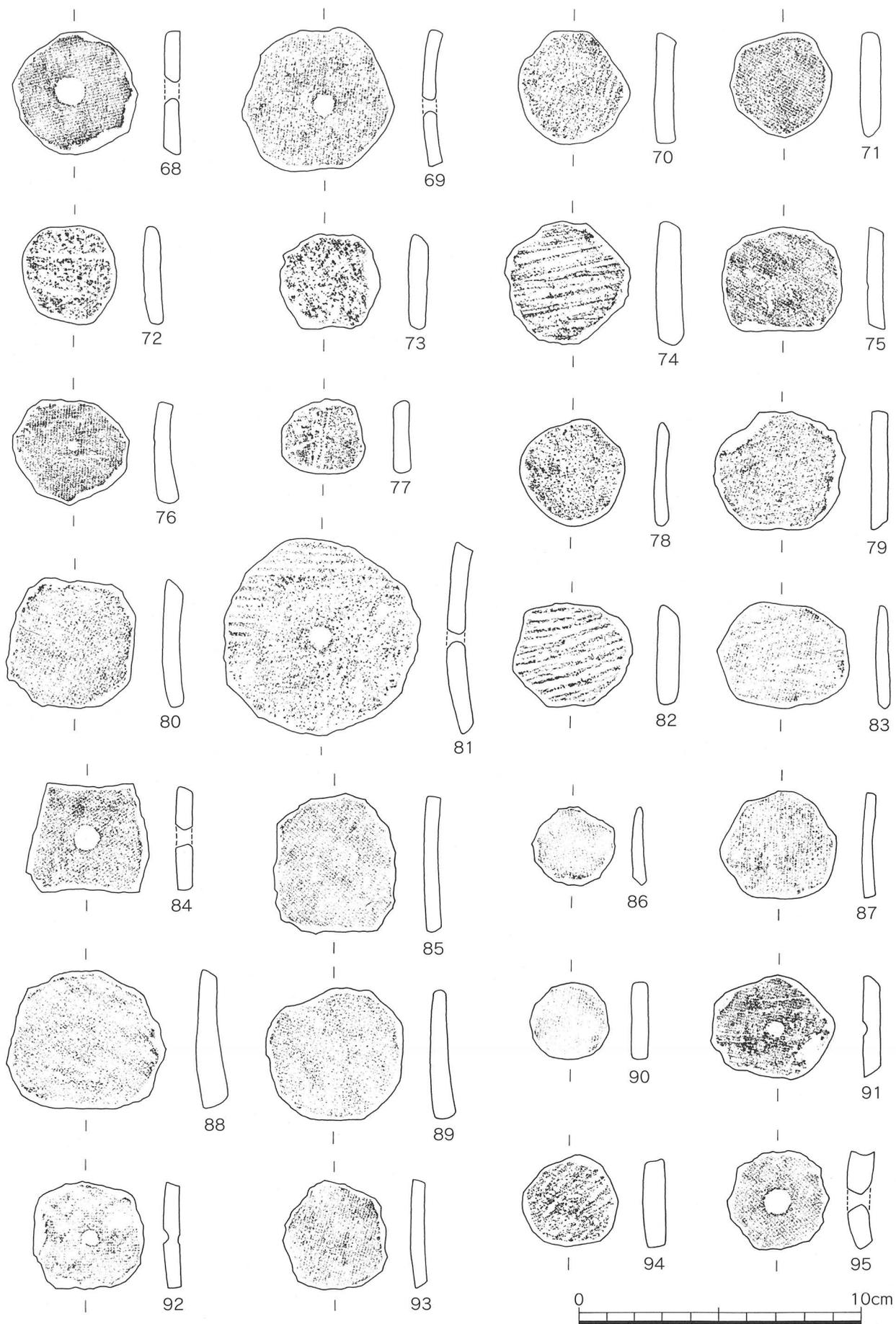
第32図 土製品 1 (S= 1/2 · 1/1)



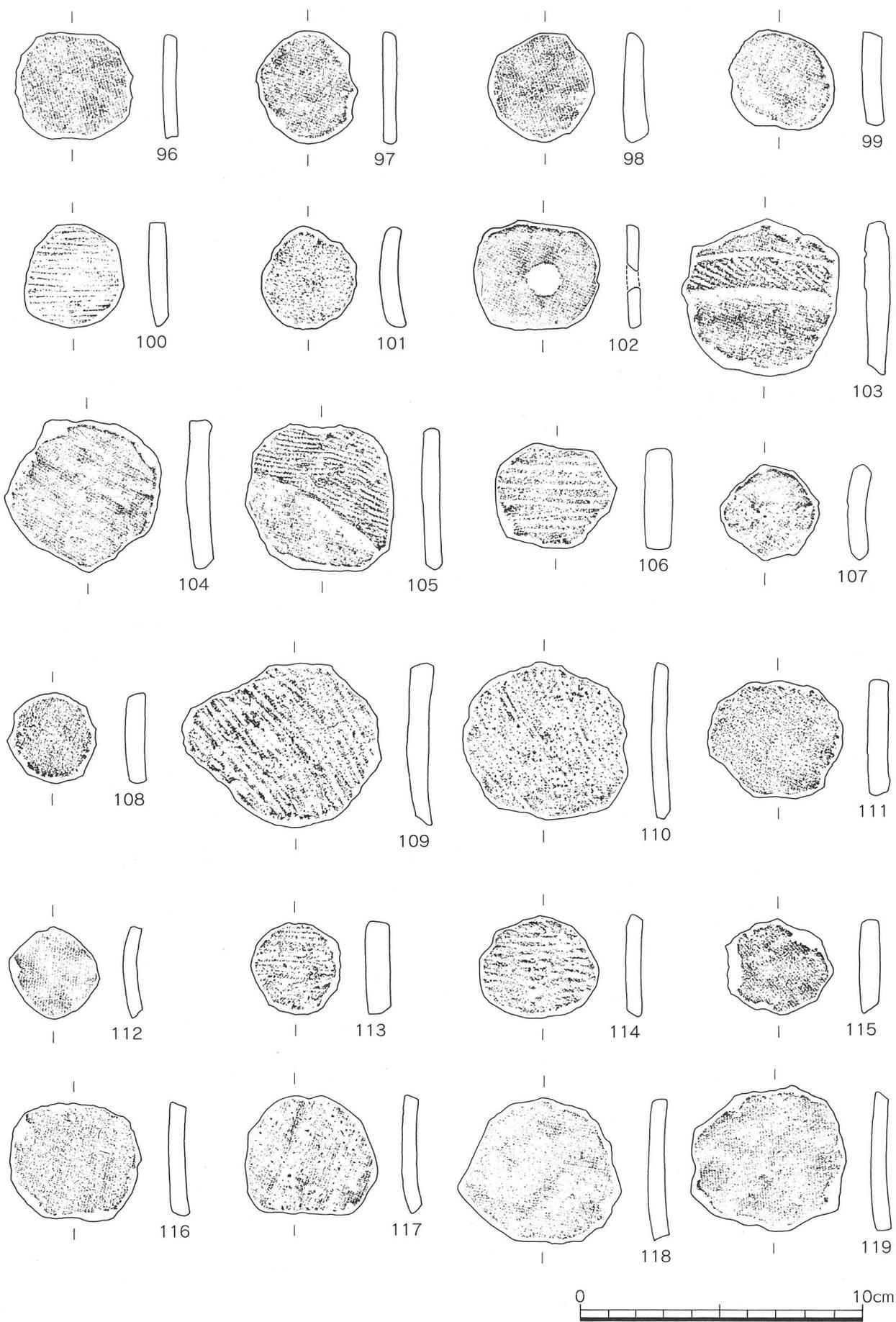
第33図 土製品 2 (S=1/2)



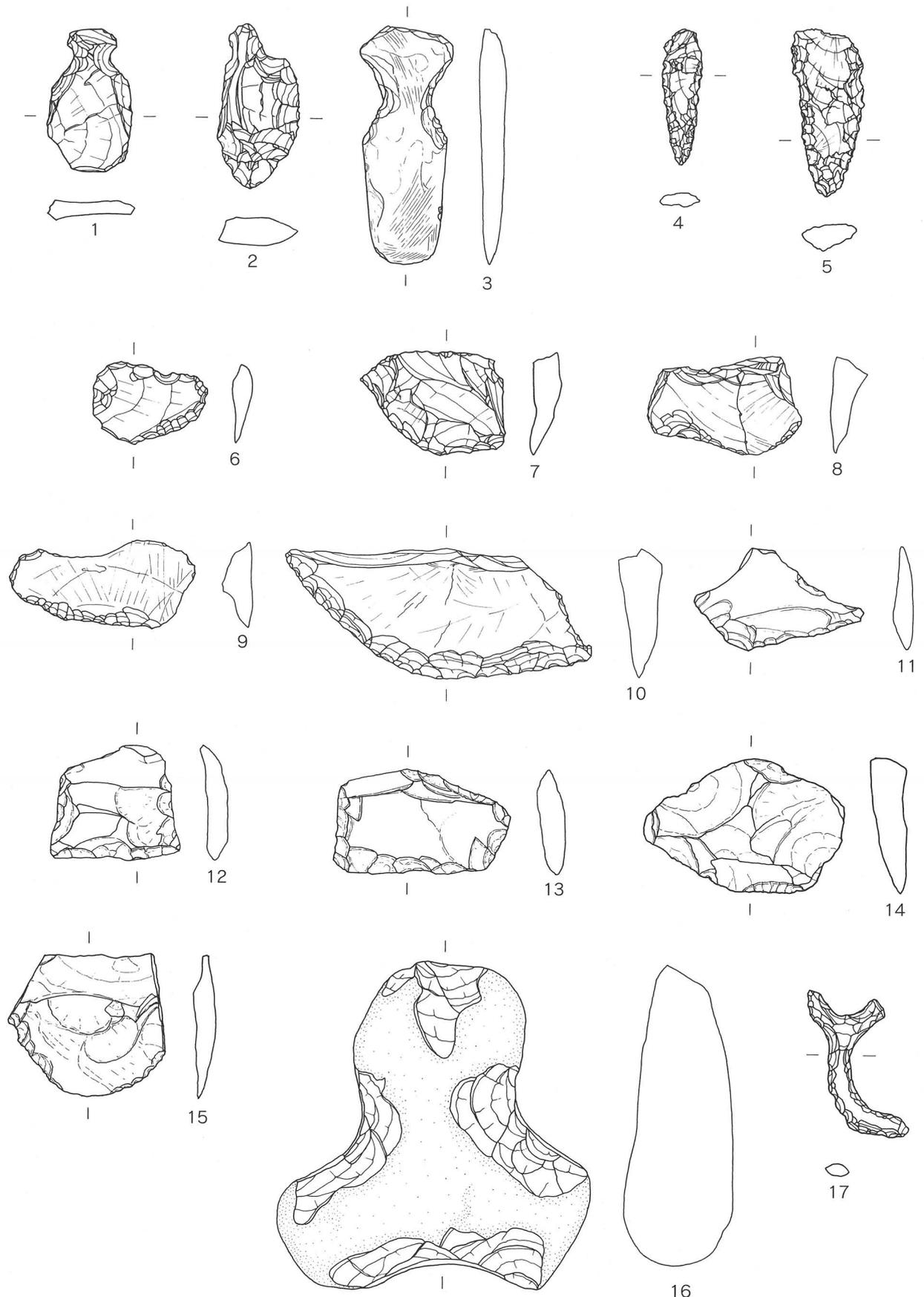
第34図 土製品 3 (S=1/2)



第35図 土製品4 (S=1/2)



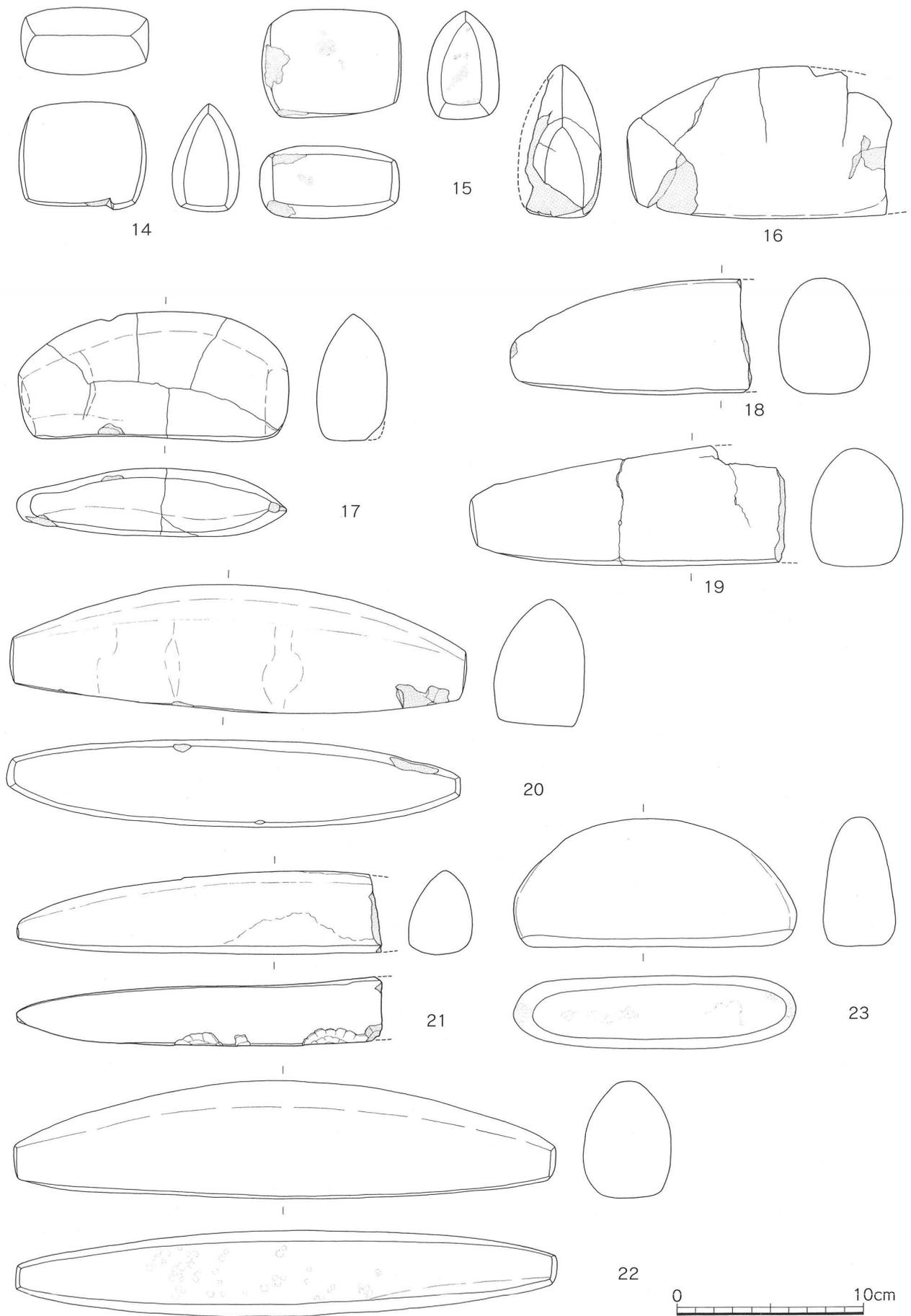
第36図 土製品 5 (S = 1/2)



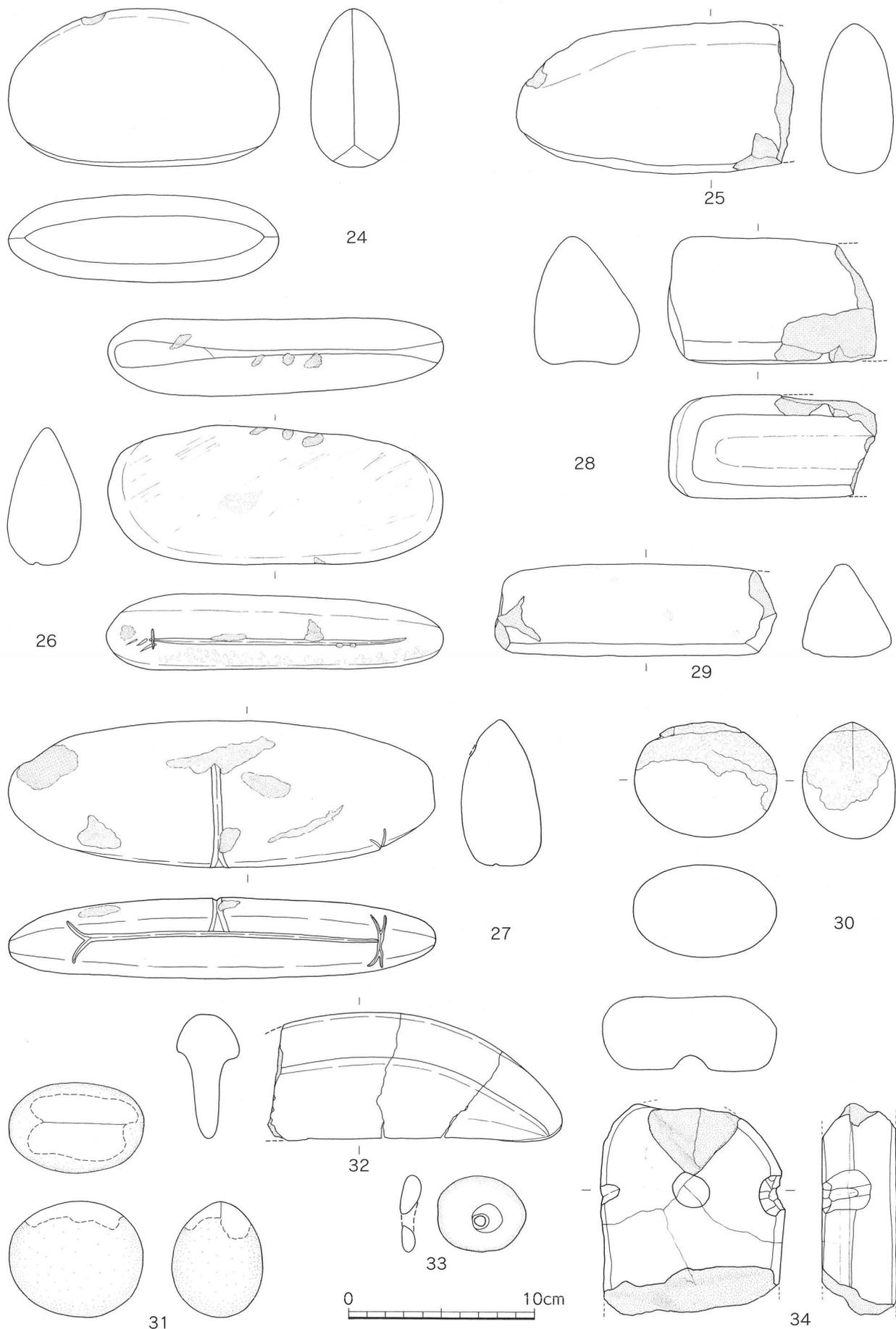
第37图 石器 1 (S=1/2)



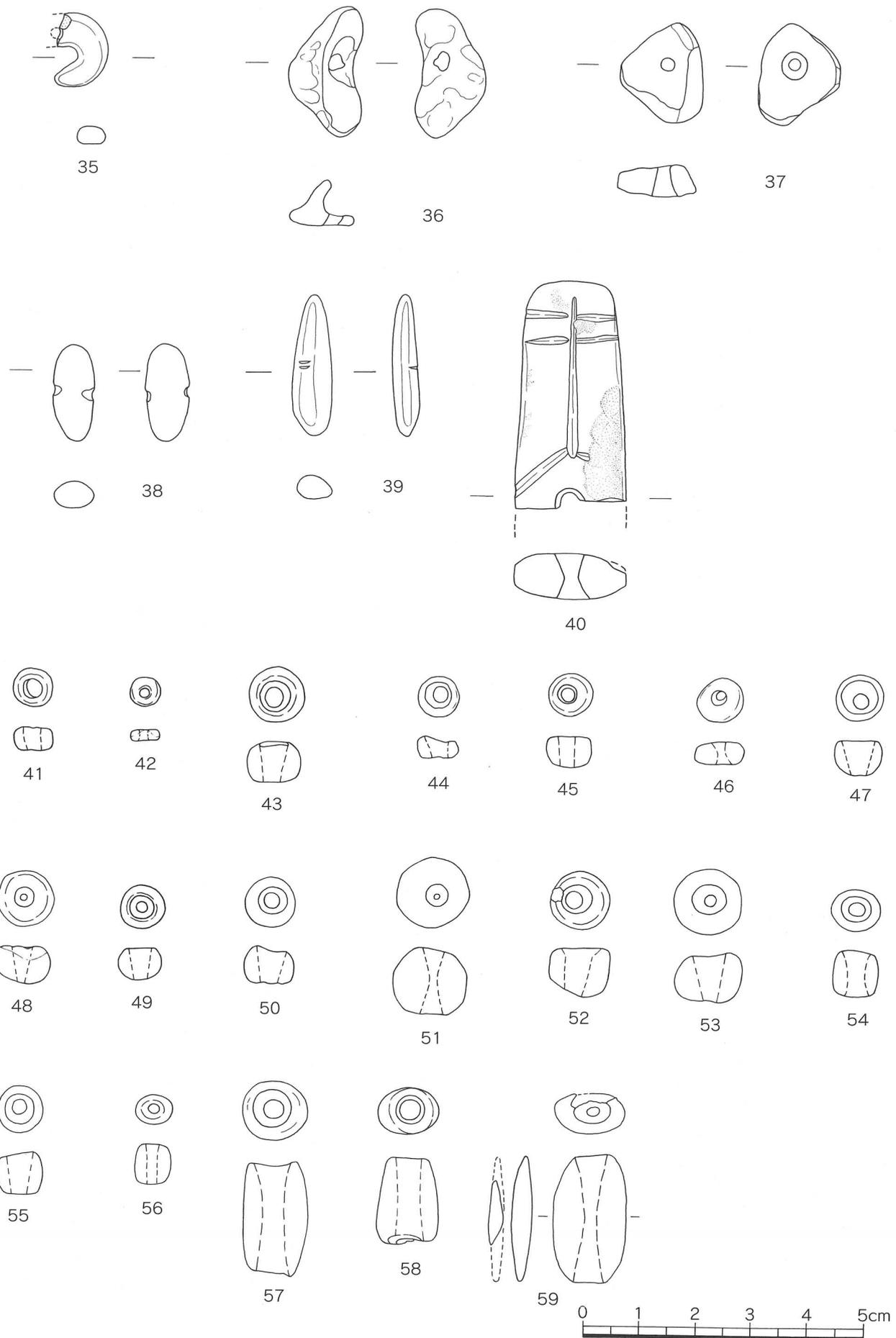
第38図 石製品 1 (S= 1/3)



第39図 石製品 2 (S=1/3)



第40図 石製品 3 (S=1/3)



第41图 石製品4 (S=1/1)

## 第2節 土製品・石器・石製品の出土点数について

本節では、これまでの調査において出土した土製品・石器・石製品の点数について、平成17～19年度にかけて出土品の再整理事業（国庫補助事業）を実施した成果を含め表10～12にまとめてみた。

作業では、品種・器種の変更をしたこと、実物を確認できず遺物カードで出土の確認をおこなったものもあること、点数には欠損品も含んでいること、不明なものは省略していることなど既刊の報告点数とは異なる点もあり了承願したい。（報告書は表6冒頭参照）

表10 土製品出土点数

遺物の名称／報告書年	1983	1989	2003	2009	合計	率
土偶	79	12	43	1	135	34.70%
耳飾	8	0	4	0	12	3.08%
環状土製品	2	0	0	0	2	0.51%
土製垂飾	2	2	1	0	5	1.29%
土製玉	2	0	0	0	2	0.51%
有孔球状土製品	3	1	1	0	5	1.29%
スタンプ形土製品	3	0	0	0	3	0.77%
土錘	0	0	2	0	2	0.51%
土製円盤	175	31	17	0	223	57.33%
合計	274	46	68	1	389	100.00%

表11 石器出土点数

遺物の名称／報告書年	1983	1989	2003	2009	合計	率
打製石斧	2,732	467	1,529	215	4,943	41.32%
磨製石斧	295	34	126	16	471	3.94%
磨石・敲石・凹石	2,007	174	740	95	3,016	25.21%
石錘	32	8	39	2	81	0.68%
石皿	278	67	287	13	645	5.39%
石鏃	800	255	507	51	1,613	13.48%
石錐	164	53	90	21	328	2.74%
石匙	23	2	3	0	28	0.23%
削器	35	6	20	5	66	0.55%
円盤状石器	12	0	0	0	12	0.10%
砥石	308	55	275	24	662	5.53%
擦切用石器	77	12	3	2	94	0.79%
軽石製品	1	0	0	0	1	0.01%
環状石器	0	0	1	0	1	0.01%
三脚形石器	1	0	0	0	1	0.01%
異形石器	2	0	0	0	2	0.02%
合計	6,767	1,133	3,620	444	11,964	100.00%

表12 石製品出土点数

遺物の名称／報告書年	1983	1989	2003	2009	合計	率
御物石器	5	0	1	0	6	0.74%
石冠	101	21	55	4	181	22.32%
石棒	83	20	78	11	192	23.67%
石剣	29	2	11	1	43	5.30%
石刀	183	15	79	9	286	35.27%
垂飾	25	6	14	1	46	5.67%
玉	30	9	11	3	53	6.54%
独鈷石	0	0	0	0	0	0.00%
岩版	1	0	3	0	4	0.49%
線刻礫	0	1	0	0	1	0.12%
穿孔石製品	1	0	0	0	1	0.12%
合計	457	73	252	29	811	100.00%

### 第3節 縄文時代主要遺構の変遷

本書が既調査分の最終報告となることから、本節において縄文時代の集落主体域における遺構の時期別状況を要約するものである。この報告は布尾2003を基礎としており、建物類型等の詳細については参照願いたい。後述する遺構数は現時点での状況報告であり、今後の検討によって更新が必要となるものである。

第42図において縄文時代の主要遺構の分布状況を示した。調査範囲が広いため野々市町教委1989・2003報告からは、史跡指定地の北方域で国道8号西側はブナラシ地区、ブナラシ地区の南方域で史跡公園を含み国道8号西側はデト地区、国道8号東側はツカダ地区として3地区に分けている。地区名は小字名称を用いたものである。

主要遺構は、竪穴住居、掘立柱建物跡、石囲炉（図はR表示）、埋設土器（時期別図で番号を表示）、一部の土坑を表示している（土坑は遺構密度の低い地点の表示であり遺構名は省略）。以下、主要な遺構数、各時期の様相について概観したい。なお、時期細分は遺構から出土した土器の編年的位置（6頁参照）によっており、時期的には下限にあたるものである。参考引用文献は、43頁に3・4区の報告分と併せて記している。

#### 1 主要な遺構数

竪穴住居は6棟検出しており、ブナラシ地区の1～5号住、デト地区の6号住である。

掘立柱建物は65棟を復元している（図はSB省略）。内訳は、方形建物14棟、亀甲形建物31棟、円形建物20棟（真円に柱穴が配置される、所謂「環状木柱列」）である。ブナラシ地区は55棟で方形建物10棟、亀甲形建物29棟、円形建物16棟、デト地区は6棟で方形建物3棟、亀甲形建物1棟、円形建物2棟、ツカダ地区は4棟で方形建物1棟、亀甲形建物1棟、円形建物2棟である。

石囲炉は竪穴住居内で検出された3基を含め27基検出している。ツカダ地区の1基を除き、他の炉はブナラシ地区の検出で土器が設置されている。ブナラシ地区では晩期とみられる焼土遺構3基を確認しているが詳細は不明である。

埋設土器は41基検出している。ブナラシ地区で30基検出しているが、野々市町教委1983報告地区の10基は詳細不明である。デト地区で6基、ツカダ地区で5基確認している。

土坑は全報告数317基を数えるが、野々市町教委1983報告地区での掘立柱建物の検討が現段階では十分ではなく、今後の検討では柱穴になる可能性のものがあつ、その実数は概数としておきたい。

#### 2 各時期の様相

##### 1) 後期～晩期前葉（御経塚式期）（第43図）

本時期の主要遺構は、デト地区の6号住を除きブナラシ地区の北半域に集中する分布状況である。後期中葉後半の酒見式期の確実な遺構は、デト地区での土坑2基の確認のみである（図示範囲外に1基）。ブナラシ地区では、北半域で一定量の酒見式土器が出土するが、南方向に行くに従い少量となり、河道SD23の影響が考えられる。デト地区・ツカダ地区での出土量は少なく、酒見式期の主体域は、ブナラシ地区北半域となる。御経塚遺跡の東方2.2kmに位置する米泉遺跡では石囲炉を伴う竪穴住居7棟と石囲炉12基が確認されている（西野1989）。御経塚遺跡でも同様な状況が想定されるが、井口式期以降の整地や掘削等により遺構は遺存しなかったものと思われる。

井口1式期の遺構としたものは、石囲炉B3号・11号・14号・20号・23号炉の5基、2号埋設土器である。23号炉・2号埋設土器以外は、河道部から25～40m離れて流路に沿うように分布しており、炉の距離は17～22mである。2号埋設土器は、河道に隣接することから廃棄土器と考えたい。

井口2式期の遺構としたものは、竪穴住居3～5号住の3棟、石囲炉B1・2・6・7・10・13・18・19・21号炉の9基である。また、ツカダ地区の土坑も当期である。竪穴住居の4・5号住は井口2式後半期と判断でき、住居の間隔は約7mで、時間的には3号住の後となる。時期細分した石囲炉は、井口2式前半期に13号炉、後半期に6・7・18・19号炉、末期ではB1・2号炉である。

八日市新保式期とした遺構は、石囲炉B2・8・22号炉の3基である。B2号炉は約4m離れたB1号炉

直後の構築であろう。B 1・B 2号炉は河道に近く、当期での河道は井口式期より南側に位置しよう。

八日市新保式期～御経塚式期とした遺構は、竪穴住居 1・2・6号住の3棟で、竪穴内に石囲炉は確認できない。2号住は八日市新保2式期、6号住は御経塚式期と推定している。

石囲炉 1・3・4・5・9・12・15・16・17号炉の9基は、後期後葉の所産と考えられるが時期は不明である。

以上、ブナラシ地区での主要遺構をみてきたが、竪穴住居と石囲炉の分布状況からA群・B群・C群・D群の4群の存在が推定でき、各群は河道流路に対し直角的方向の楕円形状となる（同期の遺構は弧状的分布である）。A群は間隔が開くがB 1・B 2・B 3号炉の3基、B群は1号～9号・12号炉と2号住の10基と1棟、C群は10号・13号・14号炉と1号住の3基と1棟、D群は18号～23号炉と3～5号住の6基と3棟である。各群とも井口1式期・井口2式期・八日市新保式期の遺構が存在し、一時期には集中しない状況である。飛躍するが、このことは各群それぞれが一つの同系グループとして連続しており、集落内において各グループの占有的地区が存在したものであろうか。

## 2) 中屋式期 (第44図・表13)

中屋式期とした掘立柱建物は23棟で、ブナラシ地区の19棟、デト地区の1棟、ツカダ地区の3棟である。方形建物はブナラシ地区の3棟、SB24・29・35である。亀甲形建物は11棟で、ブナラシ地区10棟、ツカダ地区の1棟である（21号住は新規名称）。円形建物は9棟で、ブナラシ地区の6棟、デト地区の1棟、ツカダ地区の2棟である。なお、ブナラシ地区SB07は時期不明である。

埋設土器は13基で、ブナラシ地区の10基（21号は新規名称）、デト地区の2基、ツカダ地区の1基である。

表13 中屋式期遺構表 (ブナラシ地区→ブ、デト地区→デ、ツカダ地区→ツと省略)

	方形建物	棟数	亀甲形建物	棟数	円形建物	棟数	棟計	埋設土器	基数
中屋1式期	—	—	—	—	—	—	—	ブ11・13・21号	3
中屋2式期	ブSB35	1	ブSB08・12・13・22・26・46	6	ブSB18	1	8	ブ10・12・16号	3
中屋3式期	ブSB24・29	2	ブSB19・32・38、ツ21号	4	ブSB17・49、デSB06、ツ19・20号	5	8	ブ17・19・20号、ツ2号土器棺	4
中屋3式～下野式期か	—	—	ブSB27	1	ブSB31・33・40	3	4	ブ1号、デ2号・6号	3
合計		3		11		9	23		13

中屋1式期では、埋設土器を確認できるが、先期の御経塚式期と同様に様相は不明である。

中屋2式期からブナラシ地区で掘立柱建物が確認できる。10本柱円形建物SB18と1×2間の方形建物SB35が隣接し、亀甲形建物が河道流路と平行するように帯状に分布する。金沢市米泉遺跡の中屋式期と同様な様相を示しており、米泉遺跡では、円形建物の「環状木柱列」1棟（8本柱）とこれに隣接して「方形プランの柱根址」1棟が位置し、河道に沿いこの両側と対岸に地床炉を伴う「第20・24～27号住居址」、「第21～23・28号炉址」が展開する（西野1989）。このなかで、「第26・27号住居址・21号炉址」は亀甲形の掘立柱建物に復元が可能で、さらにブナラシ地区と近似する状況となる。史跡指定地は未調査のため不明であるが河道SD23の対岸にも建物群が存在しよう。

埋設土器10～13号が集中する地点が建物群から約30m離れ位置し、後期及び当期の土坑もみられる。集落の縁辺域にあたり墓域の可能性はある。

中屋3式期では、ブナラシ・デト・ツカダ地区で掘立柱建物が確認できる。ブナラシ地区の建物分布域では、河道に近いSB19・24・29・32の①群域と、その北西域に位置するSB17・38・49の②群域に二分でき、後者は弧状に分布する。デト・ツカダ地区でも円形建物がみられ、当期の円形建物5棟は8本柱である。

中屋3式～下野式前半期（型式判断不明）の建物は、ブナラシ地区で4棟復元しているが、分布は中屋3式期と同様で①群域にはSB27・30・33、②群域はSB40となる。

晩期におけるブナラシ地区北半域の状況は不明であるが、中屋式期では、デト地区SB06の南方域とツカダ地区19～21号住の東方域での建物はみられず、建物分布の南限域と東限域にあたるものである。

## 3) 下野式期 (第45図・表14)

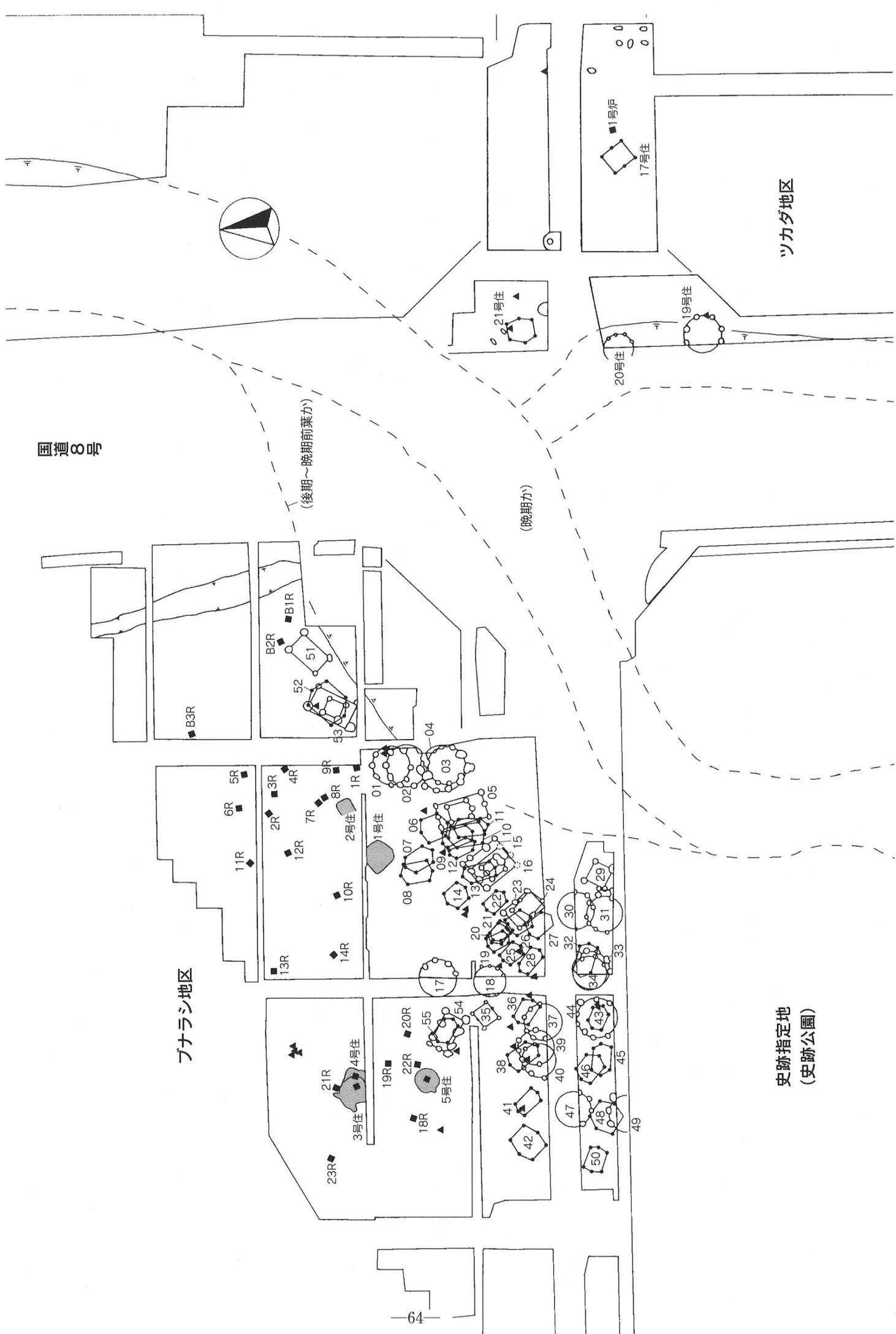
下野式期とした掘立柱建物は28棟で、ブナラシ地区26棟、デト地区2棟である。方形建物は5棟で、ブナラシ地区の4棟、デト地区の1棟である。亀甲形建物は17棟で、ブナラシ地区の16棟、デト地区の1棟である。円形建物はブナラシ地区の6棟である。当期の埋設土器は3基で、ブナラシ地区の2基、デト

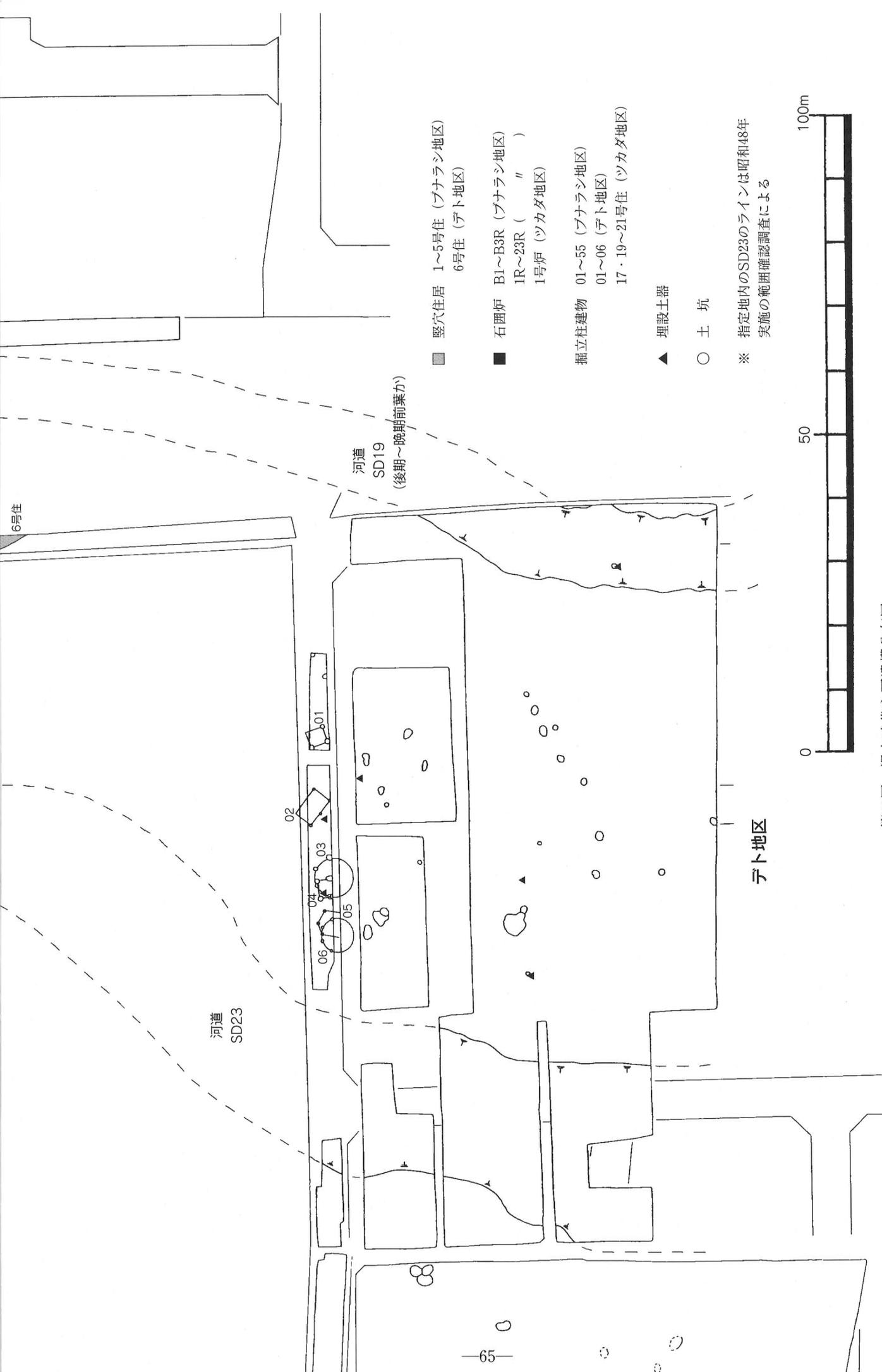
国道30号

ブナラン地区

ツカダ地区

史跡指定地  
(史跡公園)





第42図 縄文時代主要遺構分布図

地区の1基である。

表14 下野式期遺構表 (ブナラシ地区→ブ、デト地区→デ、ツカダ地区→ツと省略)

	方形建物	棟数	亀甲形建物	棟数	円形建物	棟数	棟計	埋設土器	基数
下野式前半期	ブSB 05	1	ブSB 11・14・20・43・50	5	ブSB01・39	2	8	—	0
下野式期 (前半～後半)	ブSB 53・54 デSB 02	3	ブSB09・21・25・28・36・45・48・52・55、 デSB 05	10	ブSB30・34・37・47	4	17	ブ3号、デ1号	2
下野式後半～ 長竹式期か	ブSB 15	1	ブSB06・42	2	—	0	3	ブ15号	1
合計		5		17		6	28		3

下野式期のブナラシ地区では、方形の柱列が重複し入れ子状に配列される方形建物SB05 (A3類、以下「入れ子状方形建物」と記す) や桁行3間の方形建物SB54が出現し、建物類型のすべてが揃うことになる。SB05は前半期に属し、同期で柱穴の大きい円形建物SB01が「核家屋」(布尾2003)になるものと考えており、どちらも方位を同じくすることから並存関係が推察できる。下野式期でも中屋3式期の建物①群域・②群域の分布形態があてはまり、弧を描く帯状分布が想定される。前半期は、①群域がSB01・05・11・14・20、②群域がSB39・43・50、下野式期(前半～後半)は、①群域がSB09・21・26・28・30・34・52・53、②群域はSB36・37・45・47・48、下野式後半～長竹式は、①群域がSB06・15、②群域SB42である。さらにSB14とSB21の間で北東と南西域に分かれるかは不明である。

なお、下野式期(前半～後半)及び下野式後半期～長竹式としたものは細分できなかったものである。

#### 4) 長竹式期 (第46図)

長竹式期とした掘立柱建物は13棟で、ブナラシ地区9棟、デト地区3棟、ツカダ地区1棟である。方形建物は6棟で、ブナラシ地区のSB16・23・51の3棟、デト地区SB01・04の2棟、ツカダ地区17号住(付近出土土器から判断)の1棟である。亀甲形建物は2棟で、ブナラシ地区SB10・41である。円形建物は5棟で、ブナラシ地区SB02～04・44の4棟、デト地区SB03の1棟である。当期の埋設土器は10基で、ブナラシ地区の4～9・14号の7基、デト地区の4・5号の2基、図の範囲外でツカダ地区1号土器棺の1基である(糊圧痕土器・吉田2006、野々市町教委1989)。

これらの遺構で、後半期のものは全容不明な方形建物のデト地区SB03とツカダ地区1号土器棺である。

ブナラシ地区の建物は、直線的に帯状分布するSB02～04・11・16・23・44の8棟が前代からの①群域で、②群域はSB41となる。円形建物SB02～04、入れ子状方形建物SB16、1×2間の方形建物SB23、亀甲形建物SB11、など各類型の建物が揃って帯状構成を成しており、その後背地点の①群域縁辺部で埋設土器群も帯状に分布する。円形建物SB02～04は下野式期SB01と同じ地点で重複して立地していることから、「核家屋」と考えられるものである。

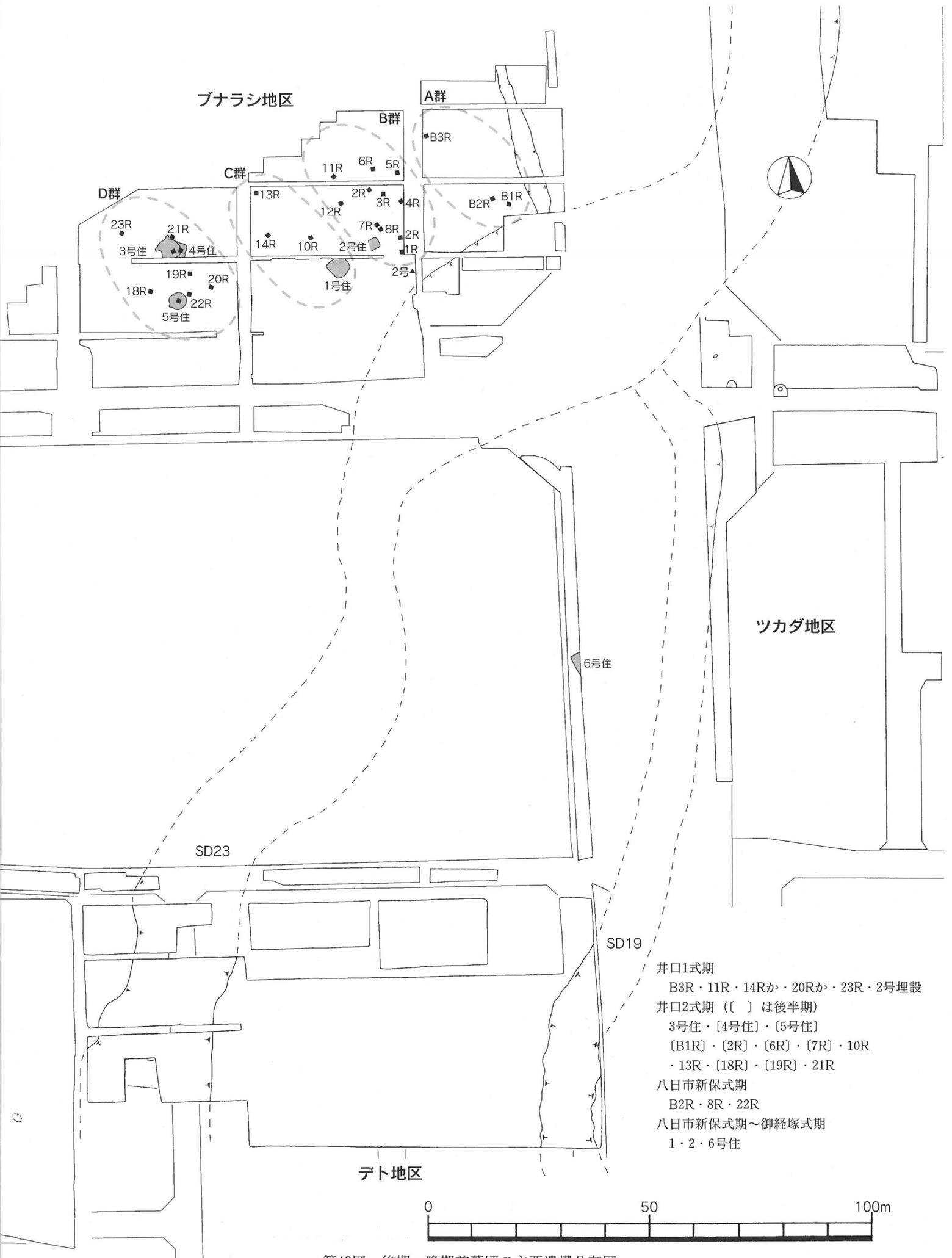
デト地区では建物群の南方域に土坑群や埋設土器の分布あり、ツカダ地区でも17号住の東方に土坑群の分布がある。これらの土坑は土坑墓と推察できるもので、住居域の外側に墓域をもつ集落構造の様相が長竹式期では顕著である。

#### 5) おわりに

以上、簡略ではあるが建物関係遺構を主に御経塚遺跡における各期の様相を概観してみた。後期段階では、石囲炉と竪穴住居で構成されている。石囲炉は住居の核になるものであるが、この住居形態が竪穴かまたは平地式となるかは不明である。後期末から晩期前葉段階では壁が低く石囲炉のみられない竪穴住居を帰属させたが、集落様相は不明としか言えない状況である。晩期中葉以降からはブナラシ地区で掘立柱建物の変遷や分布状況をある程度示すことができた。

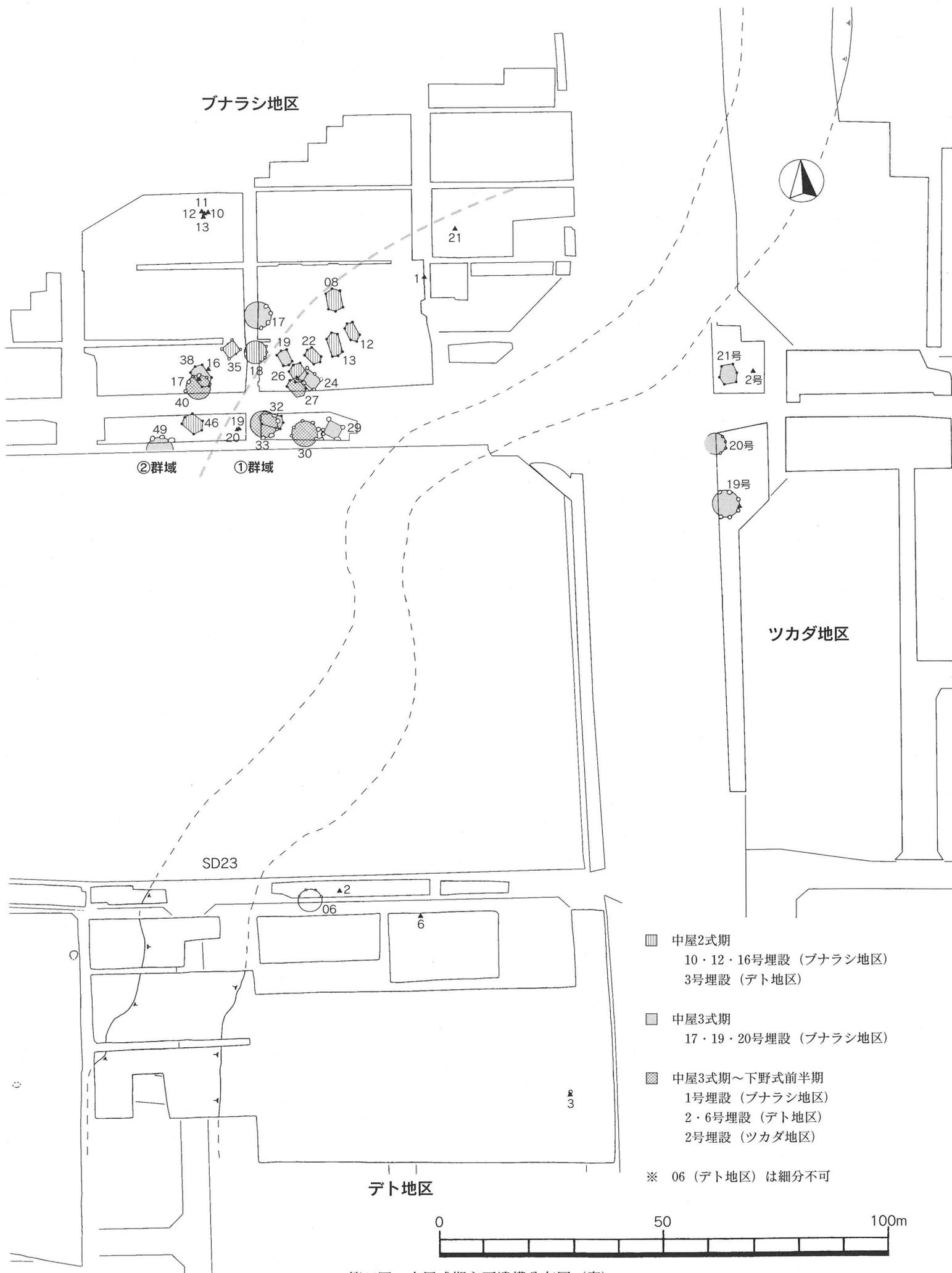
各時期別での建物の分布は、集落中央部を北東流する河道SD23の流路の影響を受けつつも弧状に展開する傾向がみられ、特に晩期中葉以降ではその強い動向が確認できるものである。この状況は布尾2003を証左するもので「川辺の両岸に営まれた環状(楕円形状)を呈する集落」が御経塚のムラの景観と理解したい。

この集落様相の記述に際し、ブナラシ地区北半域について遺構・遺物精査の必要性を痛感した次第である。今後は、さきの作業と建物復元や埋設土器、土坑の検討などを行い、御経塚遺跡の実態に少しでも近づくことを課題とするものである。



井口1式期  
 B3R・11R・14Rか・20Rか・23R・2号埋設  
 井口2式期 ( [ ] は後半期 )  
 3号住・[4号住]・[5号住]  
 [B1R]・[2R]・[6R]・[7R]・10R  
 ・13R・[18R]・[19R]・21R  
 八日市新保式期  
 B2R・8R・22R  
 八日市新保式期～御経塚式期  
 1・2・6号住

第43図 後期～晩期前葉頃の主要遺構分布図



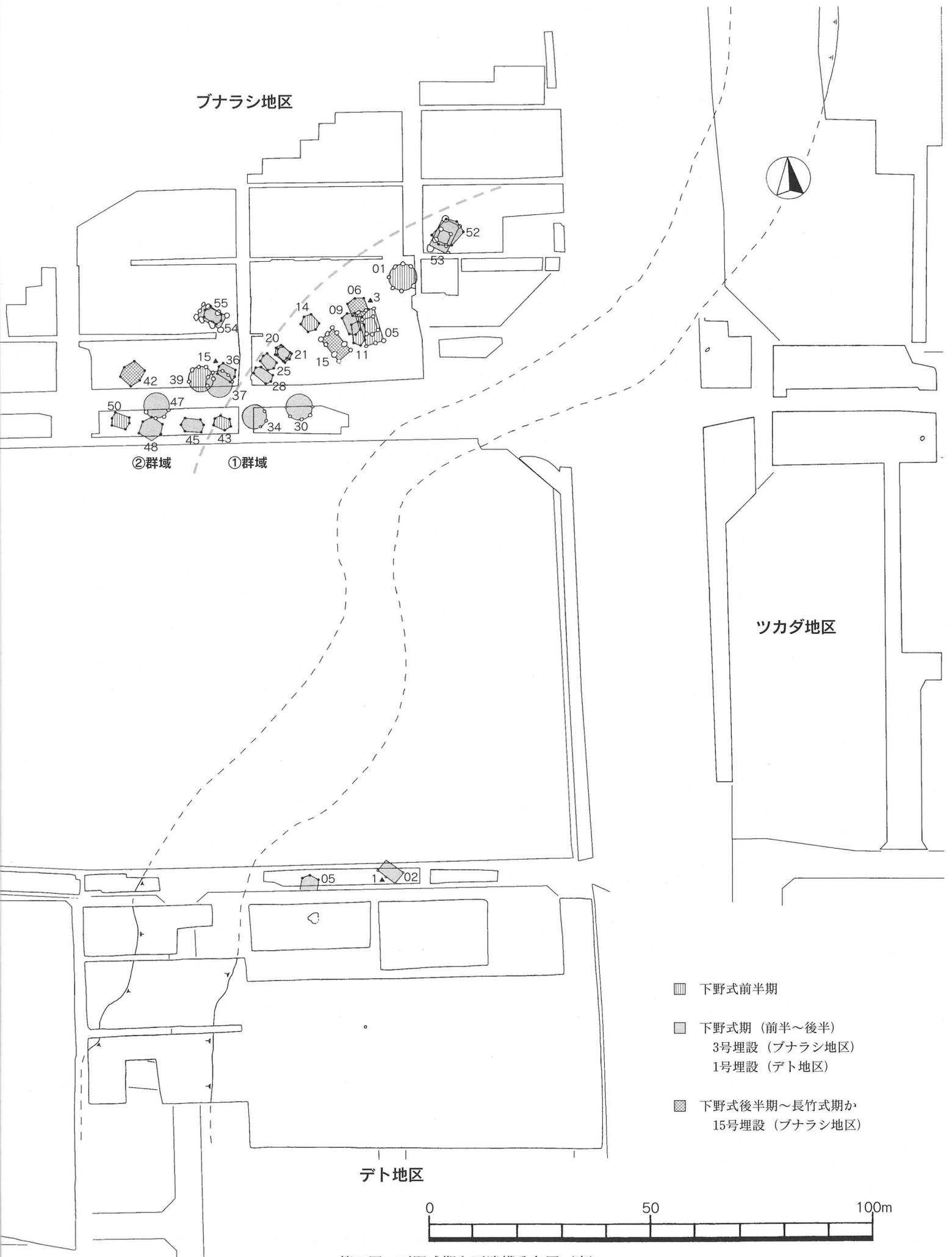
ブナラシ地区

ツカダ地区

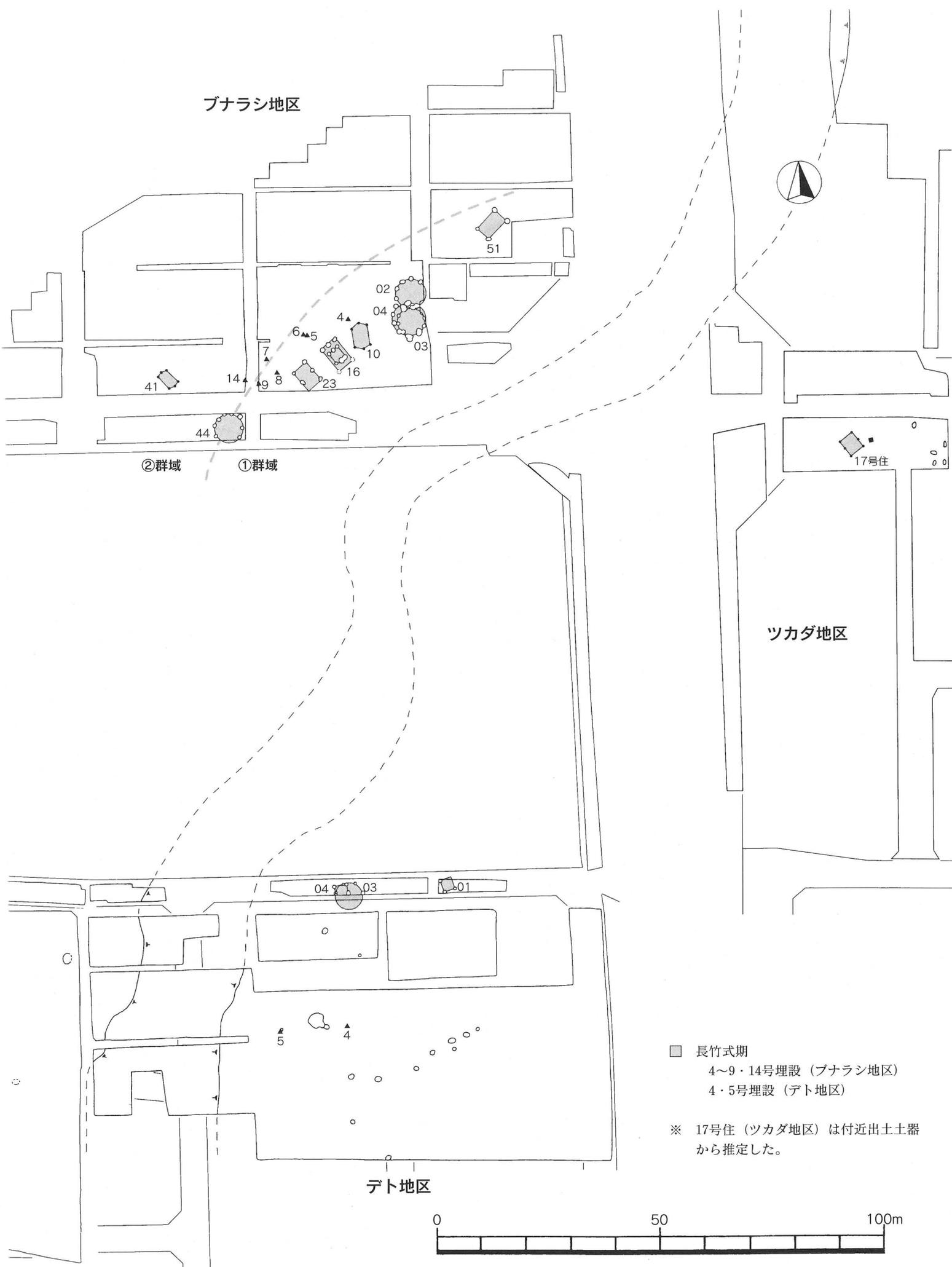
デト地区

- 中屋2式期  
10・12・16号埋設 (ブナラシ地区)  
3号埋設 (デト地区)
- 中屋3式期  
17・19・20号埋設 (ブナラシ地区)
- ▨ 中屋3式期～下野式前半期  
1号埋設 (ブナラシ地区)  
2・6号埋設 (デト地区)  
2号埋設 (ツカダ地区)
- ※ 06 (デト地区) は細分不可

第44図 中屋式期主要遺構分布図 (案)



第45図 下野式期主要遺構分布図 (案)



ブナラシ地区

ツカダ地区

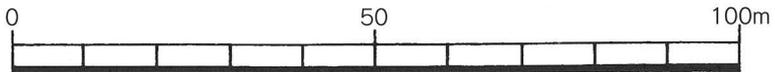
デト地区

②群域

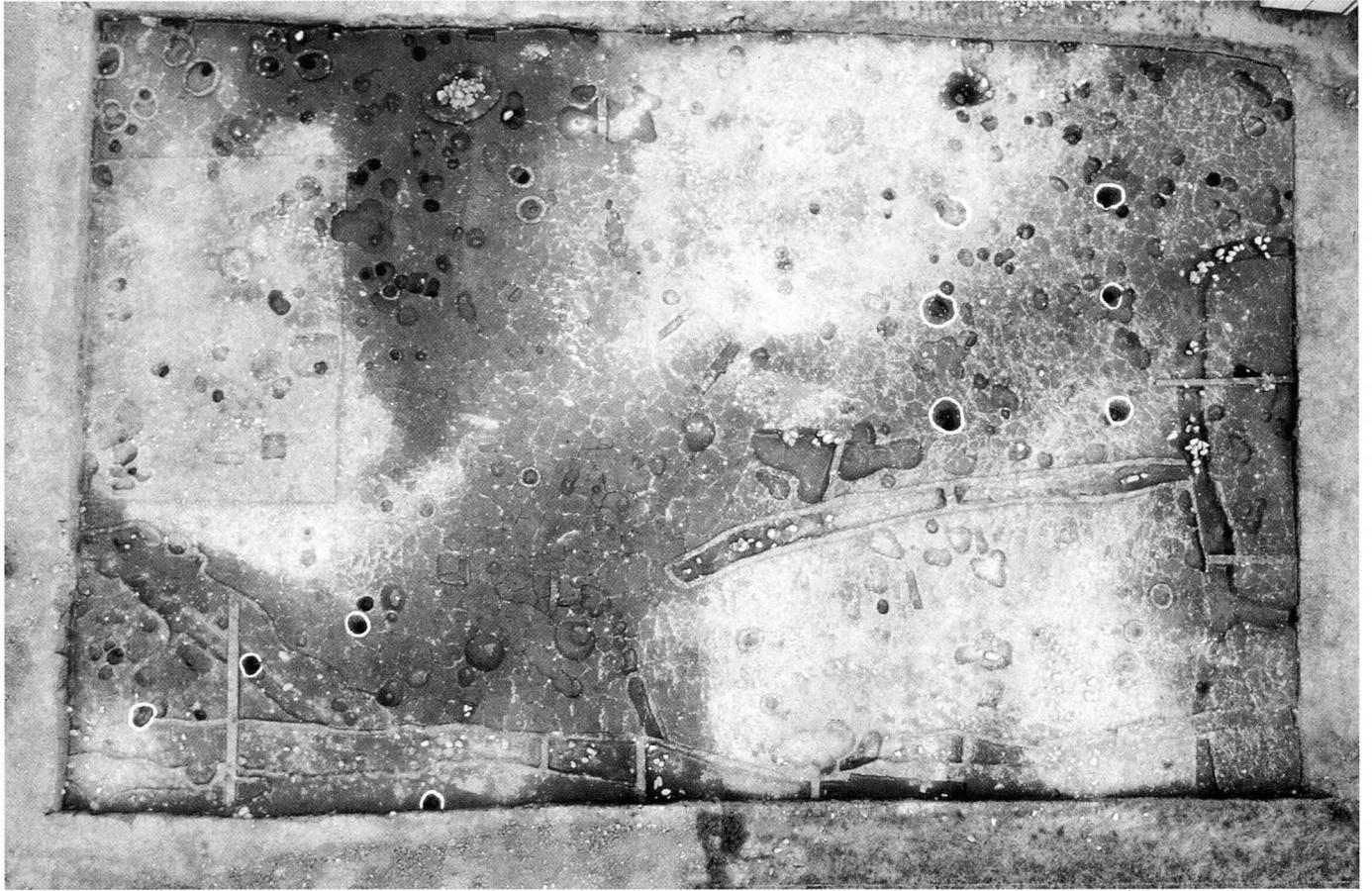
①群域

- 長竹式期
- 4~9・14号埋設 (ブナラシ地区)
- 4・5号埋設 (デト地区)

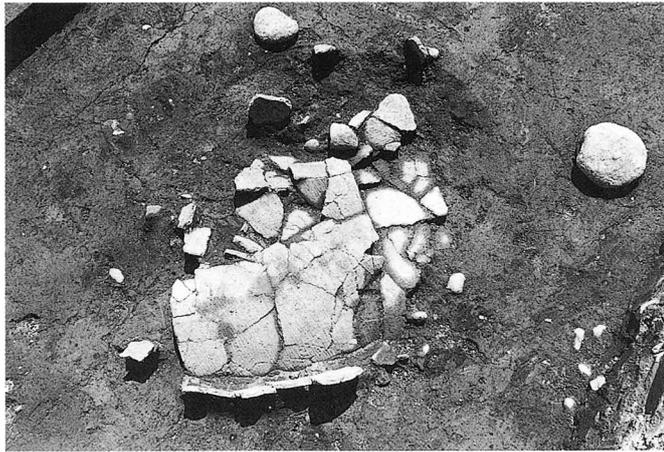
※ 17号住 (ツカダ地区) は付近出土土器から推定した。



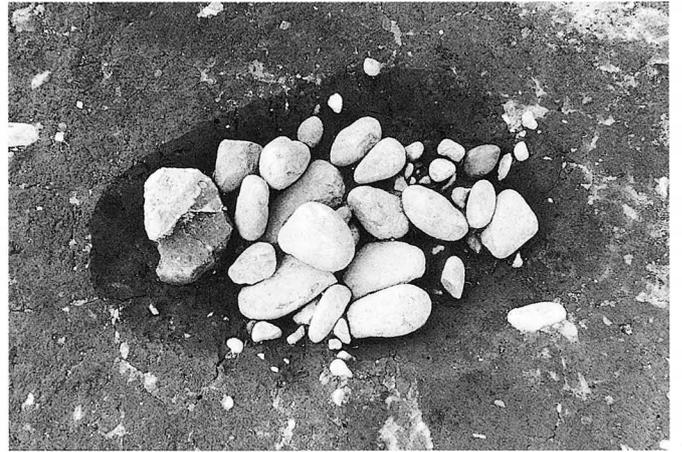
第46図 長竹式期主要遺構分布図 (案)



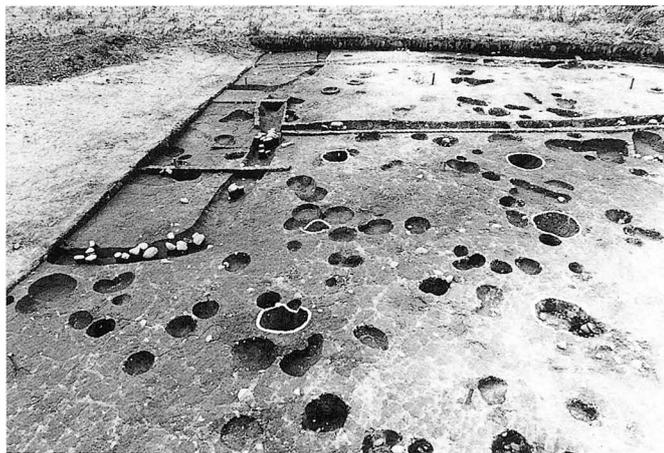
3区全景 (↑北)



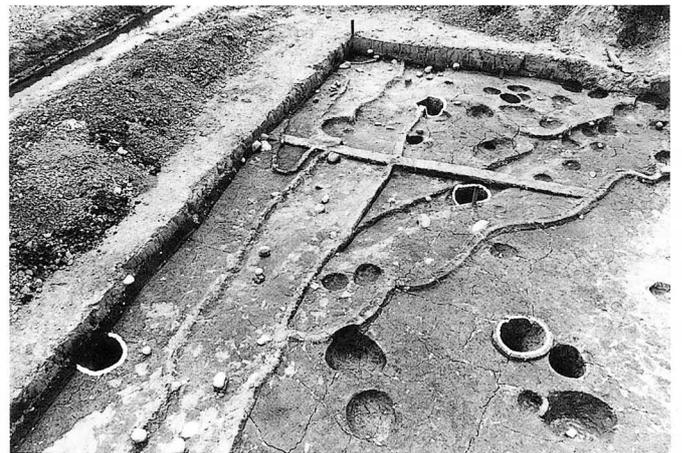
6号埋設土器



SK07



SK01・SD01・SB07 (北より)



SB08 (北東より)



1



2



3



4



5



6



7



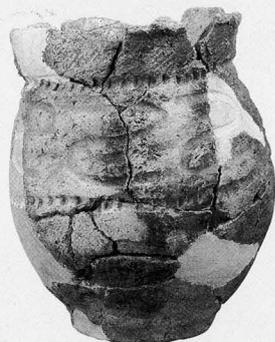
8



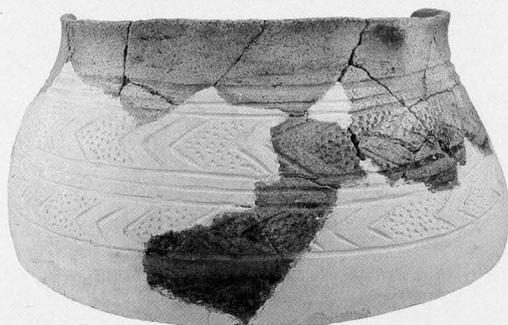
9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



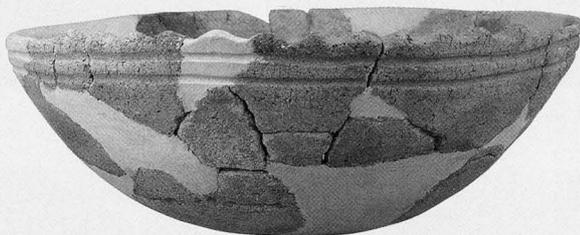
22



23



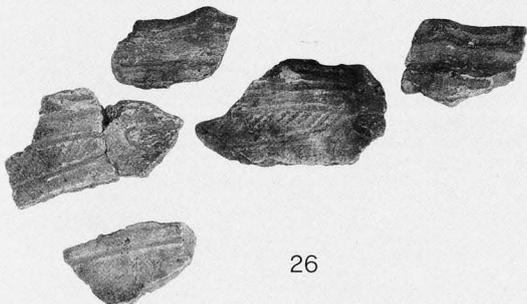
24



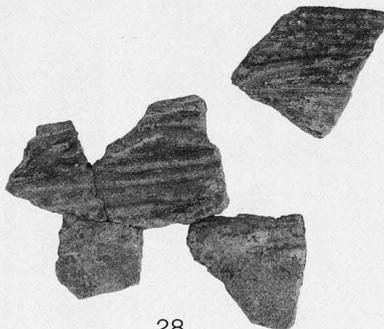
25



27



26



28



29



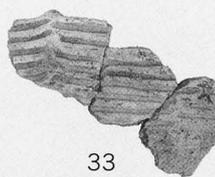
30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



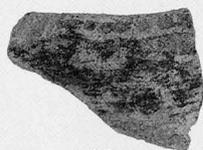
43



44



45



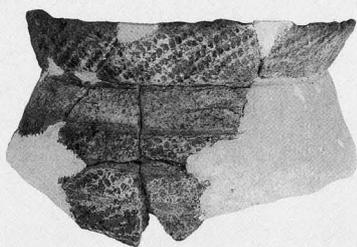
46



47



48



50



51



52



53



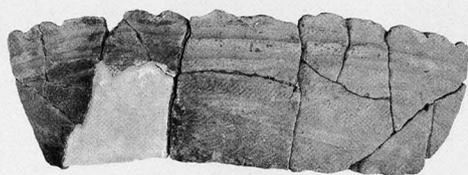
49



55



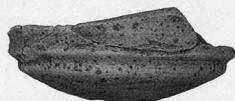
56



54



57



58



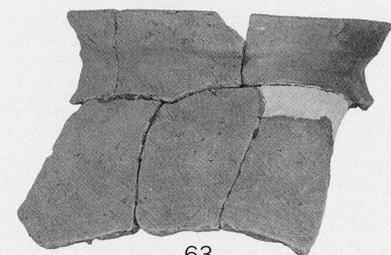
59



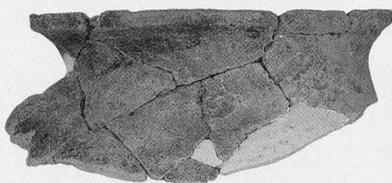
60



61



63



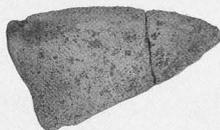
64



62



65



66



67



68



69



70



71



72



73



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



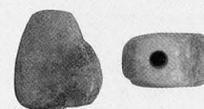
66



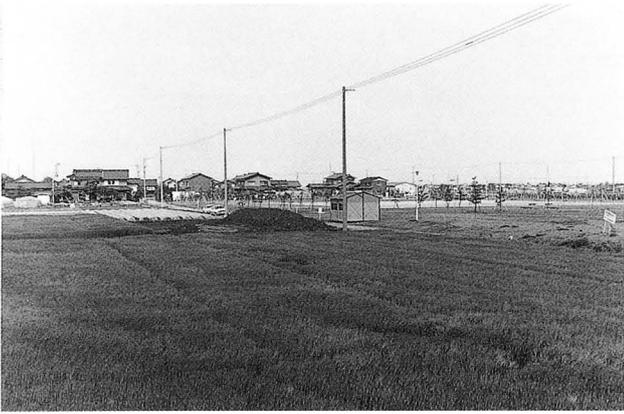
67



68



69



4区調査前風景 (南東より)



4区全景 (東より)



SK12



SK14



SK15



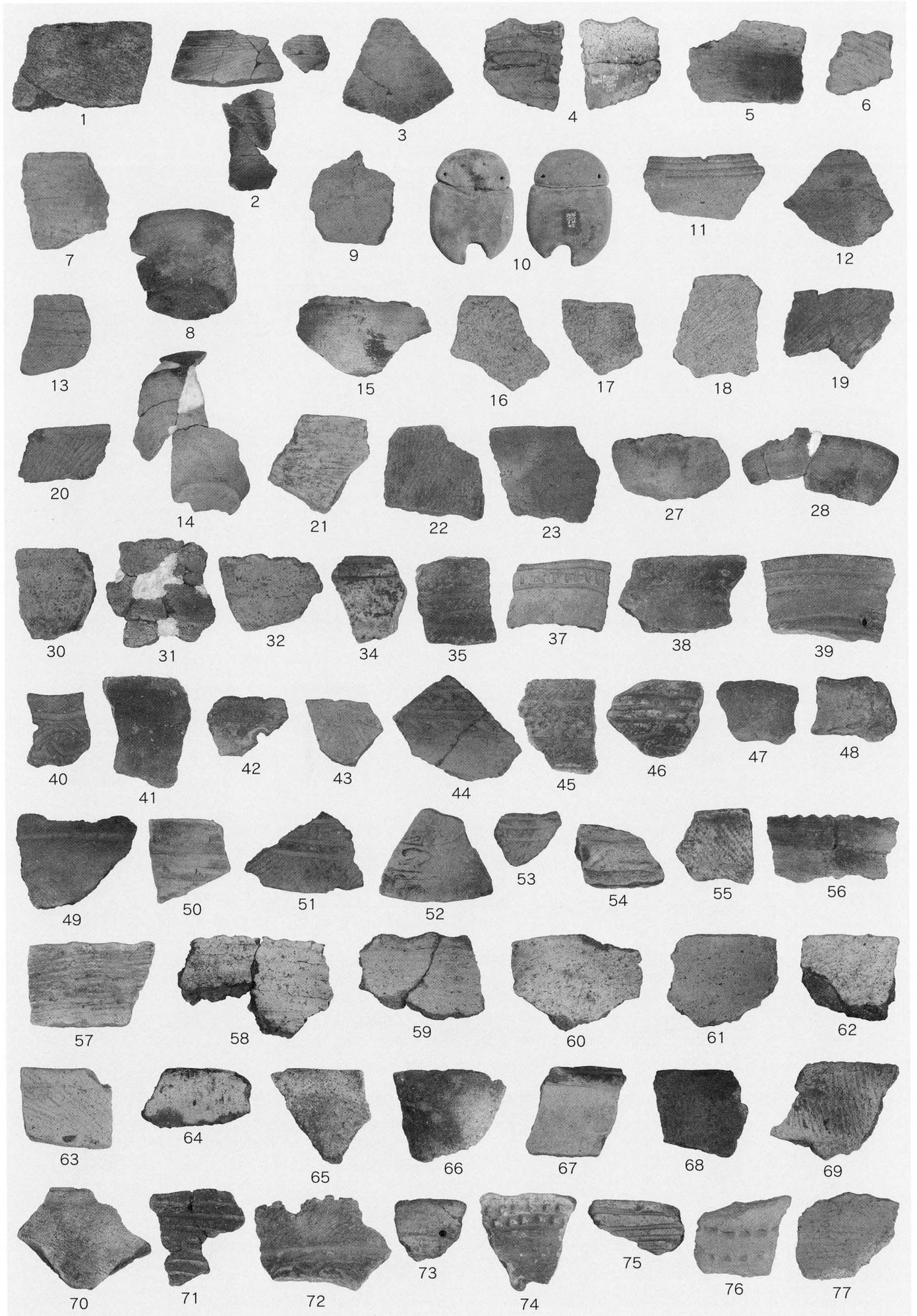
土偶出土状況 (SK15)

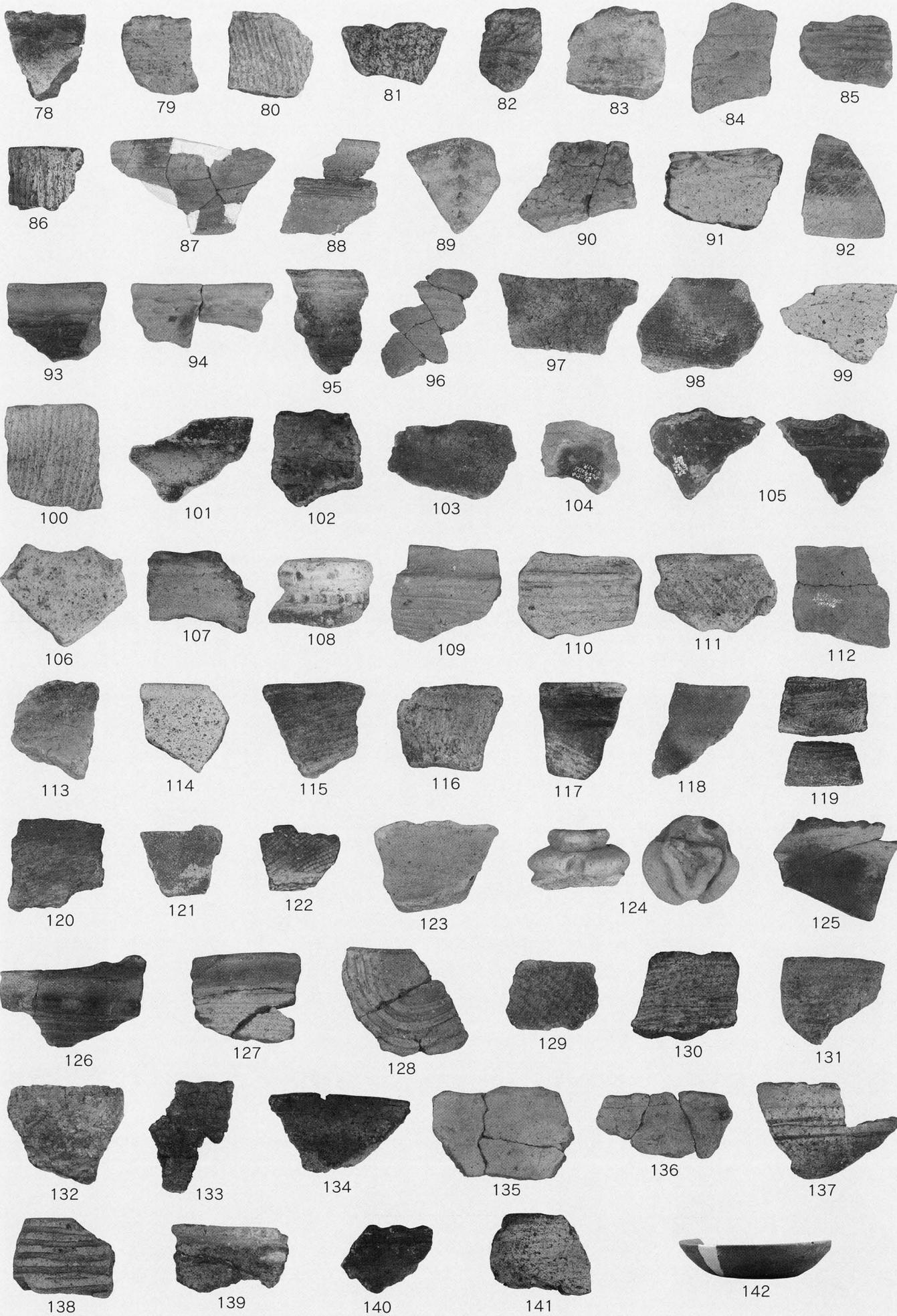


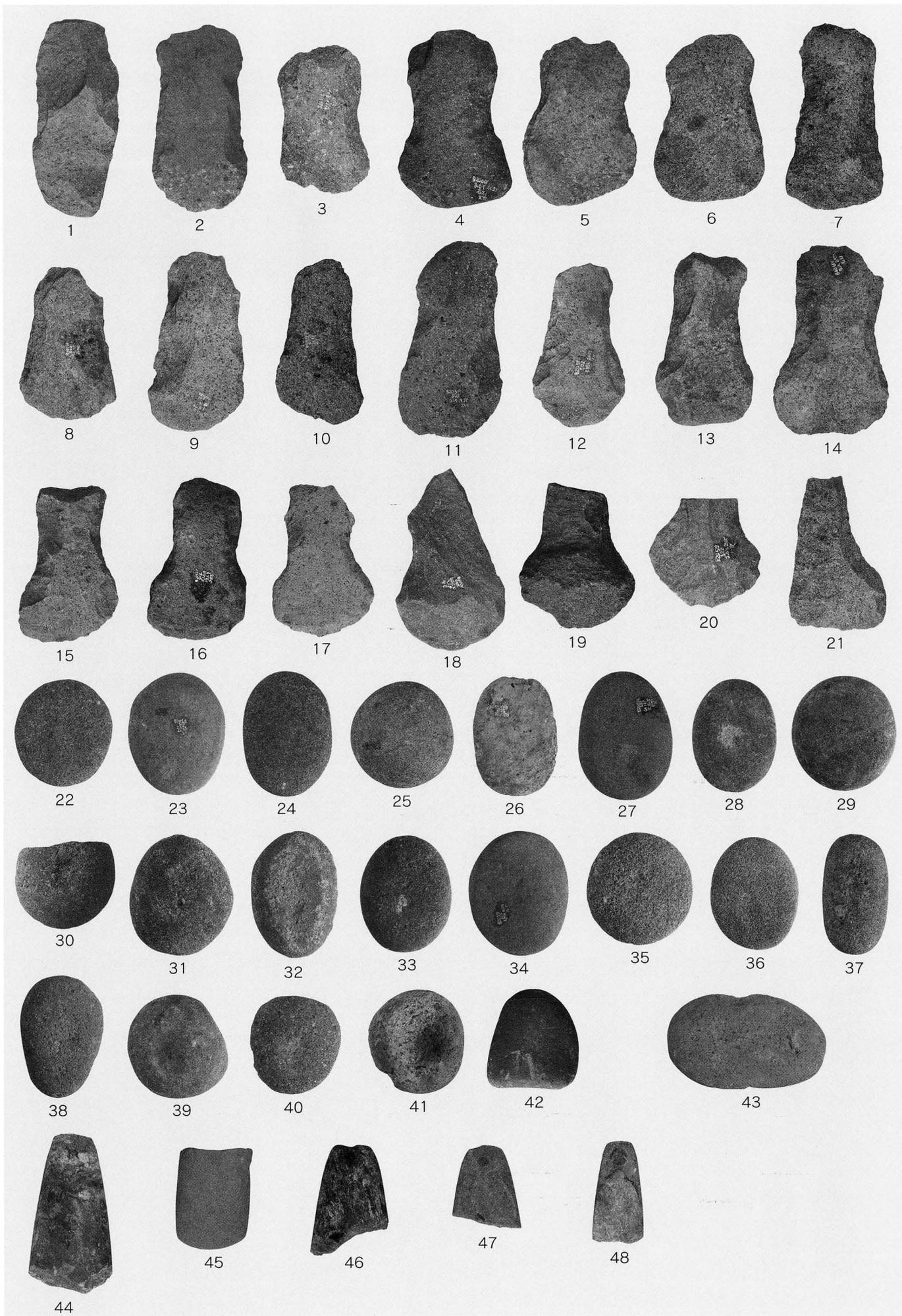
SK19



SB09 (南東より)





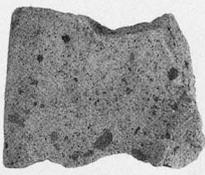




49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



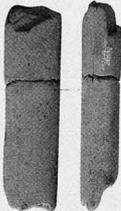
98



99



100



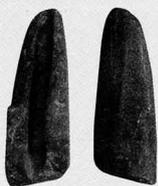
101



102



103



104



105



106



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



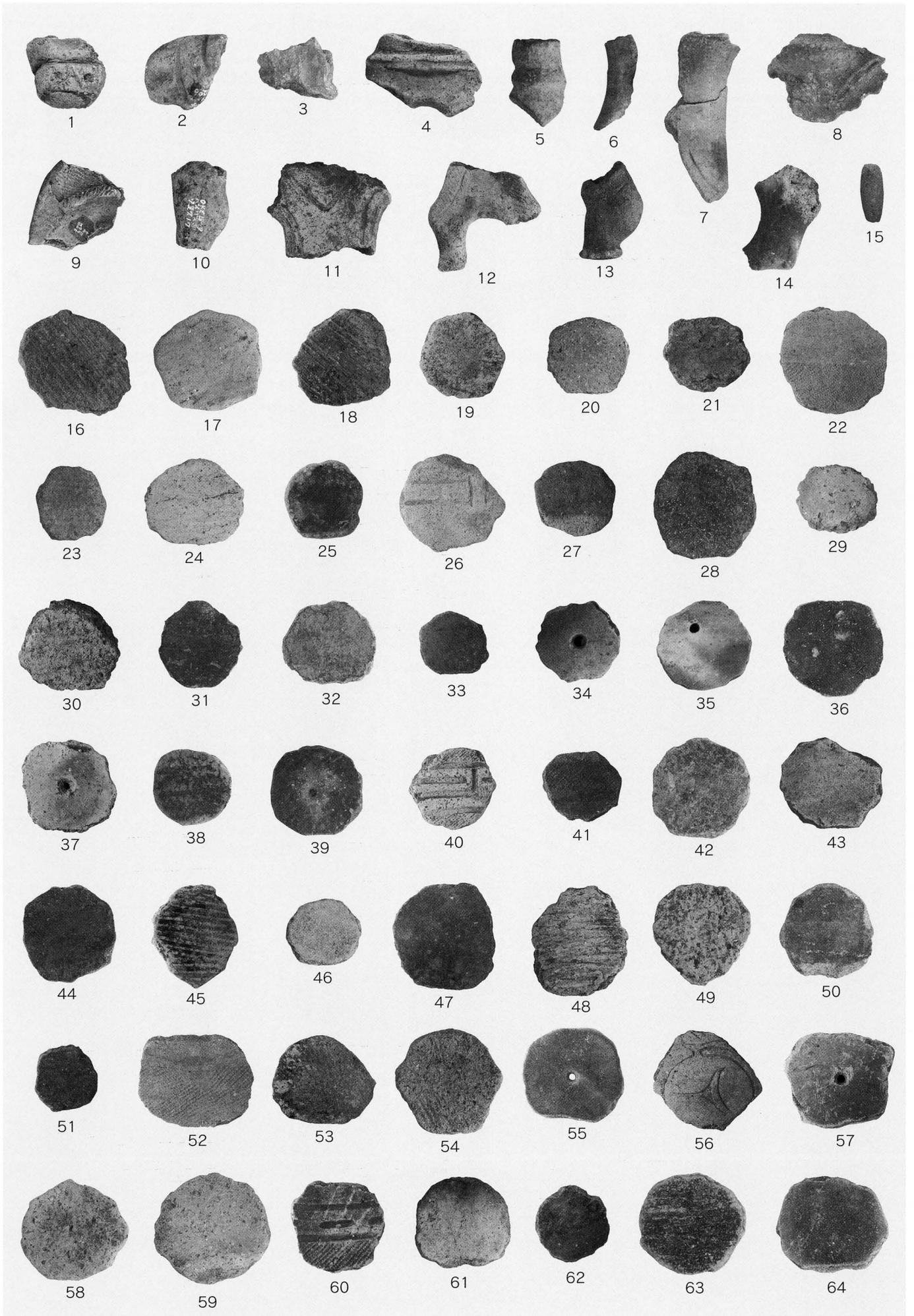
11

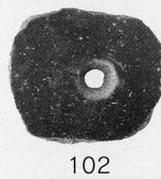
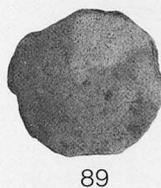
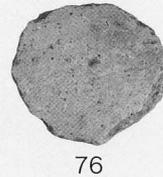
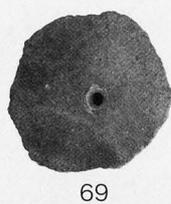


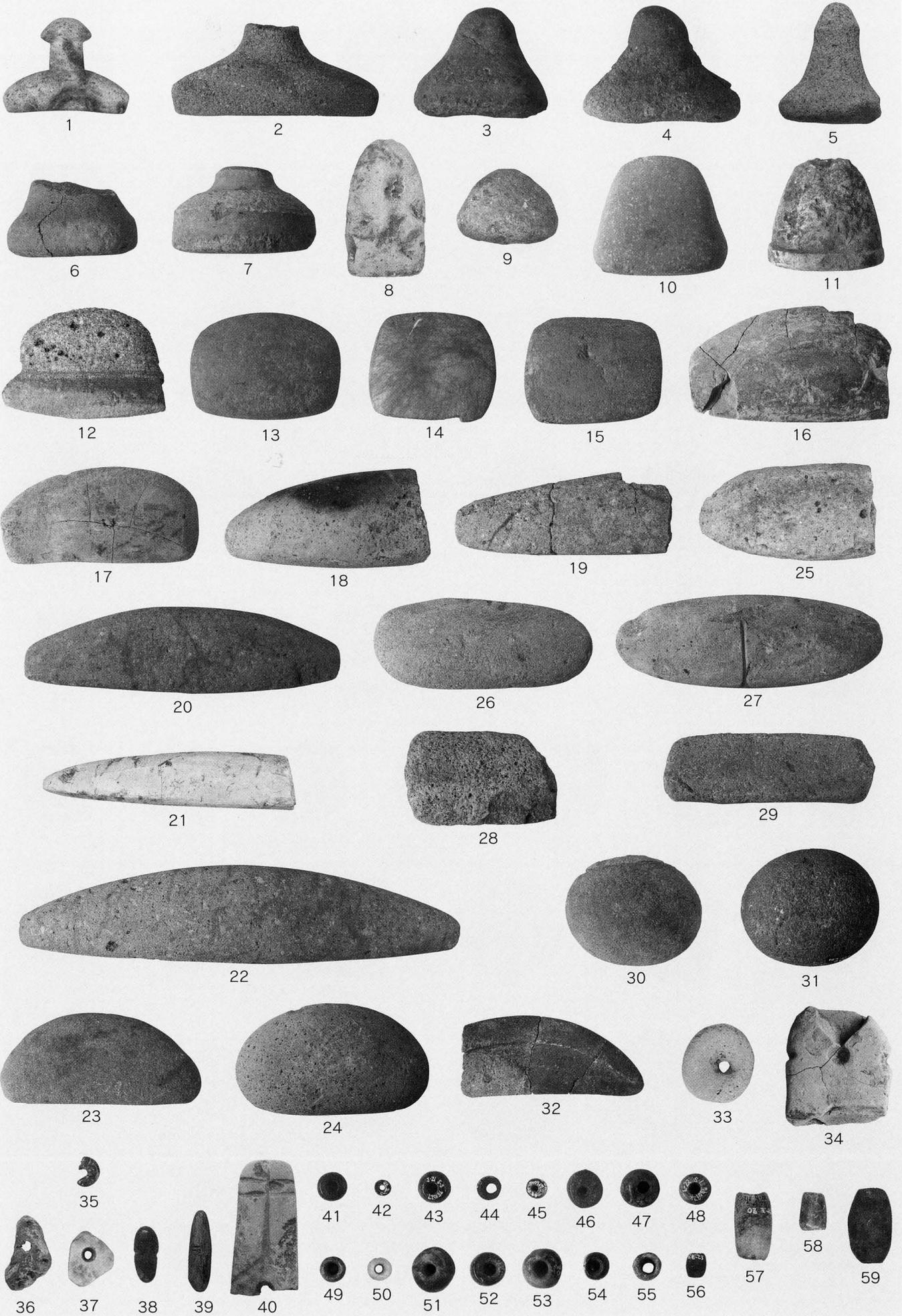
12



13







## 報告書抄録

ふりがな	おきょうづかいせき							
書名	御経塚遺跡Ⅳ							
副書名	兼 補遺編							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	吉田 淳							
編集機関	野々市町教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県石川郡野々市町字三納18街区1 Tel: 076-227-6122							
発行機関	野々市町教育委員会							
発行年月日	西暦 2009年10月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おきょうづかいせき 御経塚遺跡	ののいちまち 野々市町 おきょうづか 御経塚 1・2・4・5 丁目	17344	16027	36度 32分 35秒	136度 36分 10秒	19820430 ～ 19820603 19910415 ～ 19910610	295㎡  378㎡	資料館建設及び増築
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
御経塚遺跡	集落跡	縄文、弥生～古墳 初頭、古代		土坑、掘立柱建物、溝		土器、土製品、石器、石製品		
要約	<p>縄文時代後期中葉後半から晩期にかけて営まれた環状集落の縁辺部にあたる地区の調査で、土坑の検出が主体である。出土土器は晩期後半期が主体で集落内における該期の墓域とも想定される。御経塚4・5丁目地内にあたる国道8号東側で確認されている弥生時代終末～古墳時代初頭及び古代の集落分布域が本地区にも広がることが掘立柱建物や土坑の検出によって確認された。</p> <p>補遺編では、既調査報告書で未掲載であった縄文時代の遺物を収録し、土製品・石器・石製品の出土点数をまとめた。また、縄文時代の主要遺構の数量と、その概略変遷案を示した。</p>							

---

---

御経塚遺跡Ⅳ 兼 補遺編

発行日 2009年10月30日

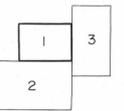
発行者 野々市町教育委員会  
〒921-8510 石川県石川郡野々市町三納18街区1  
電話 076-227-6122  
bunka@town.nonoichi.ishikawa.jp

印刷 (有)アサヒヤ印刷

---

---

# 御経塚遺跡遺構図 No.1 (ブナラシ・デト地区)



(国 道 8 号)

ブナラシ地区

デト地区

(史 跡 指 定 地)

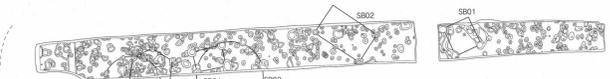
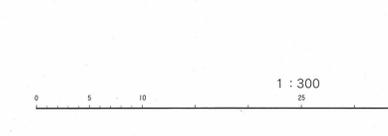
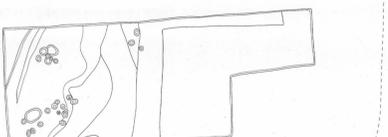
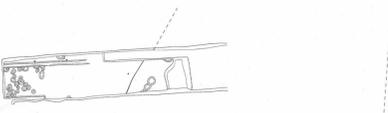
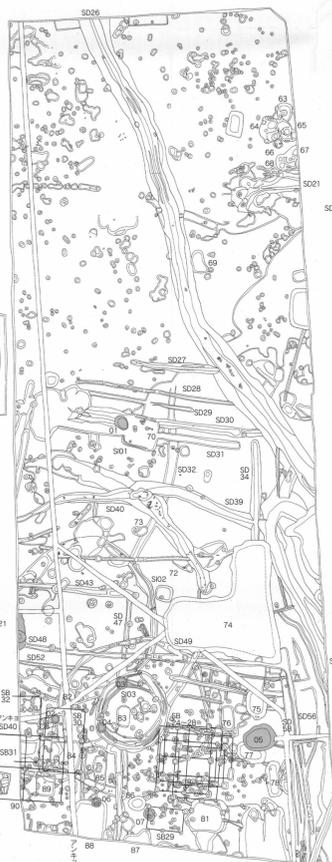
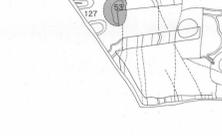
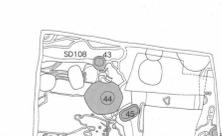
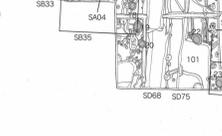
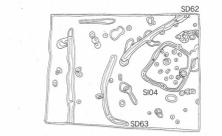
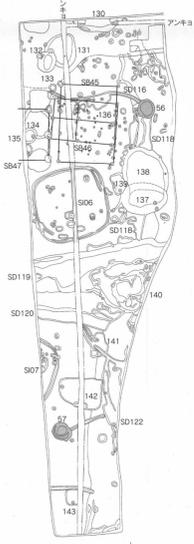
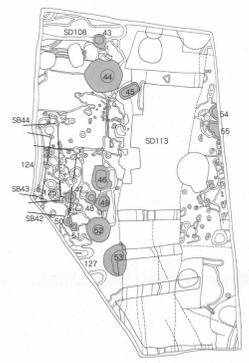
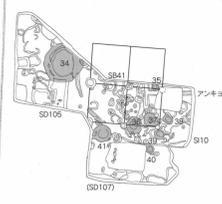
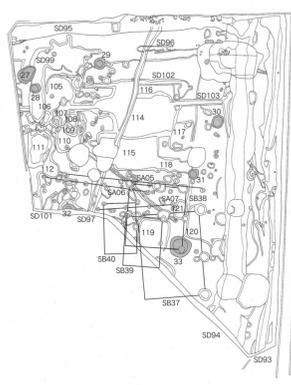
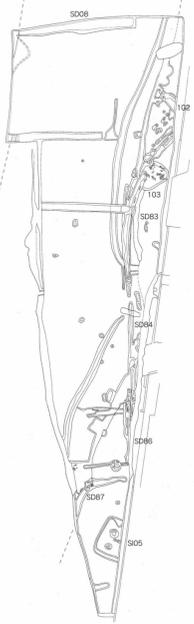


1 : 300

凡例  
住：竪穴建物 R：石囲炉 SB：掘立柱建物 SD：溝  
下記を除く遺構の時代は縄文時代である。  
SD01：古代、SD02：中世、SD03～11：時期不明

# 御経塚遺跡遺構図 No.2 (デト地区)

(史跡指定地)



凡例

SI : 竪穴建物 SB : 竪立柱建物 SA : 横列 SD : 溝  
 ●及び数字 : 井戸 数字 : 土坑

遺構の時代

縄文時代  
 SB01~05  
 土坑04・07・09・20・21~24・26~39・41~43・45・48・49・53・54・56~58・61~70・72・73・102・103

弥生時代末期  
 SB01~10 SB07・08・23  
 土坑01・02・03・08・91・96・97・136・143

古墳時代前期  
 SD01・02・26・39・40・49・62・63・87・97・116・122

古墳時代後期~古代  
 SB09・10・11・12・16・21・22 土坑44  
 SD05~07・10~13・21・22・32・44

中世後期  
 SB13~15・17~20・24~35・37~47 SA01~07  
 井戸02~29・31・34~41・56・57  
 土坑75~90・92~95・98~101・114~120・124・125・127・130~135・137~142  
 SD14・15~17・29~31・34・43・47・58・67・68・72・102・103・105・107・118~120

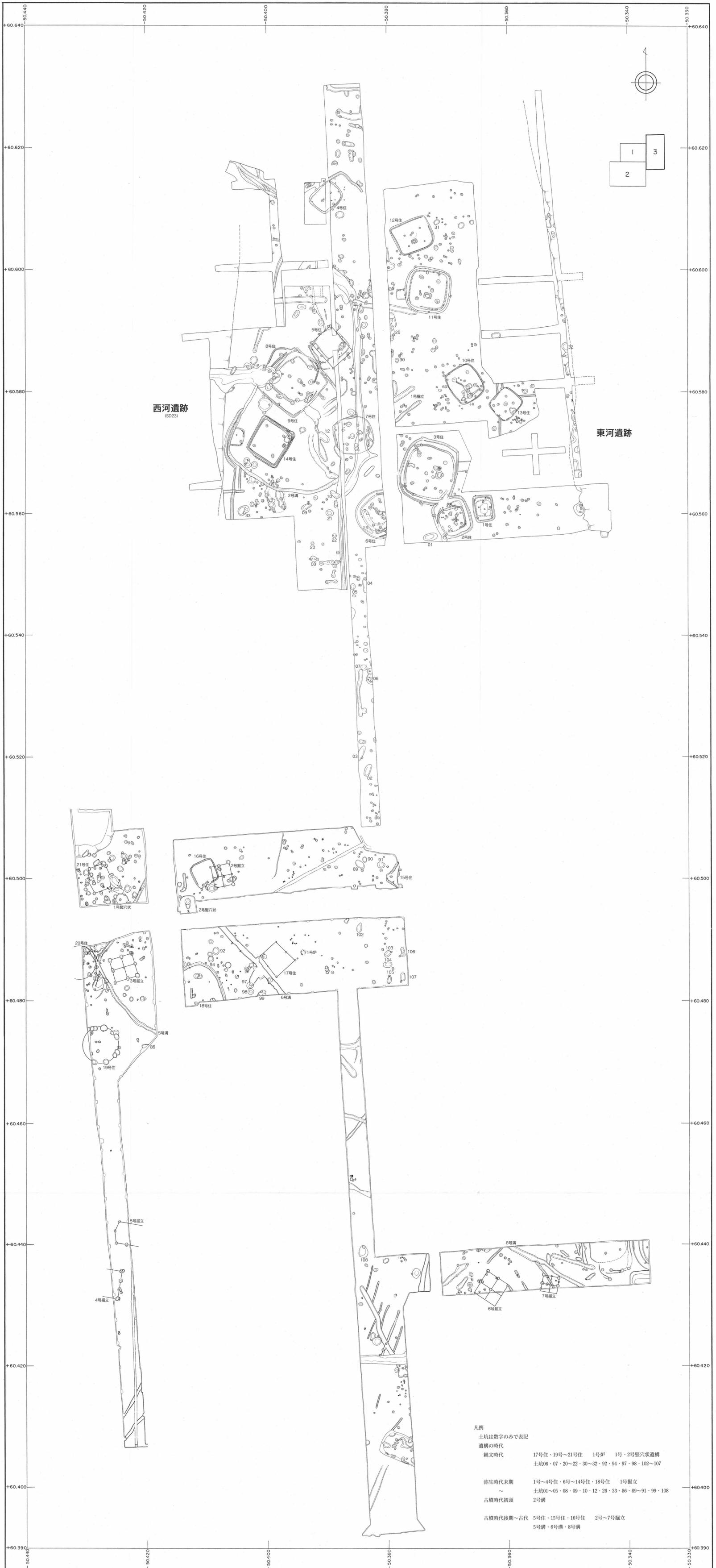
近世  
 SB36 井戸01・30・32・33・44・45・46・48・52・53  
 土坑104~112・121 SD27・28・48・52・56・57・83・84・86・89~91・94・99・101

近代以降  
 井戸43・47・49・50・51・54・55 土坑74 SD93・95・108・113

時期不明  
 SD08 (縄文時代後期中葉~弥生時代末期)



# 御経塚遺跡遺構図 No.3 (ツカダ地区)



西河遺跡  
(SD23)

東河遺跡

- 凡例  
 土坑は数字のみで表記  
 遺構の時代  
 縄文時代 17号住・19号～21号住 1号炉 1号・2号壑穴状遺構  
 土坑06・07・20～22・30～32・92・94・97・98・102～107  
 弥生時代末期 1号～4号住・6号～14号住・18号住 1号竪立  
 土坑01～05・08・09・10・12・26・33・86・89～91・99・108  
 古墳時代初期 2号溝  
 古墳時代後期～古代 5号住・15号住・16号住 2号～7号竪立  
 5号溝・6号溝・8号溝

1 : 300



